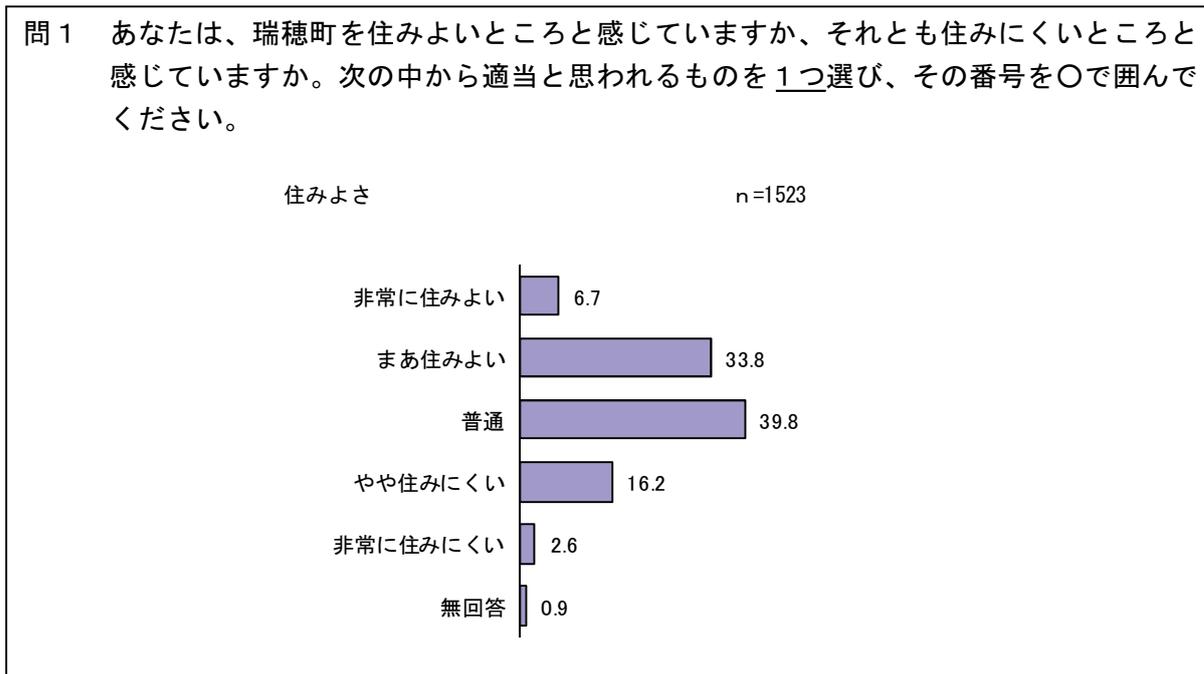

第 2 章 調査結果

1 瑞穂町の生活について

(1) 住みよさ



全体結果

町の住みよさは、「普通」が39.8%を占め最も多くなっている。「非常に住みよい」「まあ住みよい」という“住みよい”評価（合わせて40.5%）が、「やや住みにくい」「非常に住みにくい」という“住みにくい”評価（合わせて18.8%）を大きく上回っている。

なお、「普通」を“住みよい”に合わせると、80.3%の回答者がある程度満足している結果である。

属性別

住みよさを、上記の「住みよい」「普通」「住みにくい」に3区分して属性別に見てみる。

性別では、男女とも「住みよい」が「住みにくい」を上回るが、男性は、女性に比べ「住みよい」が5ポイント程度多く、また「住みにくい」も4ポイント下回っており、総じて住み良さを感じている割合が高い。

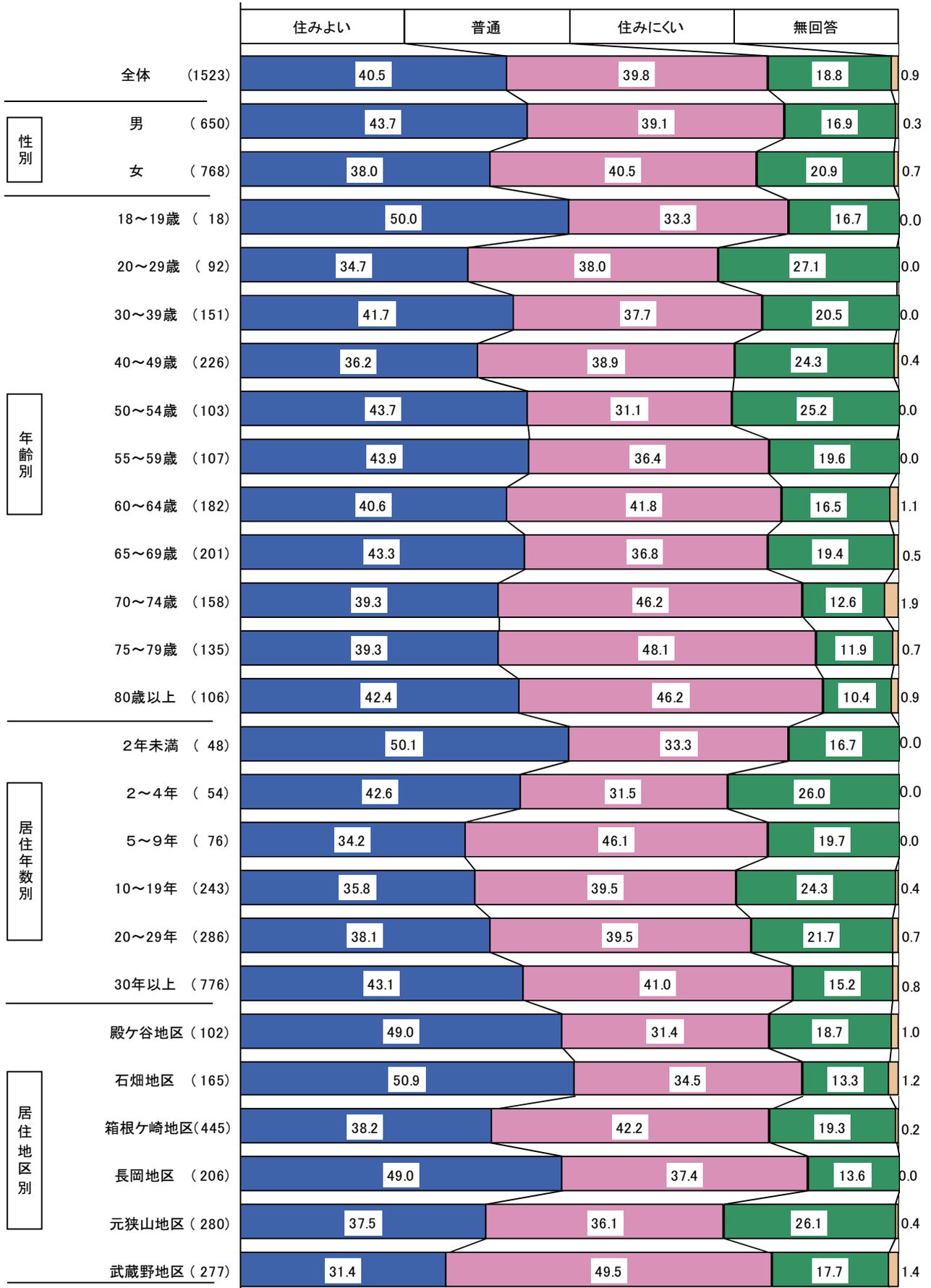
年齢別では、55歳以上で「普通」も合わせた住みよさ感が増し、それぞれ80%以上となっている。一方、「住みにくい」が「住みよい」を上回る年代はない結果となっている。

居住年数別では、住み始めて間もない「2年未満」の層と30年以上で「普通」も合わせた住みよい割合が多くなっているが、「2～4年」の層と「10～19年」の層は、他の居住年数層よりも「住みにくい」が多くなっている。

居住地区別に「普通」も合わせた住みよい割合を見ると、長岡地区が86.4%で最も高く、元狭山地区が73.6%で最も低い結果となっている。

住みよさ(性・年齢・居住年数・居住地区別)

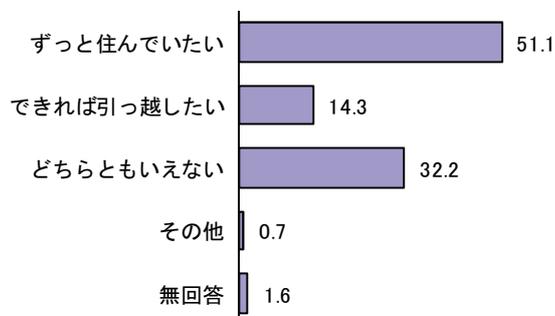
単位：%



(2) 定住意向

問2 あなたは、これからもずっと瑞穂町に住み続けたいと思いますか。それとも他のところへ移りたいと思いますか。次の中から適当と思われるものを1つ選び、その番号を○で囲んでください。

定住意向 n=1523



全体結果

これからも瑞穂町に住み続けたいかについてたずねたところ、「ずっと住んでいたい」が51.1%と半数を超え、「できれば引っ越したい」14.3%を大きく上回っている。

また、「どちらともいえない」が32.2%と3人に1人近く見られる。

属性別

性別の「ずっと住んでいたい」割合は、男性51.8%、女性49.6%と大きな差はない。

年齢別では、概ね年代が上がるほど「ずっと住んでいたい」割合が顕著に高くなる傾向がある。

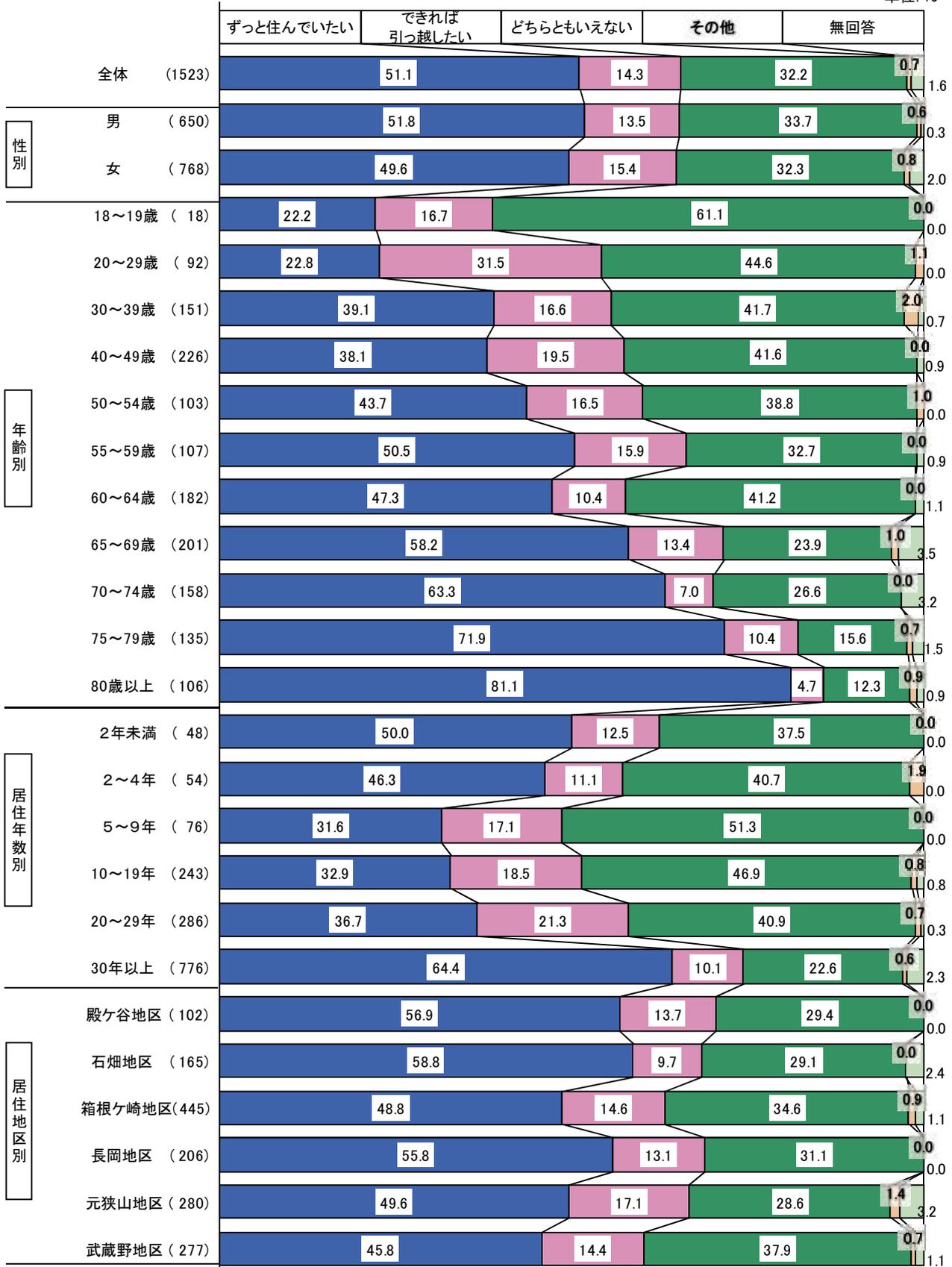
一方、「20～29歳」では「できれば引っ越したい」が「ずっと住んでいたい」を上回っている。

居住年数別では、「5～29年」では「できれば引っ越したい」の割合が2割前後となっており、他の居住年数総とは異なる傾向を示している。

居住地区別では、石畑を筆頭に殿ヶ谷、長岡の順で「ずっと住んでいたい」が概ね50%以上を占めるが、元狭山地区、箱根ヶ崎地区及び武蔵野地区では50%を割っている。

定住意向(性・年齢・居住年数・居住地区別)

単位: %

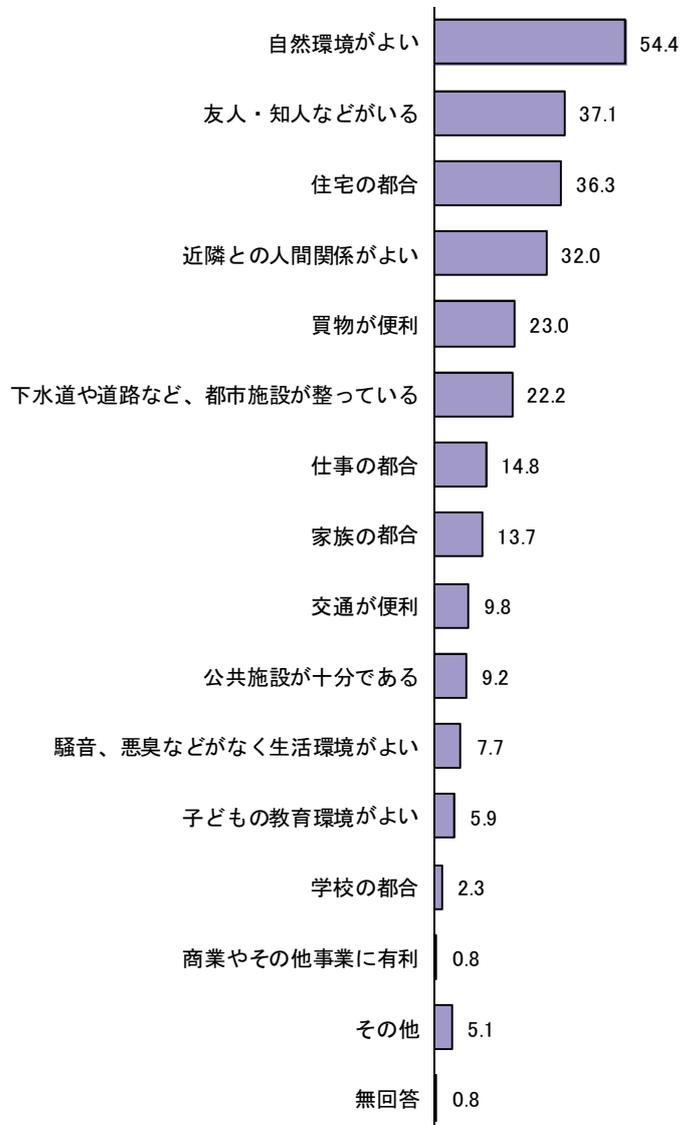


(3) 住み続けたい理由

問2-1 (問2で「1 ずっと住んでいたい」とお答えになった方だけ答えてください)
その理由は、主として次のどれに当てはまりますか。当てはまるものをすべて選
び、その番号を○で囲んでください。

住み続けたい理由

n=779



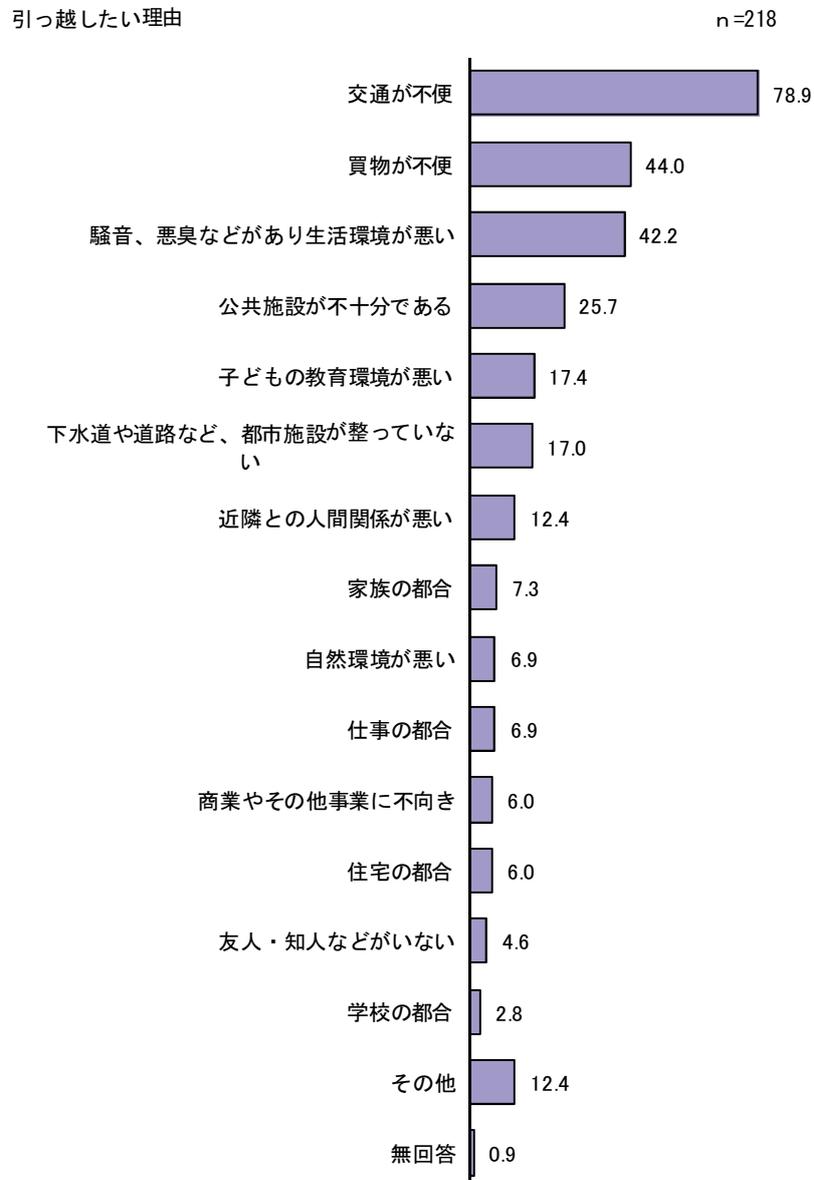
問2で「ずっと住んでいたい」と回答した人(779人)に、その理由をたずねた。

「自然環境がよい」が54.4%と過半数に達し、「友人・知人などがいる」「住宅の都合」がともに35%超、「近隣との人間関係がよい」32.0%などが多くあげられている。

自然環境のよさと、地域における人間関係のよさなどが大きな理由となっている。

(4) 引っ越したい理由

問2-2 (問2で「2 できれば引っ越したい」とお答えになった方だけ教えてください)
その理由は、主として次のどれに当てはまりますか。当てはまるものをすべて選
び、その番号を○で囲んでください。



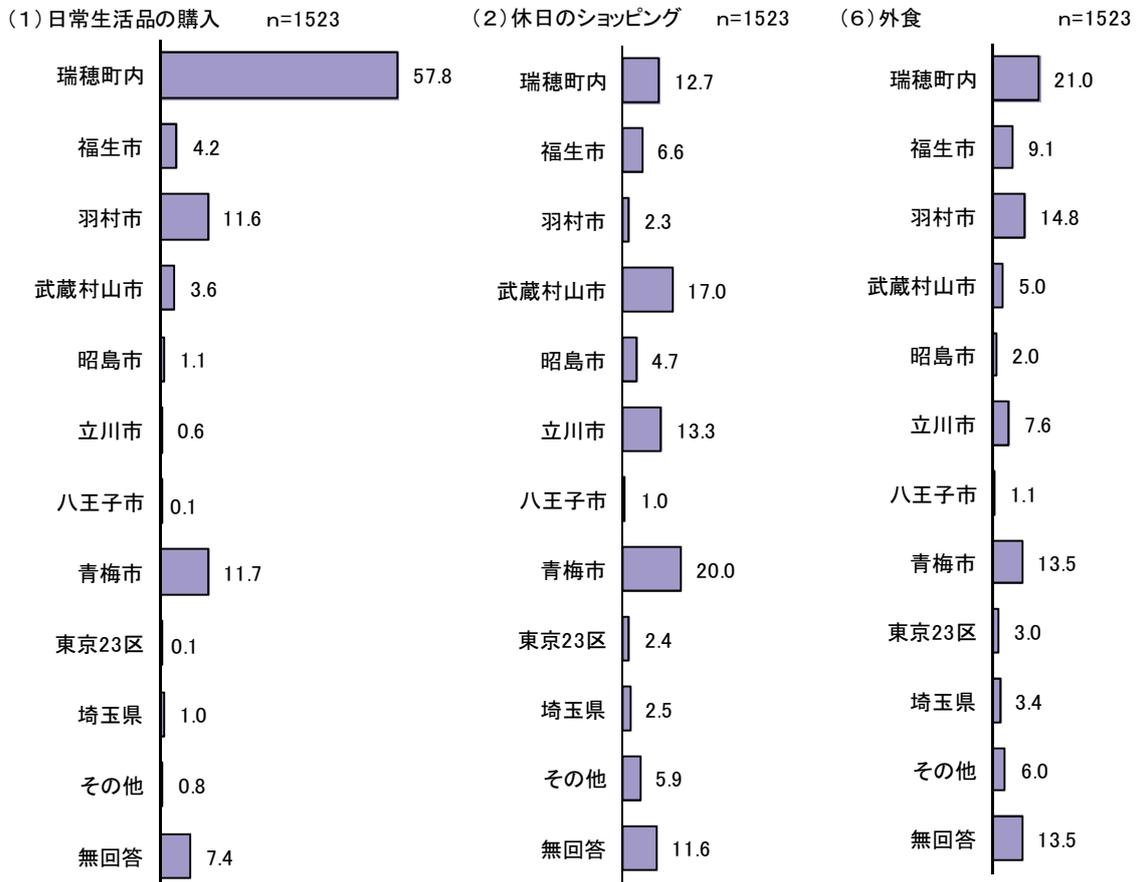
問2で「できれば引っ越したい」と回答した人(218人)に、その理由をたずねた。

「交通が不便」を78.9%の人があげ、最大の理由となっている。次いで、「買物が不便」44.0%、「騒音、悪臭などあり生活環境が悪い」42.2%、「公共施設が不十分である」25.7%などとなっている。

(5) 生活行動の場所

問3 以下のような行動をとる場合、あなたはどこへ出かけますか。(1)～(8)のそれぞれについて、もっともよく行くと思われる地域を1つずつ選び、その番号を○で囲んでください。

【買物・外食】



全体結果

日常生活品(食料品・家庭用品など)の購入は、「町内」が57.8%と約6割を占め、大きく開いて「青梅市」が11.7%、「羽村市」が11.6%となっている。

休日のショッピング(衣料品、電化製品など)は、「青梅市」、「武蔵村山市」、「立川市」、「町内」の順で、分散傾向にある。

外食については、「町内」が21.0%、次いで「羽村市」14.8%、「青梅市」13.5%などとなっている。

属性別

日常生活品の購入について職場・通学先別で見ると、町内勤務・通学者とともに埼玉県に通っている人でも「町内」が60%以上と多い。

居住地区別では、殿ヶ谷、石畑、元狭山地区で「町内」が70%台と特に多い。殿ヶ谷地区では「武蔵村山市」、長岡地区では「羽村市」「青梅市」、武蔵野地区では「福生市」「羽村市」がそれぞれやや多く見られる。

日常生活品の購入

区分		回答者数	瑞穂町内	福生市	羽村市	武蔵村山市	昭島市	立川市	八王子市	青梅市	東京23区	埼玉県	その他	無回答
全体		1523	57.8	4.2	11.6	3.6	1.1	0.6	0.1	11.7	0.1	1.0	0.8	7.4
職場・通学先別	自宅	156	62.8	0.6	9.6	2.6	0.0	0.6	0.6	12.2	0.0	0.0	1.3	9.6
	町内	238	56.3	1.7	12.2	4.2	0.4	0.0	0.0	16.8	0.0	1.3	0.4	6.7
	多摩地区市町村	364	50.3	6.0	16.2	5.2	1.6	1.1	0.3	11.5	0.3	1.4	1.1	4.9
	都内23区	56	57.1	5.4	14.3	3.6	0.0	1.8	0.0	10.7	1.8	0.0	1.8	3.6
	埼玉県	68	67.6	1.5	4.4	0.0	4.4	0.0	0.0	10.3	0.0	5.9	1.5	4.4
	通っていない(無職)	383	61.9	5.2	11.0	2.9	1.6	0.3	0.0	9.4	0.0	0.3	0.3	7.3
	その他	50	52.0	6.0	12.0	6.0	0.0	0.0	0.0	16.0	0.0	0.0	0.0	8.0
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	70.6	0.0	0.0	17.6	2.9	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	5.9
	石畑地区	165	72.7	0.0	1.8	7.3	1.2	0.0	0.0	4.2	0.0	0.6	2.4	9.7
	箱根ヶ崎地区	445	62.0	1.6	13.5	3.1	1.3	0.7	0.4	10.6	0.0	0.4	0.2	6.1
	長岡地区	206	33.5	1.5	16.5	1.0	0.5	1.0	0.0	36.9	1.0	1.0	1.0	6.3
	元狭山地区	280	72.9	0.0	2.5	1.1	0.7	0.4	0.0	13.2	0.0	2.9	0.0	6.4
	武蔵野地区	277	40.8	19.1	24.5	1.4	0.7	1.1	0.0	2.5	0.0	0.4	1.8	7.6

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

休日のショッピングについて職場・通学先別に見ると、多摩地区市町村に通っている人で「武蔵村山市」が20%強、東京23区に通っている人は「東京23区」及び「立川市」が約20%、埼玉県に通っている人で「青梅市」が25%、町内に通っている人は「青梅市」が多くなっている。

居住地区別では、殿ヶ谷、石畑地区では「武蔵村山市」が、長岡、元狭山地区では「青梅市」が、箱根ヶ崎地区では「武蔵村山市」と「青梅市」が比較的多く、武蔵野地区では「福生市」がやや多くなっている。

休日のショッピング

区分		回答者数	瑞穂町内	福生市	羽村市	武蔵村山市	昭島市	立川市	八王子市	青梅市	東京23区	埼玉県	その他	無回答
全体		1523	12.7	6.6	2.3	17.0	4.7	13.3	1.0	20.0	2.4	2.5	5.9	11.6
職場・通学先別	自宅	156	17.3	7.1	0.0	14.1	3.8	7.7	1.3	23.1	1.9	3.2	5.8	14.7
	町内	238	9.2	4.2	1.3	21.0	5.0	14.3	0.4	22.7	0.4	3.8	7.6	10.1
	多摩地区市町村	364	8.5	6.0	2.2	22.3	5.2	14.6	1.4	18.7	3.8	3.3	7.1	6.9
	都内23区	56	8.9	7.1	0.0	12.5	3.6	19.6	1.8	12.5	19.6	7.1	1.8	5.4
	埼玉県	68	20.6	0.0	1.5	14.7	2.9	8.8	0.0	25.0	2.9	4.4	11.8	7.4
	通っていない(無職)	383	14.6	9.9	4.7	13.8	5.0	13.3	1.0	18.8	0.3	0.8	4.4	13.3
	その他	50	14.0	4.0	4.0	20.0	2.0	8.0	2.0	32.0	2.0	0.0	2.0	10.0
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	12.7	2.9	1.0	32.4	4.9	16.7	0.0	6.9	2.0	2.0	4.9	13.7
	石畑地区	165	15.8	1.8	2.4	24.8	9.1	13.3	2.4	9.7	2.4	3.0	1.8	13.3
	箱根ヶ崎地区	445	14.6	5.4	1.8	18.9	4.5	16.0	1.1	17.5	1.8	1.3	6.3	10.8
	長岡地区	206	9.2	1.0	3.9	10.2	3.9	12.6	0.5	39.8	2.4	2.9	5.8	7.8
	元狭山地区	280	15.4	0.7	2.1	14.6	1.8	10.4	0.7	30.7	2.9	5.7	4.3	10.7
	武蔵野地区	277	7.6	23.5	2.5	11.6	5.8	12.3	0.4	12.3	2.5	1.1	9.7	10.8

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

外食については、職場・通学先別では、自宅、及び町内に通っている人は「町内」、都内 23 区に通っている人は「東京 23 区」、埼玉県に通っている人は「青梅市」、「町内」、「埼玉県」及び「その他」が多くなっている。

居住地区別では、殿ヶ谷、石畑地区は「町内」が目立つとともに、「武蔵村山市」が比較的多い。長岡地区では「青梅市」が、武蔵野地区では「福生市」「羽村市」が多くなっている。

外食

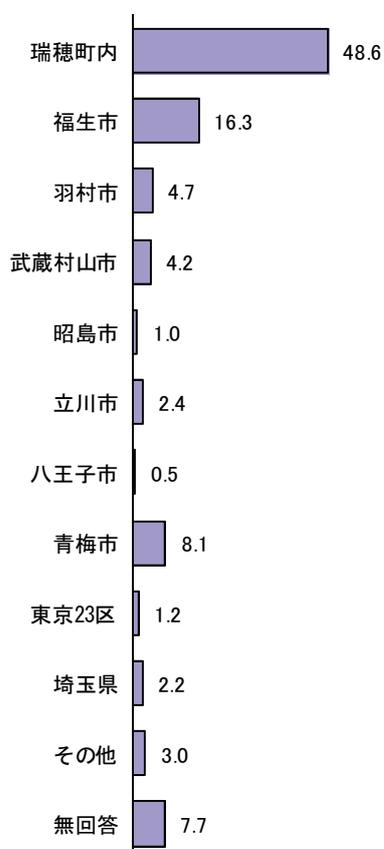
区分		回答者数	瑞穂町内	福生市	羽村市	武蔵村山市	昭島市	立川市	八王子市	青梅市	東京 23 区	埼玉県	その他	無回答
全体		1523	21.0	9.1	14.8	5.0	2.0	7.6	1.1	13.5	3.0	3.4	6.0	13.5
職場・通学先別	自宅	156	24.4	8.3	9.0	4.5	1.3	4.5	3.2	14.7	1.3	2.6	7.1	19.2
	町内	238	20.6	4.6	18.5	7.1	2.5	7.1	0.8	17.6	2.1	4.6	5.9	8.4
	多摩地区市町村	364	15.4	11.5	16.2	6.9	3.6	11.8	0.8	14.3	3.3	3.6	6.0	6.6
	都内 23 区	56	10.7	7.1	17.9	1.8	1.8	10.7	0.0	8.9	23.2	0.0	8.9	8.9
	埼玉県	68	17.6	5.9	10.3	4.4	0.0	4.4	0.0	19.1	2.9	11.8	11.8	11.8
	通っていない(無職)	383	27.7	10.7	14.4	3.1	1.6	6.5	0.8	11.0	1.6	2.6	3.9	16.2
	その他	50	16.0	4.0	16.0	10.0	0.0	6.0	2.0	22.0	0.0	4.0	12.0	8.0
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	32.4	3.9	2.9	14.7	5.9	6.9	2.0	5.9	3.9	2.0	5.9	13.7
	石畑地区	165	27.3	6.1	7.3	10.3	3.6	6.7	0.6	10.3	3.6	0.6	4.8	18.8
	箱根ヶ崎地区	445	23.6	7.0	14.6	4.3	1.3	8.5	1.1	13.3	3.4	4.0	6.3	12.6
	長岡地区	206	17.0	4.4	17.5	1.9	0.5	5.3	1.5	31.6	1.9	0.5	6.8	11.2
	元狭山地区	280	25.0	5.0	11.1	4.3	1.4	8.6	1.1	14.3	3.2	8.2	5.7	12.1
	武蔵野地区	277	8.7	23.8	26.4	2.5	2.5	7.9	0.4	6.5	2.2	2.2	5.8	11.2

※網かけは全体より 5 ポイント以上多いもの。

【医療】

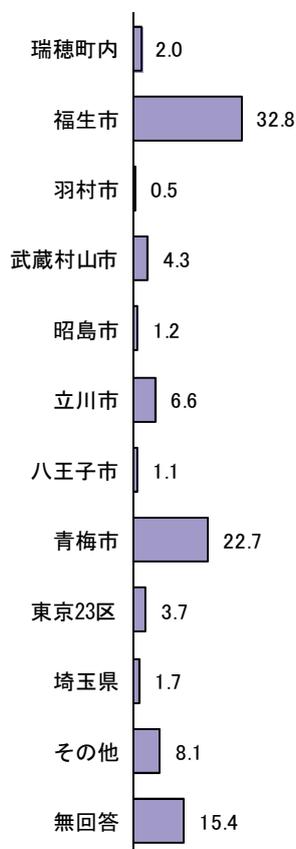
(3) 診療(通院)

n=1523



(4) 入院や手術

n=1523



全体結果

診療(通院)については、「町内」が48.6%を占め、差が開いて「福生市」16.3%、「青梅市」8.1%となっている。

入院や手術については、「福生市」32.8%、「青梅市」22.7%が多くなっている。

属性別

診療(通院)について職場・通学先別に見ると、いずれも「町内」が最も多いが、都内23区に通っている人では職場・通学先(都内23区)での通院がやや目立つ。

居住地区別では、いずれの地区も「町内」が多いが、箱根ヶ崎地区、長岡地区及び元狭山地区では「町内」が半数を超え、殿ヶ谷地区や石畑地区も半数近くとなっている。

なお、町外の診療(通院)先では、殿ヶ谷地区では「武蔵村山市」が、長岡地区では「青梅市」が、元狭山地区では「福生市」、「青梅市」及び「埼玉県」が、武蔵野地区では「福生市」が多い。

診療(通院)

区分		回答者数	瑞穂町内	福生市	羽村市	武蔵村山市	昭島市	立川市	八王子市	青梅市	東京23区	埼玉県	その他	無回答
全体		1523	48.6	16.3	4.7	4.2	1.0	2.4	0.5	8.1	1.2	2.2	3.0	7.7
職場・通学先別	自宅	156	51.9	13.5	5.1	2.6	3.2	1.3	0.0	7.7	1.3	2.6	1.3	9.6
	町内	238	54.2	15.1	5.9	3.8	0.8	1.3	0.0	8.8	0.8	2.5	0.8	5.9
	多摩地区市町村	364	43.1	17.6	6.6	4.9	1.6	3.6	1.1	9.3	1.6	1.6	4.4	4.4
	都内23区	56	37.5	12.5	8.9	3.6	0.0	1.8	0.0	10.7	10.7	1.8	7.1	5.4
	埼玉県	68	52.9	11.8	4.4	4.4	0.0	4.4	0.0	5.9	0.0	4.4	4.4	7.4
	通っていない(無職)	383	52.0	17.2	2.6	5.0	0.0	2.1	0.8	7.8	0.3	1.6	2.1	8.6
	その他	50	44.0	10.0	6.0	8.0	0.0	2.0	2.0	10.0	0.0	6.0	4.0	8.0
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	46.1	4.9	0.0	25.5	1.0	4.9	0.0	2.9	2.0	0.0	4.9	7.8
	石畑地区	165	46.1	15.2	3.0	9.1	1.8	3.6	0.6	4.2	0.6	1.8	3.0	10.9
	箱根ヶ崎地区	445	53.3	15.1	5.4	2.2	1.8	3.1	0.9	7.6	1.1	0.7	2.2	6.5
	長岡地区	206	54.4	7.8	6.8	0.0	1.0	1.5	1.0	18.0	1.5	0.5	1.9	5.8
	元狭山地区	280	51.8	11.4	1.1	3.6	0.0	1.8	0.0	9.6	0.7	8.2	3.9	7.9
	武蔵野地区	277	37.9	35.0	9.0	0.4	0.4	0.7	0.4	5.1	1.4	1.1	2.5	6.1

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

入院や手術について職場・通学先別に見ると、いずれも「青梅市」「福生市」が多いものの、都内23区に通っている人では職場・通学先での入院等がやや目立つ。

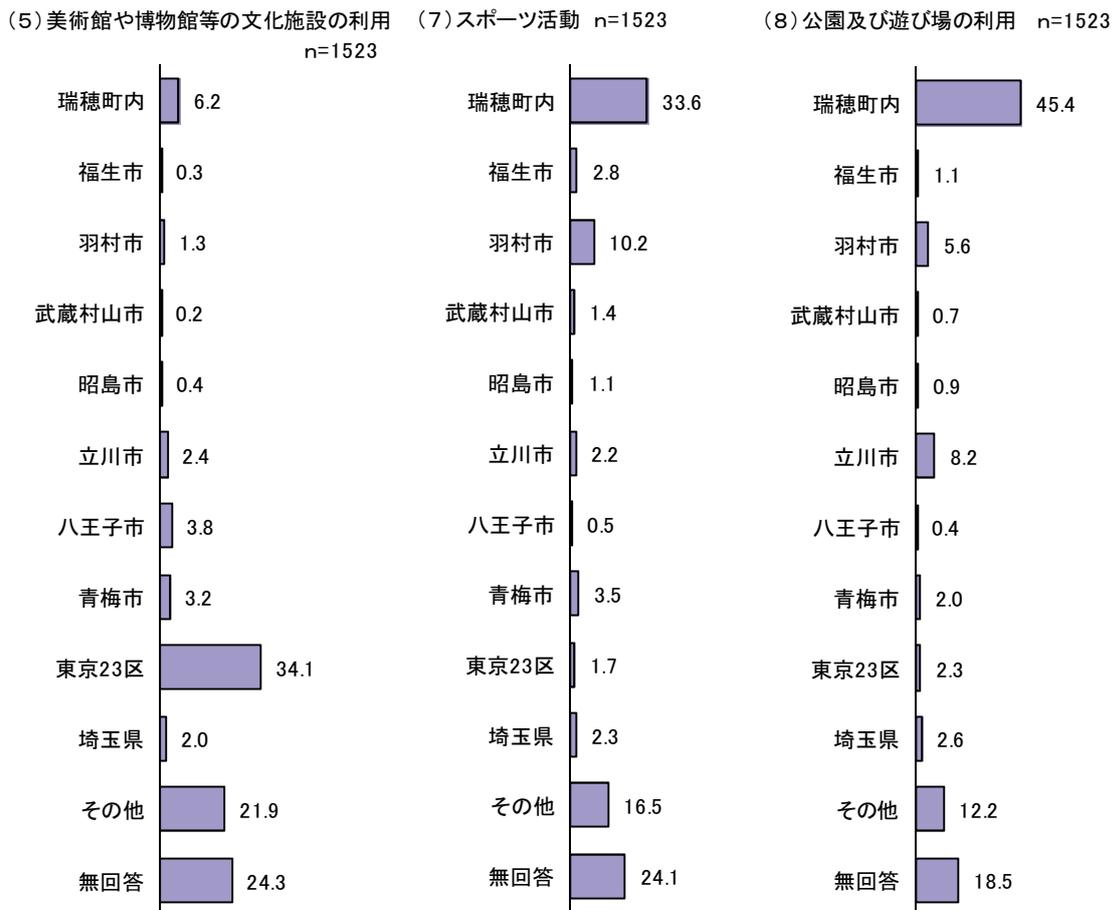
居住地区別に見ると、長岡地区と元狭山では「青梅市」が最も多く、箱根ヶ崎地区及び武蔵野地区では「福生市」が多くなっている。

入院や手術

区分		回答者数	瑞穂町内	福生市	羽村市	武蔵村山市	昭島市	立川市	八王子市	青梅市	東京23区	埼玉県	その他	無回答
全体		1523	2.0	32.8	0.5	4.3	1.2	6.6	1.1	22.7	3.7	1.7	8.1	15.4
職場・通学先別	自宅	156	3.8	34.0	0.0	1.9	2.6	5.8	0.6	23.1	3.8	1.9	4.5	17.9
	町内	238	1.7	31.5	0.0	5.0	2.1	6.7	0.4	26.5	2.9	2.5	8.0	12.6
	多摩地区市町村	364	1.1	34.1	0.5	4.4	0.8	8.0	1.6	26.1	4.4	0.5	9.9	8.5
	都内23区	56	7.1	26.8	0.0	3.6	0.0	5.4	0.0	19.6	16.1	3.6	8.9	8.9
	埼玉県	68	4.4	23.5	0.0	4.4	4.4	7.4	2.9	22.1	2.9	2.9	11.8	13.2
	通っていない(無職)	383	1.3	35.5	0.5	4.2	0.0	6.5	1.3	23.0	2.6	1.3	6.5	17.2
	その他	50	4.0	18.0	2.0	6.0	0.0	6.0	0.0	20.0	2.0	4.0	14.0	24.0
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	2.9	15.7	1.0	13.7	2.0	12.7	1.0	12.7	6.9	0.0	10.8	20.6
	石畑地区	165	3.0	32.1	0.0	9.1	0.6	5.5	0.6	13.3	3.6	3.0	9.7	19.4
	箱根ヶ崎地区	445	1.6	37.1	0.2	3.8	1.1	8.5	1.1	20.7	3.6	0.9	9.0	12.4
	長岡地区	206	0.5	21.4	0.0	0.0	0.5	5.3	1.5	46.1	2.9	1.5	6.8	13.6
	元狭山地区	280	2.9	23.6	0.0	5.4	1.4	4.6	1.1	27.9	4.6	4.3	7.9	16.4
	武蔵野地区	277	1.8	52.0	1.4	0.4	1.4	4.7	1.4	14.4	2.5	0.7	5.4	13.7

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

【文化・スポーツ活動等】



全体結果

美術館や博物館等の文化施設の利用については、「東京23区」が34.1%を占め最も多くなっている。

スポーツ活動については、「町内」が33.6%、次いで「羽村市」10.2%となっている。

公園及び遊び場の利用については、「町内」が45.4%を占め最も多く、ほかに「羽村市」や「立川市」がやや多い。

属性別

美術館や博物館等の文化施設の利用について職場・通学先別に見ると、いずれも「東京23区」が最も多いが、都内23区に通っている人では71.4%に達している。

居住地区別では、いずれの地区も「東京23区」が3人に1人程度となっている。

美術館や博物館等の文化施設の利用

区分		回答者数	瑞穂町内	福生市	羽村市	武蔵村山市	昭島市	立川市	八王子市	青梅市	東京23区	埼玉県	その他	無回答
全体		1523	6.2	0.3	1.3	0.2	0.4	2.4	3.8	3.2	34.1	2.0	21.9	24.3
職場・通学先別	自宅	156	6.4	1.3	1.9	0.0	0.0	1.3	1.9	1.9	28.2	1.9	19.9	35.3
	町内	238	3.8	0.4	1.3	0.4	0.4	1.7	2.5	2.9	37.8	2.1	27.7	18.9
	多摩地区市町村	364	4.9	0.3	2.5	0.5	0.8	2.7	4.7	4.7	37.9	2.2	28.0	10.7
	都内23区	56	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	1.8	1.8	71.4	1.8	14.3	5.4
	埼玉県	68	7.4	1.5	0.0	0.0	0.0	4.4	4.4	2.9	33.8	2.9	17.6	25.0
	通っていない(無職)	383	9.7	0.0	0.3	0.0	0.3	2.9	4.2	3.1	29.8	2.1	16.7	31.1
	その他	50	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	6.0	2.0	28.0	2.0	36.0	22.0
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	7.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	6.9	2.0	27.5	0.0	29.4	22.5
	石畑地区	165	4.8	0.0	0.6	0.0	0.0	3.0	6.1	1.8	34.5	1.2	13.9	33.9
	箱根ヶ崎地区	445	7.0	0.4	0.9	0.2	0.0	2.2	3.6	1.8	40.2	1.1	21.6	20.9
	長岡地区	206	3.9	0.0	3.9	0.0	0.5	1.0	2.4	5.3	31.6	0.5	28.2	22.8
	元狭山地区	280	7.9	0.7	1.4	0.4	1.1	2.1	2.9	3.2	30.7	6.8	18.2	24.6
	武蔵野地区	277	5.4	0.4	0.7	0.0	0.7	2.5	3.6	4.3	35.0	0.7	24.5	22.0

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

スポーツ活動について職場・通学先別に見ると、町内や自宅に通っている人は「町内」が多く、多摩地区市町村に通っている人は「町内」に次いで「羽村市」がやや多く見られる。

居住地区別では、いずれの地区も「町内」が最も多い。また、長岡地区及び武蔵野地区では「羽村市」が目立つ。

スポーツ活動

区分		回答者数	瑞穂町内	福生市	羽村市	武蔵村山市	昭島市	立川市	八王子市	青梅市	東京23区	埼玉県	その他	無回答
全体		1523	33.6	2.8	10.2	1.4	1.1	2.2	0.5	3.5	1.7	2.3	16.5	24.1
職場・通学先別	自宅	156	39.1	2.6	7.7	0.6	0.6	1.3	0.0	2.6	1.3	2.6	12.2	29.5
	町内	238	38.2	3.8	11.3	0.8	0.8	4.6	0.8	2.1	1.7	0.8	18.1	16.8
	多摩地区市町村	364	30.2	3.3	16.5	1.4	2.2	3.8	0.8	4.4	2.2	2.7	18.1	14.3
	都内23区	56	25.0	3.6	3.6	3.6	1.8	1.8	0.0	3.6	12.5	7.1	26.8	10.7
	埼玉県	68	26.5	5.9	8.8	0.0	0.0	1.5	0.0	5.9	2.9	7.4	25.0	16.2
	通っていない(無職)	383	38.6	1.0	7.0	2.3	0.8	0.5	0.3	3.9	0.5	1.3	14.9	28.7
	その他	50	28.0	2.0	12.0	2.0	0.0	2.0	0.0	4.0	0.0	4.0	22.0	24.0
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	37.3	1.0	2.9	2.9	1.0	1.0	0.0	3.9	2.0	1.0	20.6	26.5
	石畑地区	165	33.3	0.0	7.3	2.4	1.8	3.0	0.0	3.6	3.6	1.8	14.5	28.5
	箱根ヶ崎地区	445	36.4	1.8	11.0	1.1	1.1	2.5	1.3	2.5	1.6	1.6	16.9	22.2
	長岡地区	206	35.4	2.4	14.6	0.0	0.5	1.5	0.0	6.3	0.0	2.4	17.5	19.4
	元狭山地区	280	34.6	3.2	7.1	2.5	1.8	2.9	0.0	3.2	2.5	5.0	12.9	24.3
	武蔵野地区	277	27.1	6.9	13.4	1.1	0.7	2.2	0.0	3.6	0.7	1.4	19.1	23.8

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

公園及び遊び場の利用について職場・通学先別に見ると、いずれも「町内」が最も多いが、多摩地区市町村では「立川市」と「その他」が、都内23区では「東京23区」と「その他」が、埼玉県では「その他」がやや目立つ。

居住地区別では、いずれの地区も「町内」が最も多いが、殿ヶ谷地区と石畑地区では「立川市」がやや目立つ。

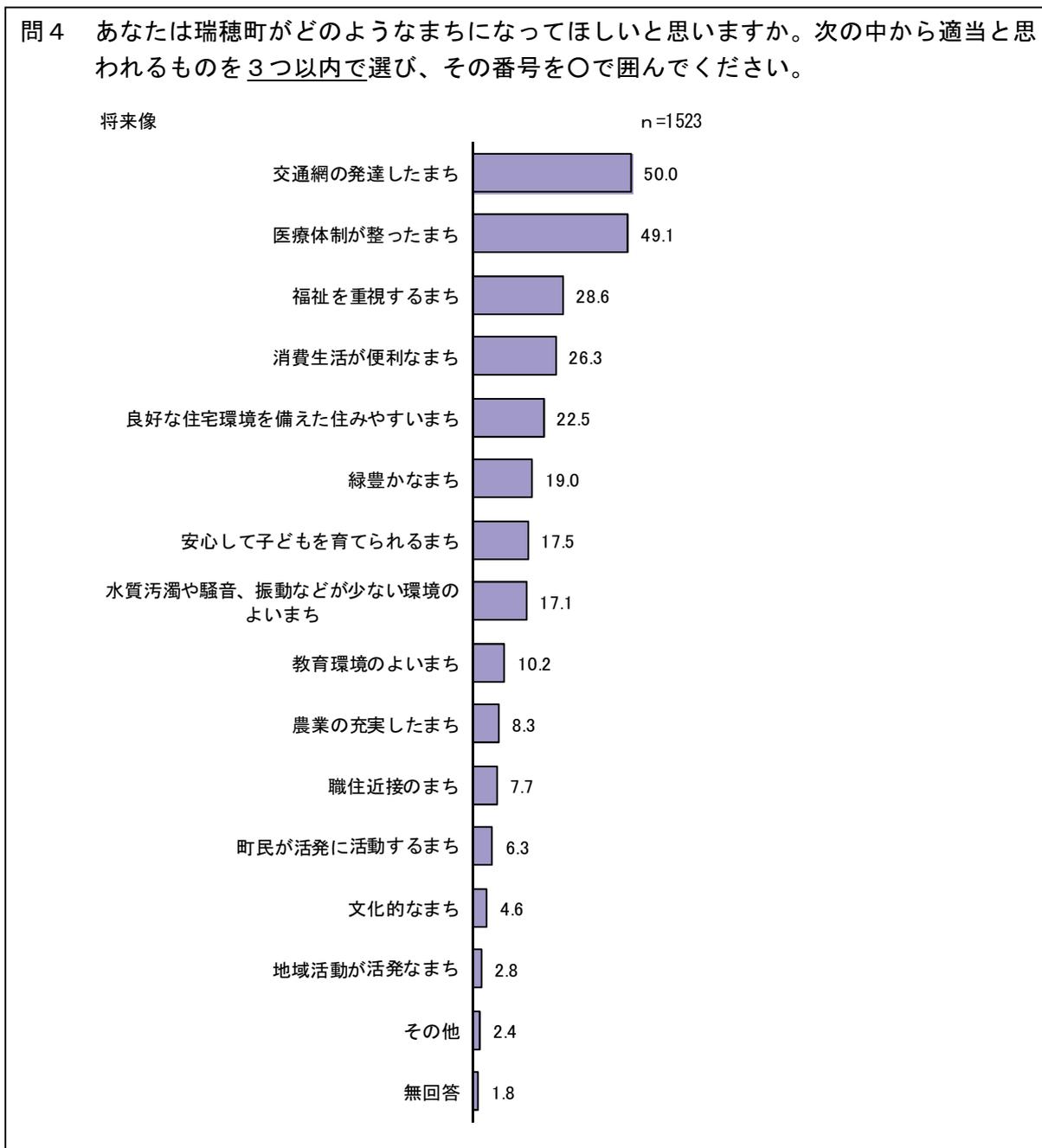
公園及び遊び場の利用

区分		回答者数	瑞穂町内	福生市	羽村市	武蔵村山市	昭島市	立川市	八王子市	青梅市	東京23区	埼玉県	その他	無回答
全体		1523	45.4	1.1	5.6	0.7	0.9	8.2	0.4	2.0	2.3	2.6	12.2	18.5
職場・通学先別	自宅	156	44.2	1.3	3.8	1.3	1.3	8.3	0.0	2.6	0.6	1.3	9.6	25.6
	町内	238	46.6	0.0	6.7	0.4	0.4	9.7	0.4	2.5	1.7	3.8	14.3	13.4
	多摩地区市町村	364	41.8	1.6	9.3	0.8	0.8	10.2	1.4	3.3	2.5	4.4	15.7	8.2
	都内23区	56	39.3	0.0	3.6	1.8	0.0	12.5	0.0	0.0	10.7	3.6	19.6	8.9
	埼玉県	68	47.1	0.0	1.5	0.0	1.5	7.4	0.0	2.9	1.5	4.4	17.6	16.2
	通っていない(無職)	383	52.7	0.8	3.9	0.3	0.8	5.5	0.0	1.6	1.8	1.0	9.4	22.2
	その他	50	42.0	2.0	8.0	2.0	2.0	12.0	0.0	2.0	2.0	0.0	8.0	20.0
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	42.2	0.0	2.0	3.9	1.0	10.8	1.0	2.0	2.0	2.0	16.7	16.7
	石畑地区	165	38.8	0.6	3.0	1.8	0.6	12.7	0.0	1.2	1.8	3.6	10.9	24.8
	箱根ヶ崎地区	445	49.7	0.9	6.3	0.4	0.4	7.9	0.9	1.8	3.4	1.8	10.6	16.0
	長岡地区	206	48.5	0.0	8.7	0.0	1.0	5.3	0.0	3.4	1.0	1.9	15.5	14.6
	元狭山地区	280	43.9	0.7	2.9	0.4	1.4	7.9	0.0	3.2	1.8	5.4	10.7	21.8
	武蔵野地区	277	45.5	2.9	8.7	0.4	1.1	8.3	0.4	1.1	2.2	1.1	13.0	15.5

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

2 瑞穂町の将来像や現状の評価について

(1) 将来像



全体結果

瑞穂町がどのような町になってほしいかたずねた。「道路や鉄道などの交通網の発達したまち」が最も多く 50.0%、次いで「病院や診療所など医療体制が整ったまち」が 49.1%と続き、この2項目がともに 50%前後で特に多くあげられている。やや差が開いて、「高齢者や障がいのある人のための施設や生活環境の整った福祉を重視するまち」「商業や流通機能が整備され、消費生活が便利なまち」「良好な住宅環境を備えた住みやすいまち」が 20%台、「公園や緑地、街路樹などが整備された緑豊かなまち」が 20%弱となっている。

属性別

性別では、「良好な住宅環境を備えた住みやすいまち」で男性の回答が女性に比べて比較的多く、「遊び場や施設が整備され、安心して子どもを育てられるまち」で女性の回答が男性に比べて比較的多くなっている。

年齢別には「道路や鉄道などの交通網の発達したまち」は80歳以上を除き、各年齢層で1～2位にランクされている。

「病院や診療所など医療体制が整ったまち」は40歳代から概ね過半数に達する。また、「高齢者や障がいのある人のための施設や生活環境の整った福祉を重視するまち」は65歳以上で特に多い。

若い世代での特徴としては、18～19歳では、「公園や緑地、街路樹などが整備された緑豊かなまち」、「ボランティア活動やスポーツ活動など町民が活発に活動するまち」が、30歳代では「遊び場や施設が整備され、安心して子どもを育てられるまち」が、20歳代を除く40歳代以下で「学校施設や生涯学習施設などが整備された教育環境のよいまち」がそれぞれ、ほかに比べ目立つ。

区分		回答者数	職住近接のまち	交通網の発達したまち	消費生活が便利なまち	良好な住宅環境を備えた住みやすいまち	安心して子どもを育てられるまち	農業の充実したまち	緑豊かなまち	文化的なまち	教育環境のよいまち	地域活動が活発なまち	医療体制が整ったまち	福祉を重視するまち
全体		1523	7.7	50.0	26.3	22.5	17.5	8.3	19.0	4.6	10.2	2.8	49.1	28.6
性別	男	650	10.2	51.2	25.1	25.7	14.3	8.9	21.7	4.9	8.5	2.9	46.5	26.3
	女	768	5.5	51.0	26.4	19.5	20.4	7.7	16.1	4.6	11.7	2.2	53.6	30.9
年齢別	18～19歳	18	5.6	61.1	5.6	33.3	33.3	11.1	33.3	0.0	11.1	0.0	16.7	22.2
	20～29歳	92	7.6	57.6	26.1	27.2	34.8	9.8	25.0	2.2	9.8	1.1	31.5	8.7
	30～39歳	151	7.9	53.6	20.5	23.8	41.7	10.6	16.6	9.9	15.9	0.7	43.0	15.2
	40～49歳	226	5.8	58.8	34.5	20.4	23.5	6.6	18.6	4.9	10.6	0.4	50.0	18.1
	50～54歳	103	8.7	57.3	32.0	23.3	8.7	4.9	20.4	4.9	12.6	1.0	53.4	25.2
	55～59歳	107	10.3	49.5	20.6	34.6	10.3	10.3	20.6	0.0	9.3	2.8	46.7	32.7
	60～64歳	182	6.6	54.9	26.4	23.1	18.1	10.4	13.7	6.0	11.5	1.6	56.0	31.3
	65～69歳	201	5.0	46.8	21.4	24.9	11.9	6.0	21.4	5.0	11.9	6.0	49.8	34.8
	70～74歳	158	6.3	42.4	23.4	17.1	10.8	8.9	16.5	4.4	8.2	6.3	57.6	36.1
	75～79歳	135	13.3	37.8	29.6	14.8	5.9	6.7	19.3	5.2	5.9	4.4	48.1	42.2
80歳以上	106	10.4	44.3	27.4	14.2	5.7	10.4	17.0	1.9	3.8	1.9	58.5	47.2	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

区分		回答者数	水質汚濁や騒音、振動などが少ない環境のよいまち	町民が活発に活動するまち	その他	無回答
全体		1523	17.1	6.3	2.4	1.8
性別	男	650	19.4	6.5	2.9	1.4
	女	768	15.5	6.1	2.2	1.3
年齢別	18～19 歳	18	16.7	22.2	0.0	0.0
	20～29 歳	92	18.5	6.5	4.3	0.0
	30～39 歳	151	17.9	7.3	2.0	0.0
	40～49 歳	226	19.5	8.8	3.1	0.4
	50～54 歳	103	19.4	9.7	4.9	1.0
	55～59 歳	107	15.0	5.6	1.9	0.0
	60～64 歳	182	13.7	5.5	1.6	1.1
	65～69 歳	201	19.4	4.5	2.0	1.0
	70～74 歳	158	18.4	4.4	1.3	3.8
	75～79 歳	135	14.1	3.0	3.7	3.7
80 歳以上	106	10.4	4.7	0.9	4.7	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

居住年数別では、年数にかかわらず「道路や鉄道などの交通網の発達したまち」や「病院や診療所など医療体制が整ったまち」が上位にあげられている。

そのうち、2年未満、5～9年、及び30年以上では、「病院や診療所など医療体制が整ったまち」が最も多く上げられている。

区分	回答者数	職住近接のまち	交通網の発達したまち	消費生活が便利なまち	良好な住宅環境を備えた住みやすいまち	安心して子どもを育てられるまち	農業の充実したまち	緑豊かなまち	文化的なまち	教育環境のよいまち	地域活動が活発なまち	医療体制が整ったまち	福祉を重視するまち	
全体	1523	7.7	50.0	26.3	22.5	17.5	8.3	19.0	4.6	10.2	2.8	49.1	28.6	
居住年数別	2年未満	48	2.1	47.9	18.8	25.0	31.3	12.5	20.8	2.1	6.3	0.0	56.3	16.7
	2～4年	54	5.6	46.3	27.8	25.9	37.0	5.6	25.9	1.9	14.8	3.7	50.0	16.7
	5～9年	76	3.9	50.0	19.7	26.3	23.7	11.8	15.8	5.3	6.6	2.6	56.6	23.7
	10～19年	243	7.0	57.6	26.7	21.4	19.3	8.6	23.0	7.4	13.6	1.6	41.2	25.9
	20～29年	286	7.3	53.1	28.0	26.2	17.8	6.3	20.3	3.1	10.8	3.1	46.9	27.6
	30年以上	776	8.8	48.1	26.5	20.1	14.3	8.8	16.5	4.8	9.1	3.0	51.9	32.3

区分	回答者数	水質汚濁や騒音、振動などが少ない環境のよいまち	町民が活発に活動するまち	その他	無回答	
全体	1523	17.1	6.3	2.4	1.8	
居住年数別	2年未満	48	20.8	2.1	4.2	0.0
	2～4年	54	16.7	5.6	1.9	0.0
	5～9年	76	21.1	9.2	1.3	1.3
	10～19年	243	17.7	7.8	2.5	0.4
	20～29年	286	19.9	6.6	3.8	0.7
	30年以上	776	15.1	5.8	1.9	2.4

また、9年以下では「遊び場や施設が整備され、安心して子どもを育てられるまち」が多くなっている。

2～4年と10～19年では、「学校施設や生涯学習施設などが整備された教育環境のよいまち」がやや目立つほか、30年以上で「高齢者や障がいのある人のための施設や生活環境の整った福祉を重視するまち」が多少目立つ。

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

居住地区別では、いずれの地区も交通や医療が上位にあげられるが、殿ヶ谷地区と元狭山地区で「道路や鉄道などの交通網の発達したまち」が目立つ。

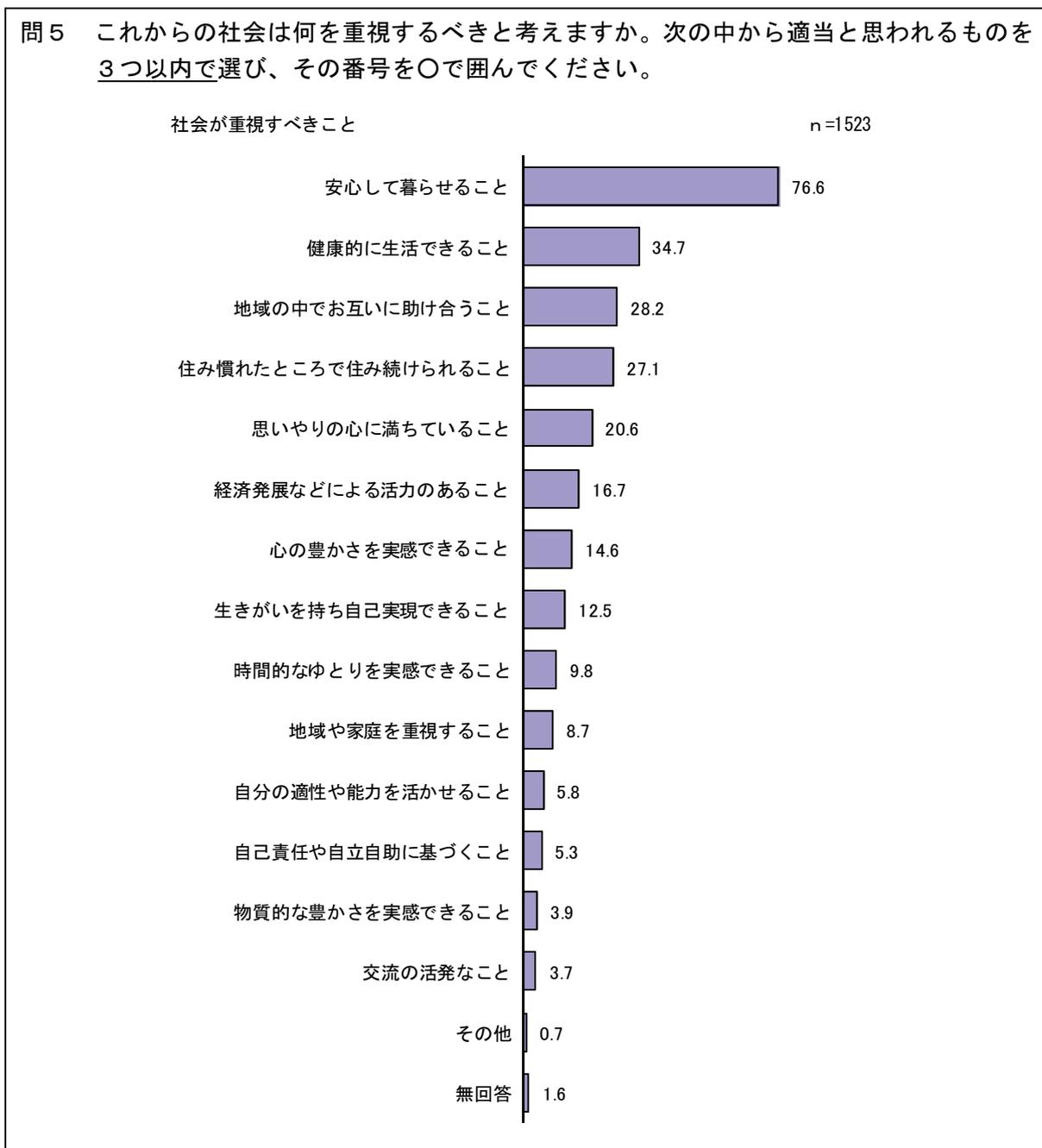
また、武蔵野地区では「高齢者や障がいのある人のための施設や生活環境の整った福祉を重視するまち」と「公園や緑地、街路樹などが整備された緑豊かなまち」が、殿ヶ谷地区で「遊び場や施設が整備され、安心して子どもを育てられるまち」がそれぞれ目立つ。

区分	回答者数	職住近接のまち	交通網の発達したまち	消費生活が便利なまち	良好な住宅環境を備えた住みやすいまち	安心して子どもを育てられるまち	農業の充実したまち	緑豊かなまち	文化的なまち	教育環境のよいまち	地域活動が活発なまち	医療体制が整ったまち	福祉を重視するまち	
全体	1523	7.7	50.0	26.3	22.5	17.5	8.3	19.0	4.6	10.2	2.8	49.1	28.6	
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	3.9	60.8	17.6	19.6	27.5	8.8	18.6	2.0	10.8	1.0	42.2	32.4
	石畑地区	165	7.9	53.9	21.2	22.4	19.4	8.5	10.9	4.8	9.7	1.2	53.3	26.1
	箱根ヶ崎地区	445	7.9	52.6	30.3	20.9	16.4	8.5	18.7	5.8	10.6	1.8	52.1	26.3
	長岡地区	206	7.8	41.7	31.6	25.7	18.9	9.2	21.8	5.3	13.6	1.9	44.2	30.1
	元狭山地区	280	8.6	57.1	23.9	20.7	16.1	9.6	13.9	5.0	8.6	4.3	48.9	27.9
	武蔵野地区	277	7.6	42.6	25.3	24.2	16.2	6.5	25.3	2.9	9.0	4.7	50.2	33.6

区分	回答者数	水質汚濁や騒音、振動などが少ない環境のよいまち	町民が活発に活動するまち	その他	無回答	
全体	1523	17.1	6.3	2.4	1.8	
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	17.6	8.8	2.0	2.9
	石畑地区	165	17.6	3.6	3.0	1.8
	箱根ヶ崎地区	445	17.1	7.2	1.3	0.9
	長岡地区	206	18.4	6.8	1.0	0.5
	元狭山地区	280	16.1	3.9	5.0	2.1
	武蔵野地区	277	15.9	7.9	2.5	1.4

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(2) 社会が重視すべきこと



全体結果

これからの社会は何を重視すべきと考えるかをたずねた。「安心して暮らせること」が76.6%と、4人に3人があげており際立って多い。次いで「健康的に生活できること」が34.7%と続く。

また、「地域の中でお互いに助け合うこと」、「住み慣れたところで住み続けられること」、「思いやりの心に満ちていること」が20%台となっており、地域の中での人とのつながりも重視されている。

属性別

「安心して暮らせること」は、性別、年齢にかかわらず、概ね 60～80%台の回答割合となっており、共通の認識となっている。

「健康的に生活できること」は、65歳～69歳で40%台とやや多いが、70歳以上になると、「住み慣れたところで住み続けられること」と「地域の中でお互いに助け合うこと」が目立つ。

18～19歳は、「思いやりの心に満ちていること」「生きがいを持ち自己実現できること」が目立ち、「交流の活発なこと」は他に比べ多い。また、30歳から69歳までは「心の豊かさを実感できること」がやや多くなる。

区分		回答者数	安心して暮らせること	健康的に生活できること	住み慣れたところで住み続けられること	自分の適性や能力を活かせること	経済発展などによる活力のあること	物質的な豊かさを実感できること	地域や家庭を重視すること	時間的なゆとりを実感できること	地域の中でお互いに助け合うこと	交流の活発なこと	思いやりの心に満ちていること	心の豊かさを実感できること
全体		1523	76.6	34.7	27.1	5.8	16.7	3.9	8.7	9.8	28.2	3.7	20.6	14.6
性別	男	650	73.8	37.5	27.2	6.2	18.9	2.9	11.2	13.1	24.6	3.5	20.9	15.7
	女	768	80.1	33.3	25.8	5.6	15.1	4.8	6.3	7.2	30.9	4.0	21.4	13.8
年齢別	18～19歳	18	72.2	22.2	16.7	5.6	0.0	5.6	5.6	11.1	27.8	11.1	44.4	5.6
	20～29歳	92	80.4	31.5	10.9	7.6	16.3	2.2	14.1	13.0	20.7	5.4	27.2	9.8
	30～39歳	151	80.8	30.5	16.6	8.6	19.2	7.3	14.6	14.6	23.2	6.0	20.5	17.2
	40～49歳	226	79.6	30.5	19.0	8.0	20.4	5.3	8.4	16.4	19.9	5.3	23.0	14.2
	50～54歳	103	79.6	35.9	14.6	7.8	20.4	4.9	3.9	10.7	27.2	3.9	22.3	19.4
	55～59歳	107	86.0	33.6	29.9	8.4	14.0	5.6	8.4	11.2	21.5	2.8	22.4	17.8
	60～64歳	182	83.5	37.9	19.8	6.0	18.7	2.7	8.8	9.9	29.1	2.2	17.0	16.5
	65～69歳	201	74.1	41.3	31.3	5.0	15.9	3.0	6.0	7.0	30.3	3.0	16.9	17.4
	70～74歳	158	63.9	35.4	37.3	4.4	15.8	3.2	10.1	8.9	39.2	2.5	17.1	10.1
	75～79歳	135	70.4	34.8	43.7	2.2	14.1	3.0	8.9	1.5	34.8	2.2	17.8	13.3
80歳以上	106	72.6	38.7	51.9	0.9	8.5	1.9	5.7	5.7	38.7	1.9	26.4	7.5	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

区分		回答者数	生きがいを持ち自己実現できると	自己責任や自立自助に基づくこと	その他	無回答
全体		1523	12.5	5.3	0.7	1.6
性別	男	650	10.2	5.5	0.8	1.4
	女	768	14.3	5.1	0.7	1.3
年齢別	18～19 歳	18	44.4	0.0	0.0	0.0
	20～29 歳	92	12.0	3.3	0.0	1.1
	30～39 歳	151	7.9	5.3	0.0	0.0
	40～49 歳	226	11.5	4.0	0.9	0.9
	50～54 歳	103	18.4	4.9	1.9	1.0
	55～59 歳	107	12.1	6.5	0.9	0.0
	60～64 歳	182	14.3	3.8	0.5	2.2
	65～69 歳	201	13.4	8.5	2.0	0.5
	70～74 歳	158	13.3	7.0	0.0	3.8
	75～79 歳	135	9.6	4.4	0.0	3.0
80 歳以上	106	8.5	3.8	0.0	0.9	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

「安心して暮らせること」は、居住年数にかかわらず、概ね 70～80%台の人があげており、共通の認識となっている。「住み慣れたところで住み続けられること」は 30 年以上の居住年数者の回答割合が多くなる。

区分	回答者数	安心して暮らせること	健康的に生活できること	住み慣れたところで住み続けられること	自分の適性や能力を活かせること	経済発展などによる活力のあること	物質的な豊かさを実感できること	地域や家庭を重視すること	時間的なゆとりを実感できること	地域の中でお互いに助け合うこと	交流の活発なこと	思いやりの心に満ちていること	心の豊かさを実感できること	
全体	1523	76.6	34.7	27.1	5.8	16.7	3.9	8.7	9.8	28.2	3.7	20.6	14.6	
居住年数別	2年未満	48	79.2	33.3	22.9	8.3	6.3	4.2	12.5	10.4	25.0	8.3	29.2	14.6
	2～4年	54	85.2	35.2	18.5	5.6	24.1	3.7	9.3	5.6	29.6	1.9	16.7	13.0
	5～9年	76	81.6	22.4	18.4	3.9	18.4	3.9	6.6	18.4	22.4	10.5	26.3	15.8
	10～19年	243	81.9	33.7	20.6	6.2	16.5	5.3	7.8	13.2	22.6	4.9	23.9	13.2
	20～29年	286	78.3	36.4	18.5	7.3	18.2	2.8	8.7	10.8	25.2	5.2	19.9	15.4
	30年以上	776	73.6	36.2	33.9	5.2	16.0	4.0	9.0	8.4	32.0	1.9	19.5	14.6

区分	回答者数	生きがいを持ち自己実現できること	自己責任や自立自助に基づくこと	その他	無回答	
全体	1523	12.5	5.3	0.7	1.6	
居住年数別	2年未満	48	4.2	12.5	0.0	0.0
	2～4年	54	9.3	1.9	0.0	0.0
	5～9年	76	13.2	9.2	0.0	1.3
	10～19年	243	16.5	3.7	0.8	0.8
	20～29年	286	12.2	6.3	1.0	1.7
	30年以上	776	12.0	4.8	0.6	1.5

※網かけは全体より 5 ポイント以上多いもの。

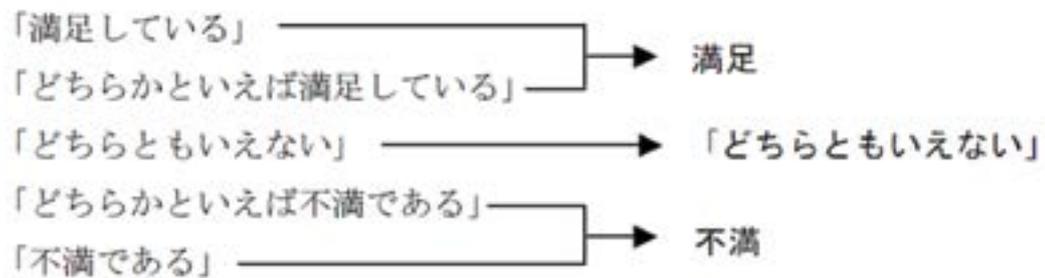
(3) 町政の各分野に対する評価

問6 あなたは現在、次に掲げる町の施策分野について、どの程度満足していますか。また、どの程度重視していますか。それぞれの項目ごとにあなたのお気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつ選びその番号を○で囲んでください。(カッコ内は施策の例示)

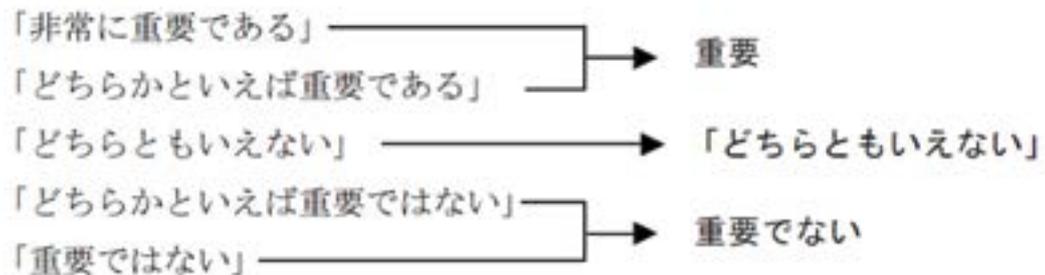
町政の各分野について、満足度と重要度をたずねた。

満足度、重要度とも5段階の選択肢で質問しているが、全体の傾向をより鮮明にするため、それぞれ3段階に区分し直して分析する。3段階の区分は次のとおりである。

〈満足度〉

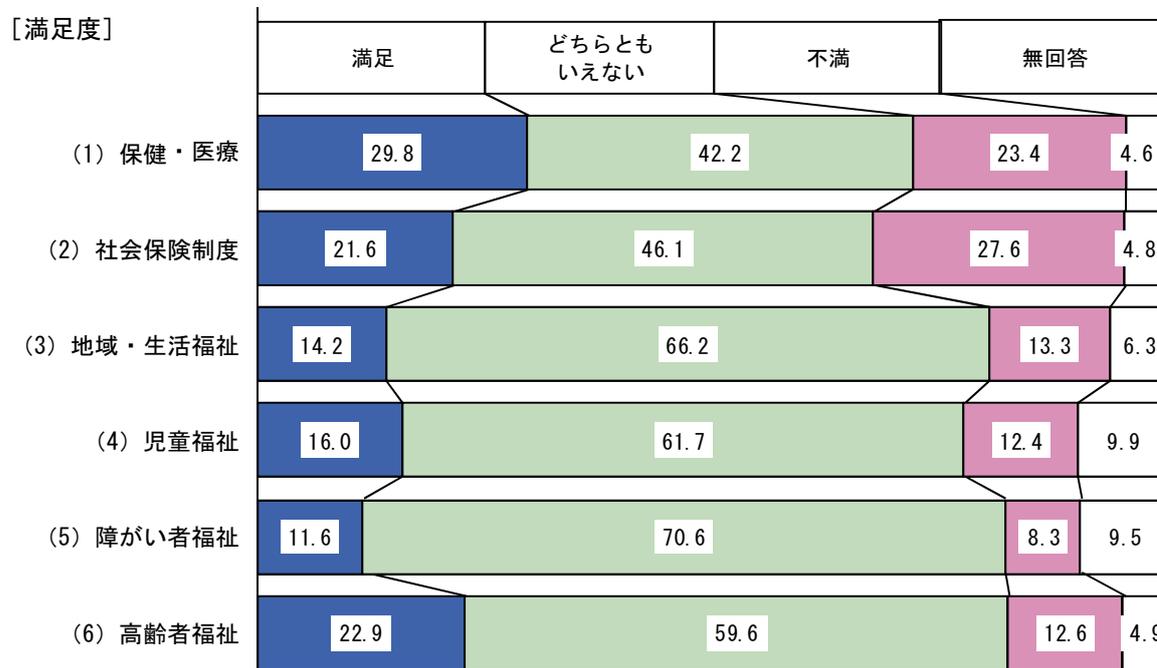


〈重要度〉



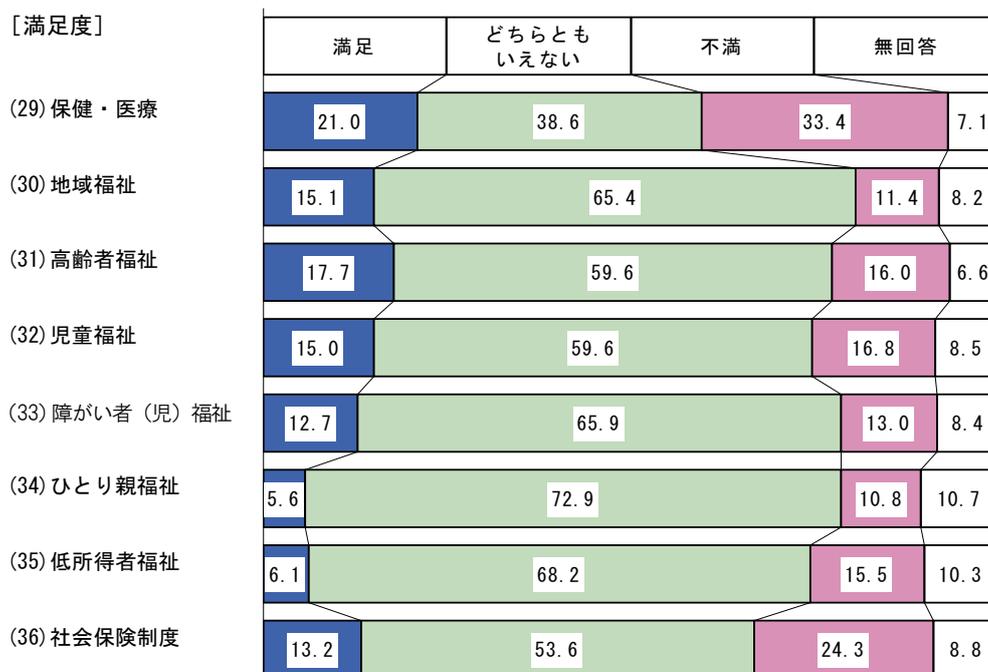
①分野ごとの満足度と重要度

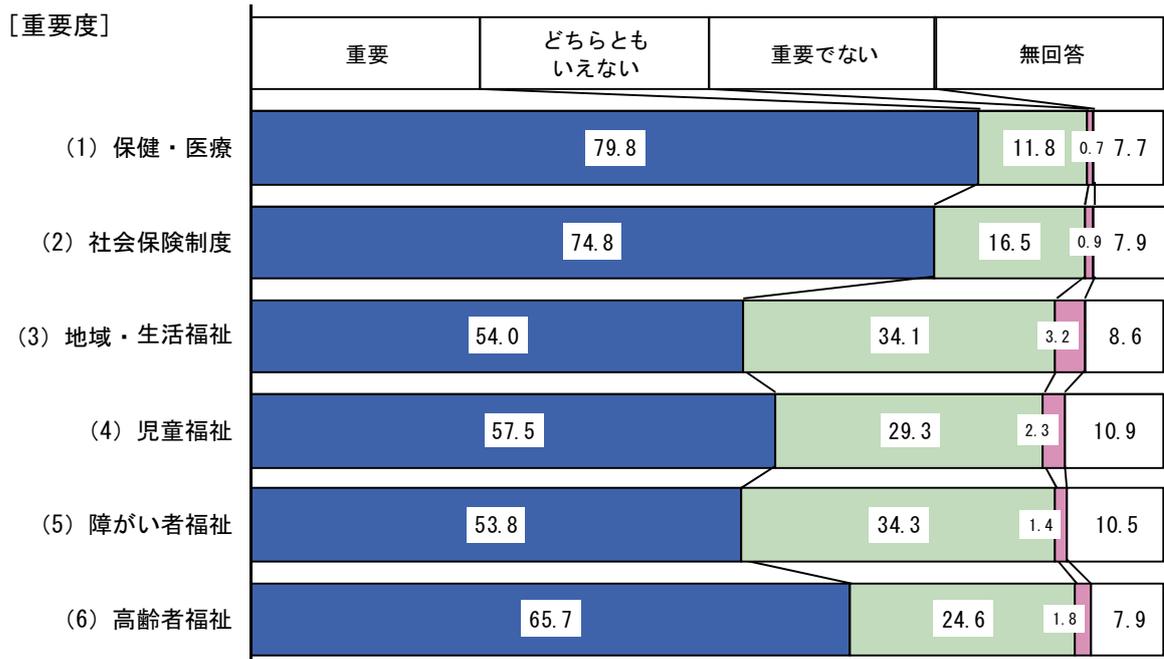
[健康で元気なみずほ] 領域



「どちらともいえない」が概ね 50%台～70%台を占めている中で、「社会保険制度」は「不満」が 27.6%と高く、また「保健・医療」も「不満」が 23.4%とめだっている。

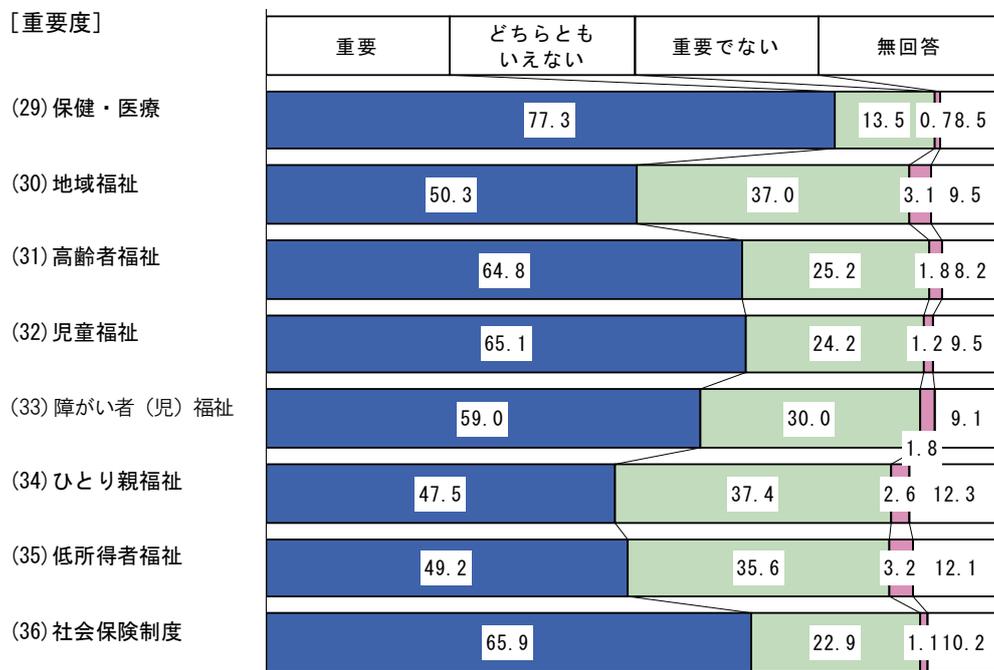
[参考：前回調査（平成 21 年 9 月）結果]





重要度は、「保健・医療」で79.8%と最も高く、次いで「社会保険制度」74.8%、「高齢者福祉」が65.7%と高くなっている。なお、ほかのいずれの項目も「重要」の割合が最も高くなっている。

[参考：前回調査（平成21年9月）結果]



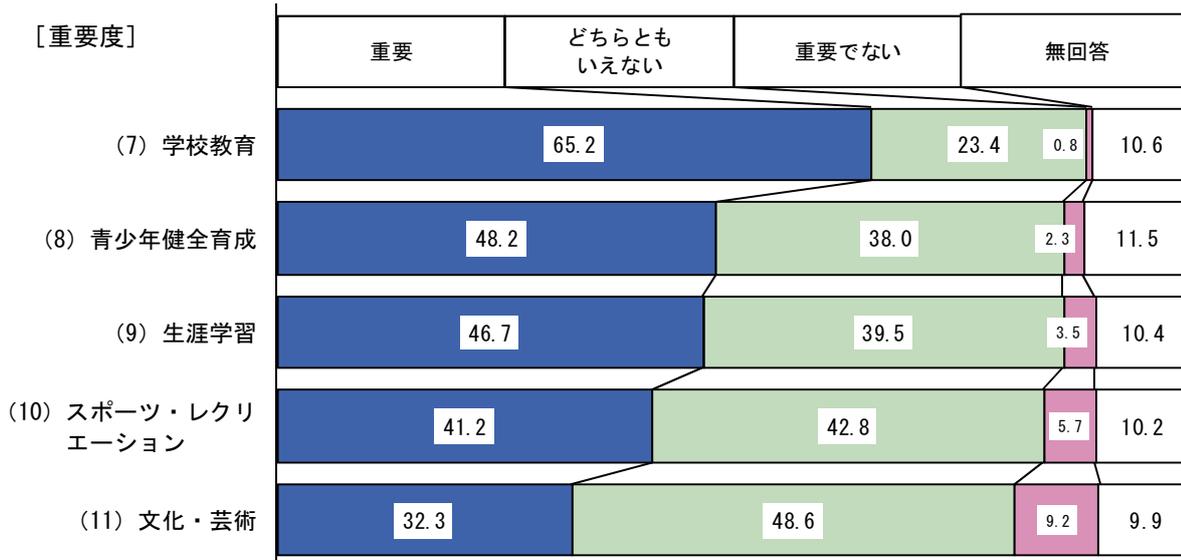
[一人ひとりが輝くみずほ] 領域

[満足度]	満足	どちらとも いえない	不満	無回答
(7) 学校教育	19.7	56.7	14.8	8.9
(8) 青少年健全育成	12.0	69.2	8.6	10.1
(9) 生涯学習	18.5	57.5	15.3	8.7
(10) スポーツ・レクリ エーション	18.8	56.1	17.2	7.9
(11) 文化・芸術	14.3	65.3	12.3	8.1

いずれも「どちらともいえない」が半数以上を占め多くなっている。また、「不満」と「満足」は同程度であるが、各項目ともに、わずかながら「満足」の方が多くなっている。

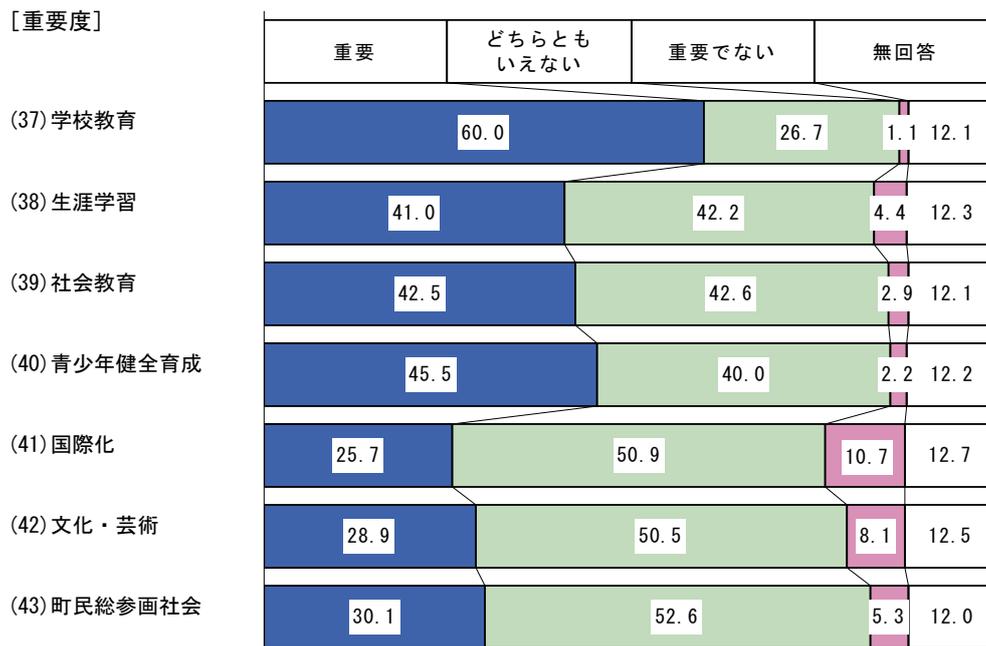
[参考：前回調査（平成21年9月）結果]

[満足度]	満足	どちらとも いえない	不満	無回答
(37) 学校教育	15.4	56.9	17.0	10.8
(38) 生涯学習	9.9	66.7	12.9	10.5
(39) 社会教育	12.8	63.2	13.7	10.3
(40) 青少年健全育成	9.1	67.9	12.5	10.5
(41) 国際化	9.4	70.7	8.5	11.4
(42) 文化・芸術	11.3	67.2	11.4	10.2
(43) 町民総参画社会	10.8	72.0	7.1	10.1

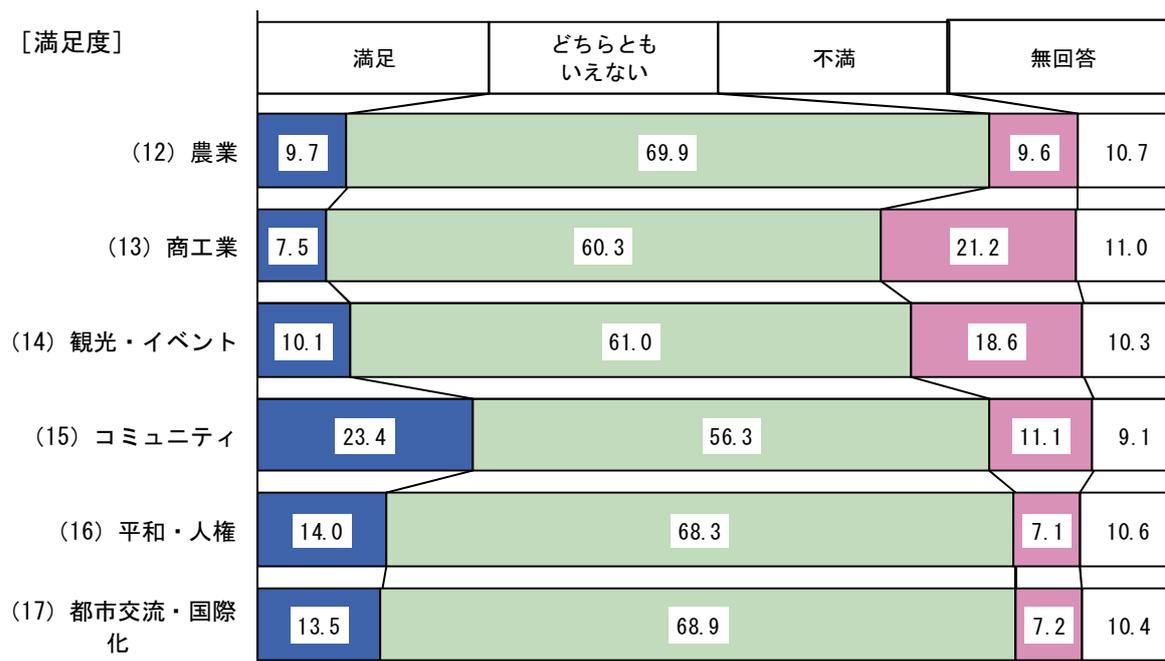


重要度は、「学校教育」が65.2%と特に高く、「青少年健全育成」「生涯学習」も40%台後半と高い。

[参考：前回調査（平成21年9月）結果]



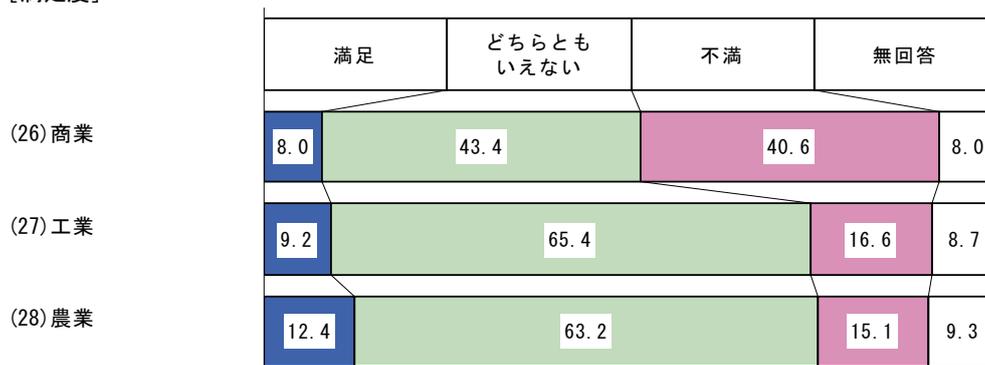
[魅力ある温かいみずほ] 領域

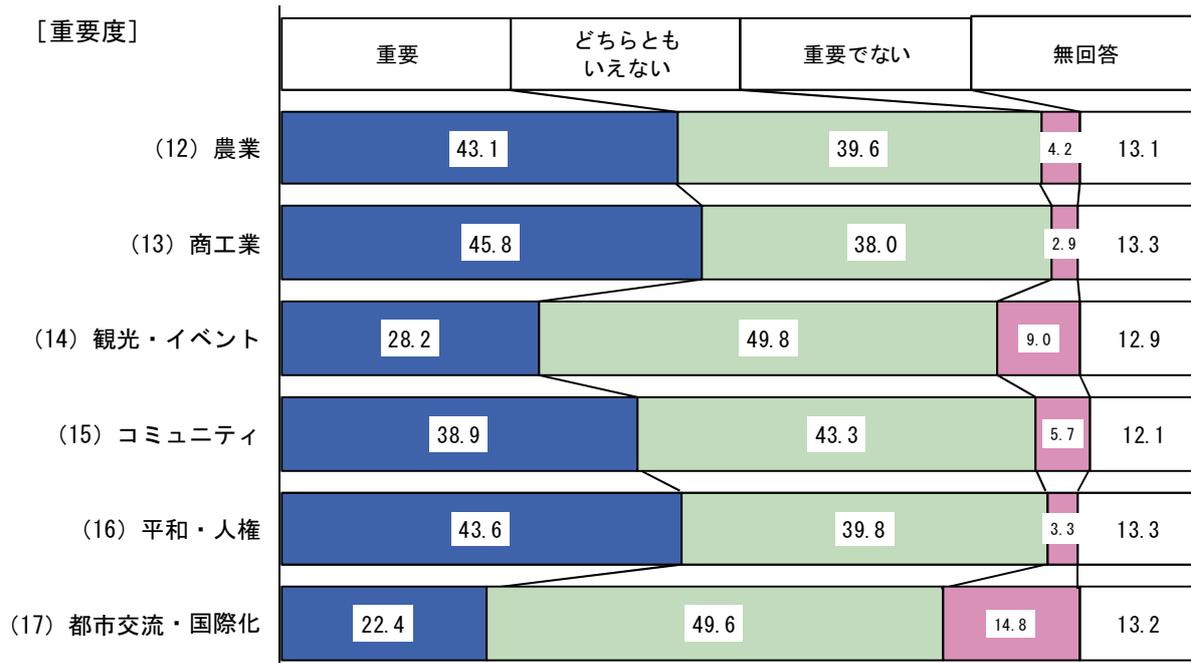


「商工業」「観光・イベント」は、ともに「不満」が「満足」を上回っているが、「コミュニティ」「平和・人権」「都市交流・国際化」は「満足」が「不満」を上回っている。しかし、各項目ともに「どちらともいえない」が5割～7割弱となっている。

[参考：前回調査（平成21年9月）結果]

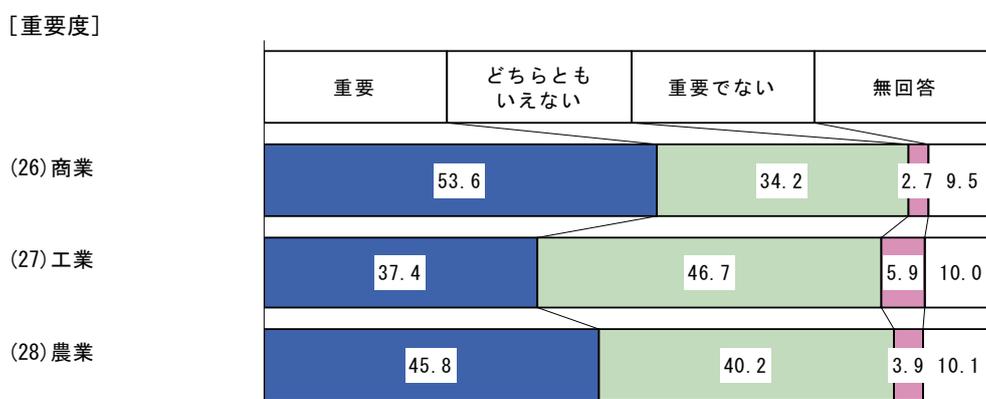
[満足度]



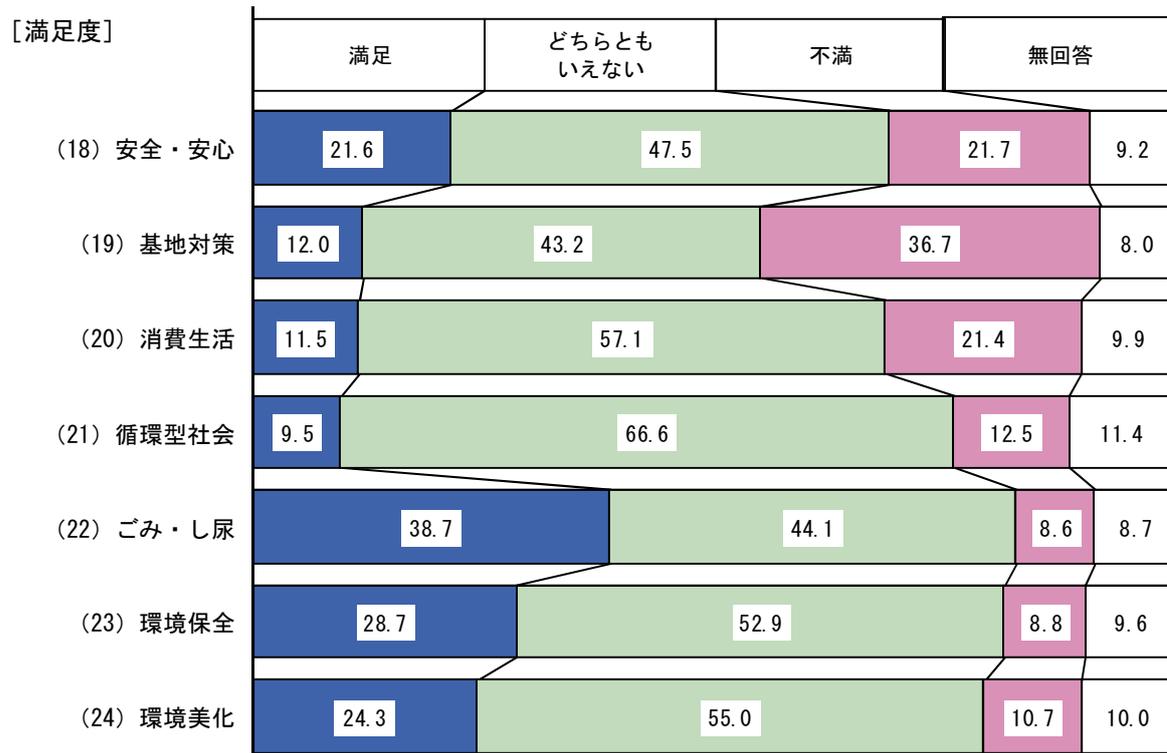


重要度は、「農業」「商工業」「平和・人権」で4割を超えている。「都市交流・国際化」は「重要でない」が多少多くなっている。

[参考：前回調査（平成21年9月）結果]

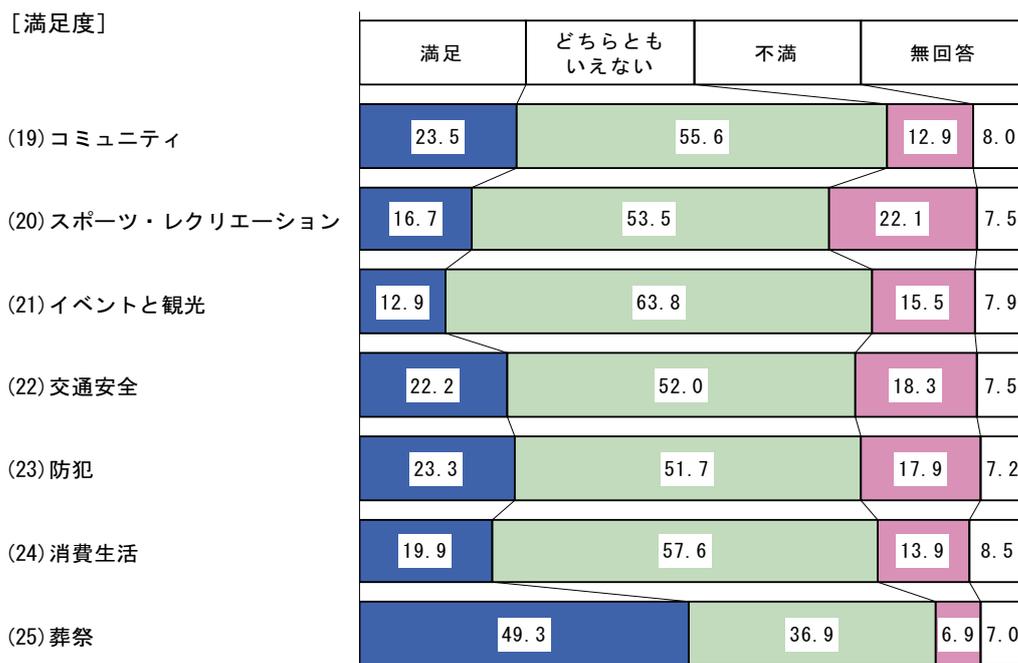


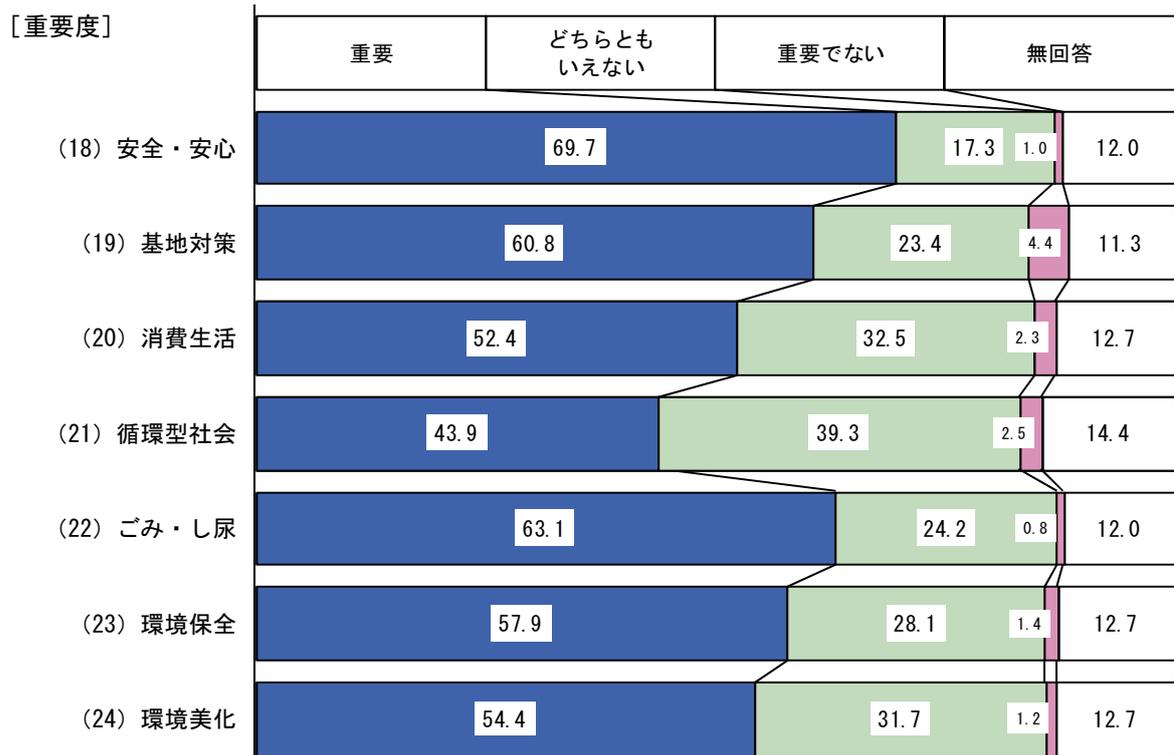
[安全安心やさしいみずほ] 領域



「どちらともいえない」が多くの分野で半数前後となっているが、「ごみ・し尿」の満足度は38.7%と高く、「安全・安心」「環境保全」「環境美化」も満足度が2割を超えている。一方、「基地対策」は「不満」が36.7%と高くなっている。

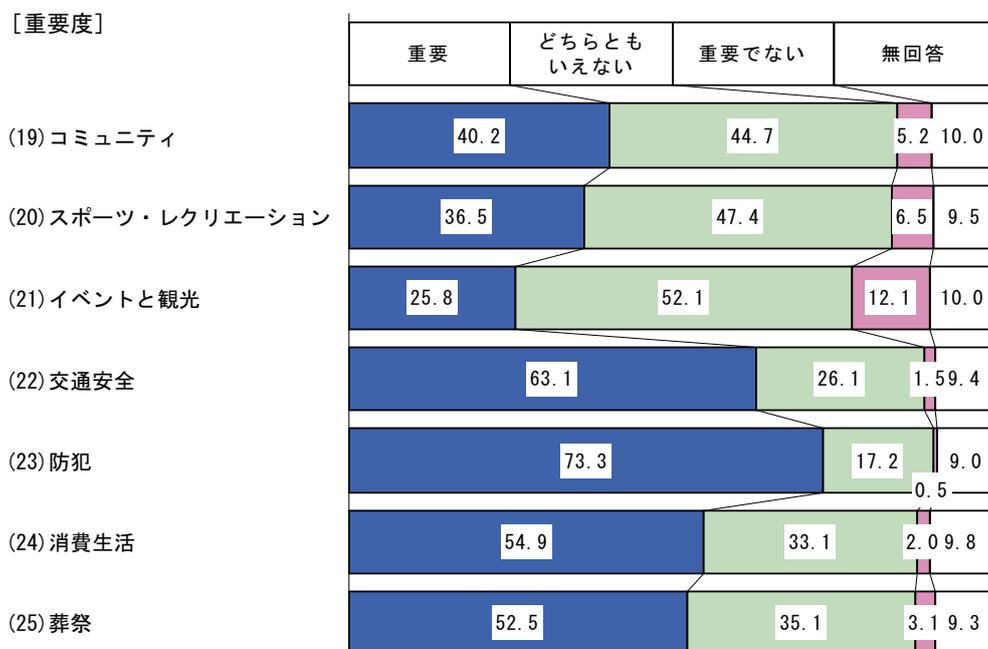
[参考：前回調査（平成21年9月）結果]



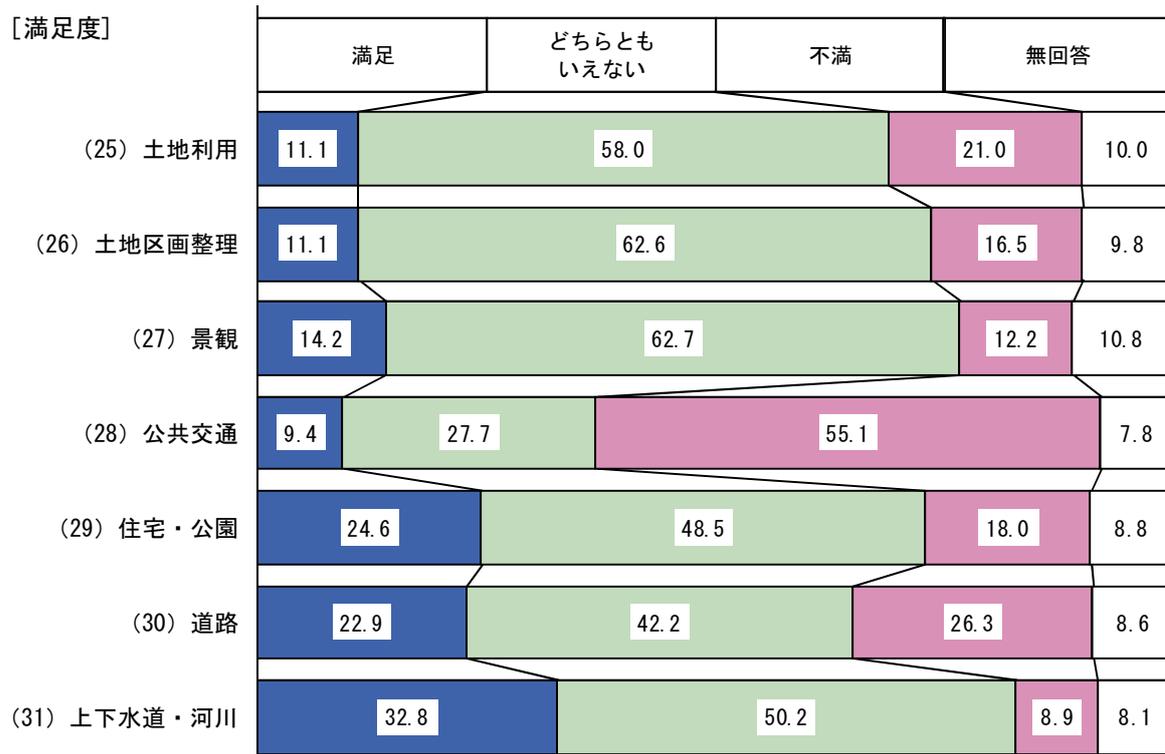


重要度については、「安全・安心」が69.7%と最も高く、「ごみ・し尿」「基地対策」も6割を超えている。

[参考：前回調査（平成21年9月）結果]

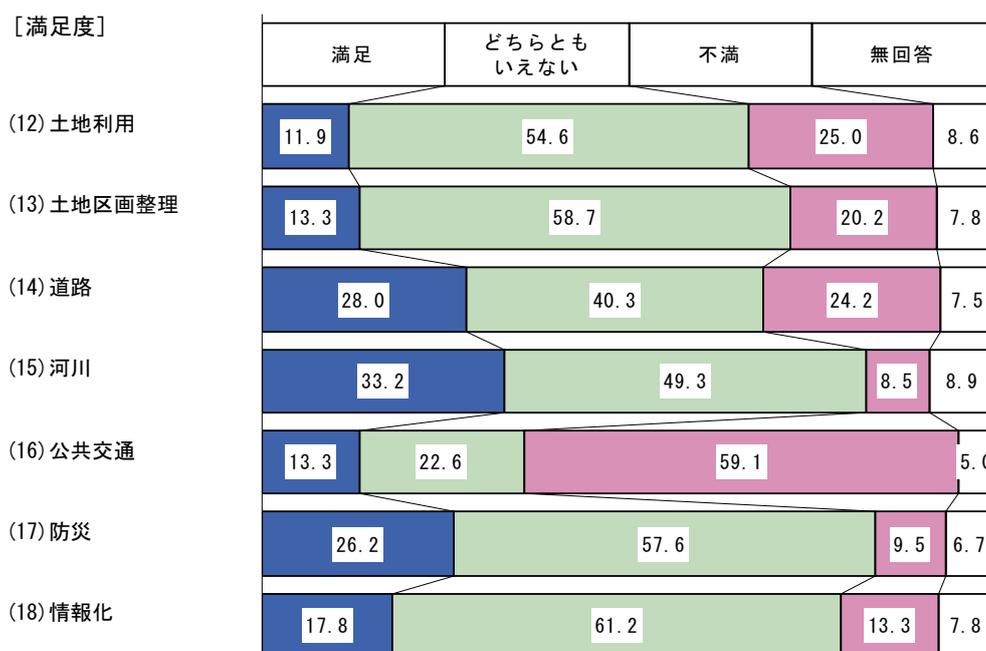


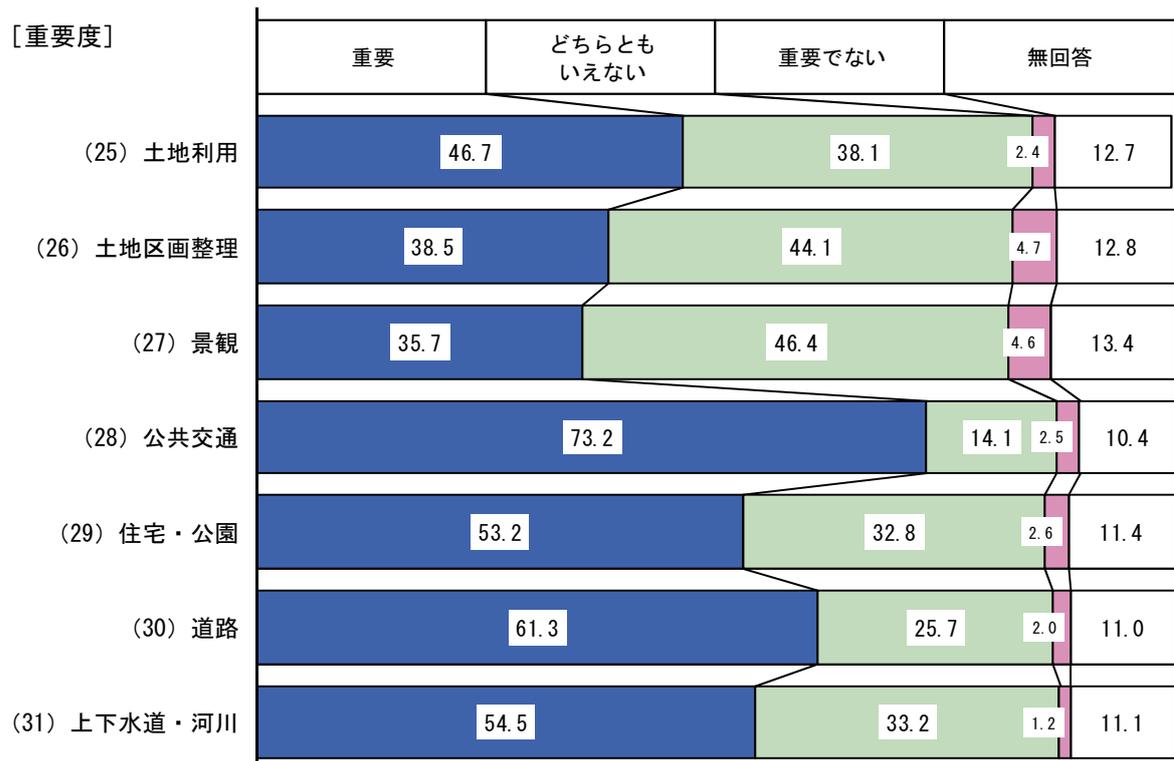
[快適で美しいみずほ] 領域



「上下水道・河川」の「満足」が3割を超えているが、「公共交通」は「不満」が半数を超えている。

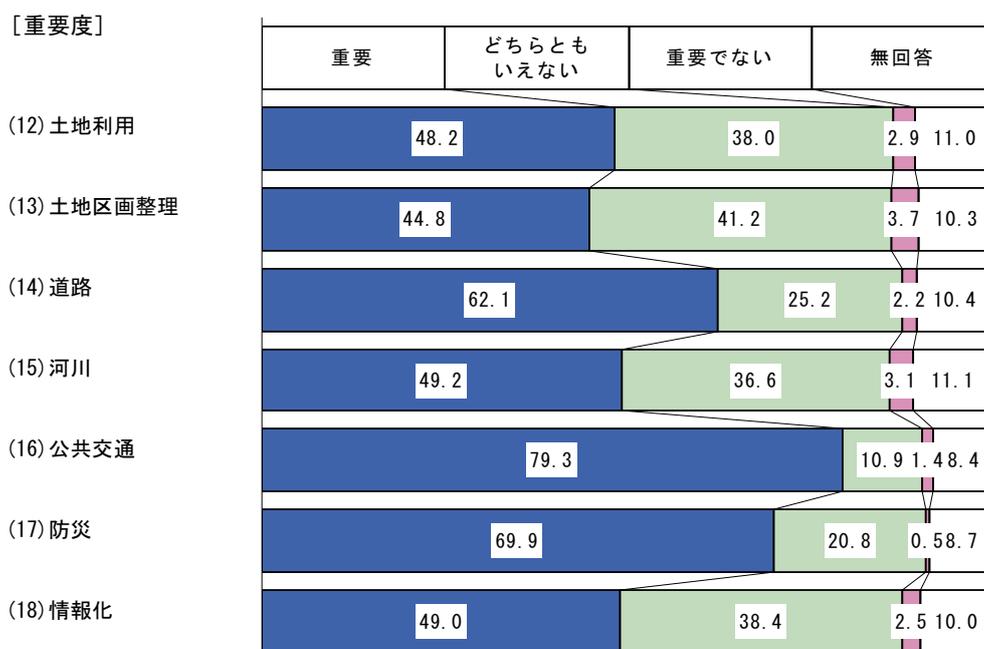
[参考：前回調査（平成21年9月）結果]



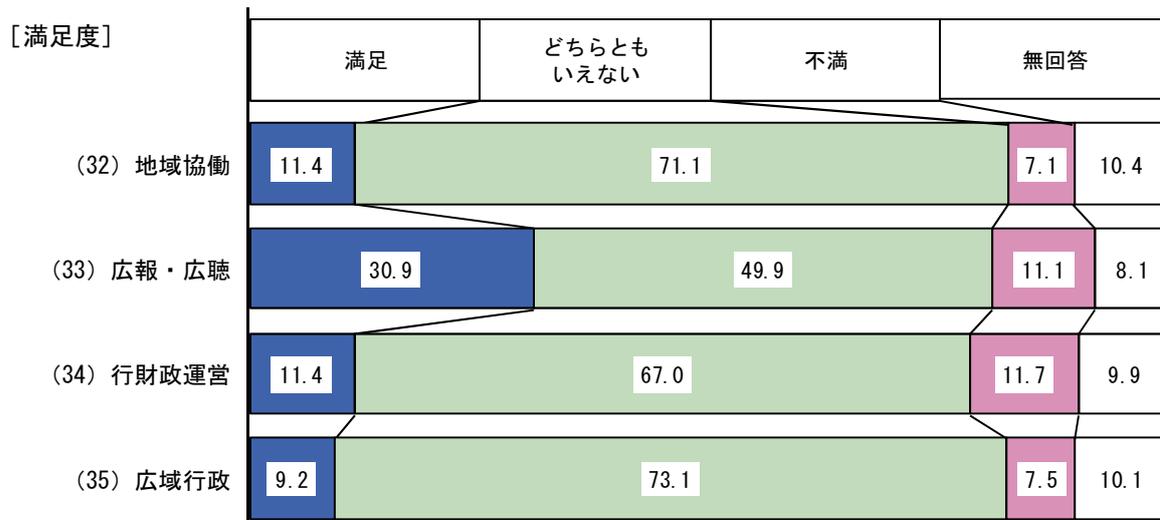


重要度は、「公共交通」が7割を超え特に高い。また、「道路」は6割を超え、「住宅・公園」「上下水道・河川」も5割を超えている。

[参考：前回調査（平成21年9月）結果]

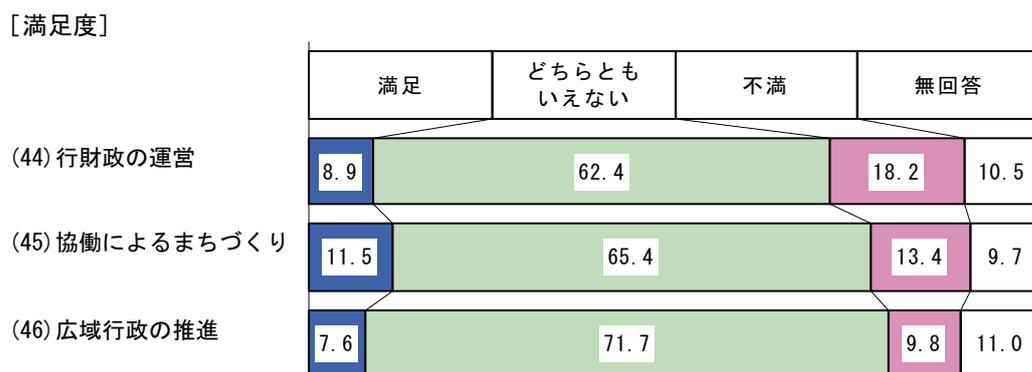


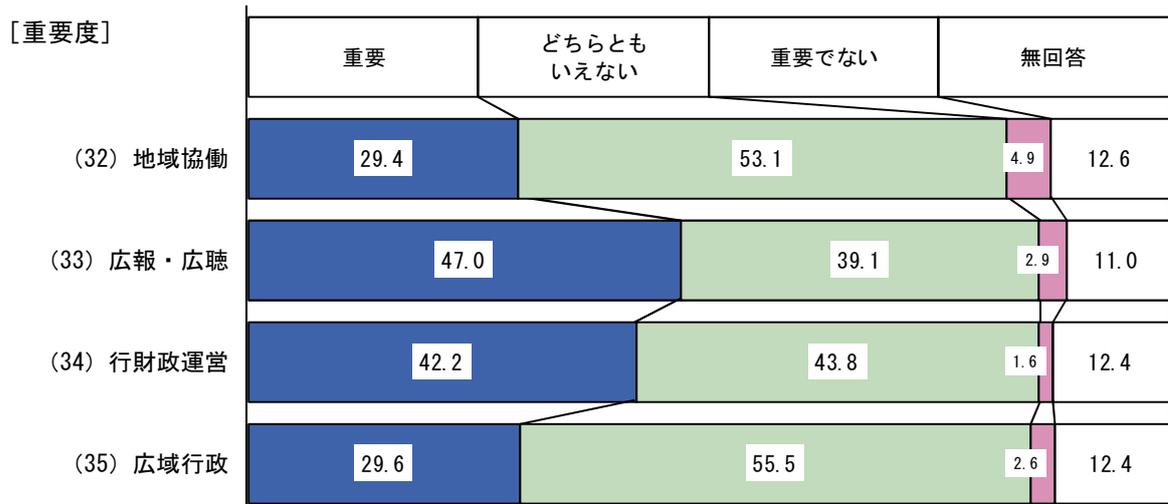
[総合計画を推進するために] 領域



「広報・広聴」の「満足」は3割を超え、「地域協働」は「満足」が「不満」を上回っている。「行財政運営」「広域行政」は「満足」と「不満」が同じ程度となっている。

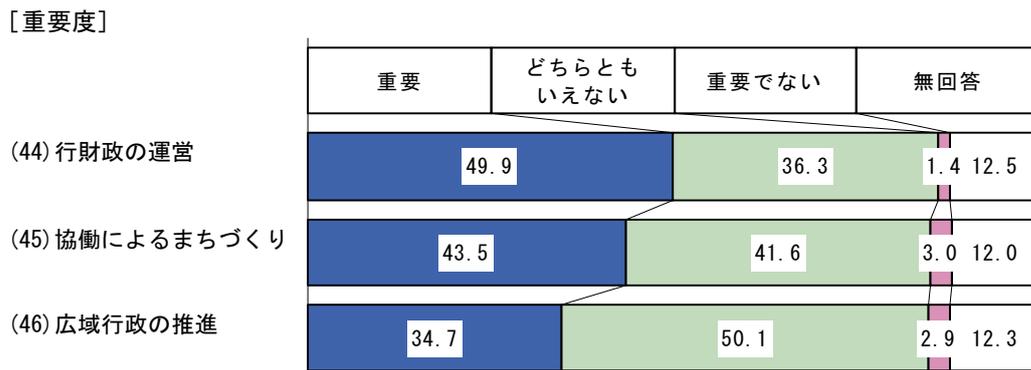
[参考：前回調査（平成21年9月）結果]





「広報・広聴」「行財政運営」は「重要」が4割を超えており、「地域協働」「広域行政」は「重要」が約3割となっている。

[参考：前回調査（平成21年9月）結果]



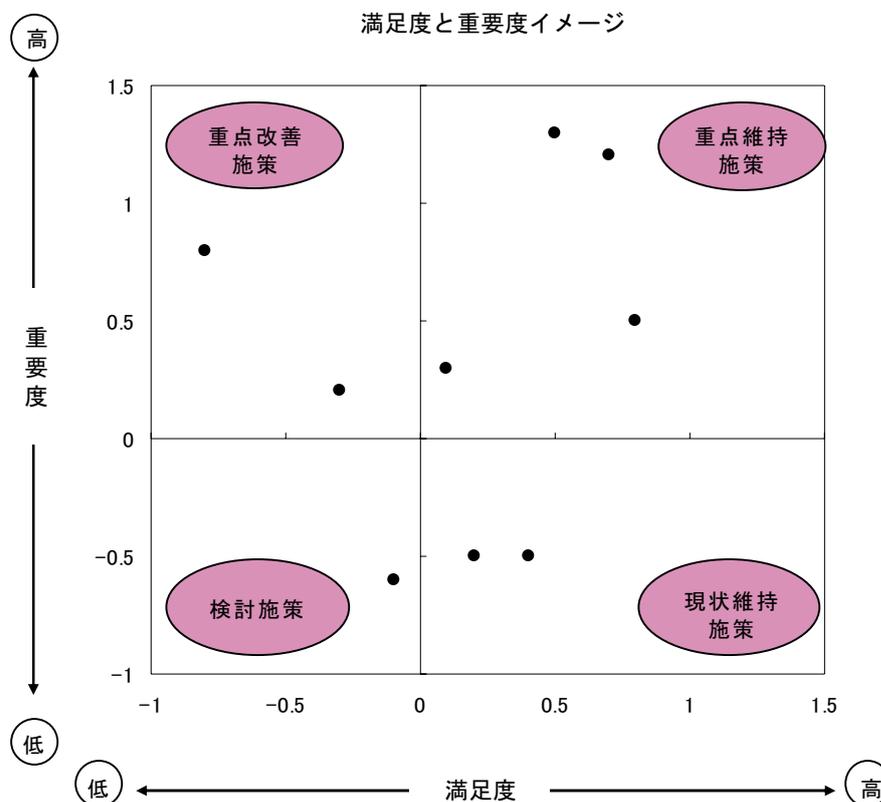
②満足度と重要度から見た施策の位置づけ

次に、各分野ごとの満足度と重要度を組み合わせ、施策の位置づけを分析する。分析にあたっては、満足度と重要度を「評価点」によって点数化して行う。評価点とは、各選択肢への回答者数を加味した加重平均値である。ここでは、各選択肢に次のように得点をつけ、それぞれの点数に回答者数を掛け合わせた総得点数を、無回答を除いた回答者数で除して算出している。したがって、評価点は－2点～＋2点の範囲となり、数値が大きいほど評価が高くなる。また、0点が普通という評価となる。各選択肢の得点は次のように配点した。

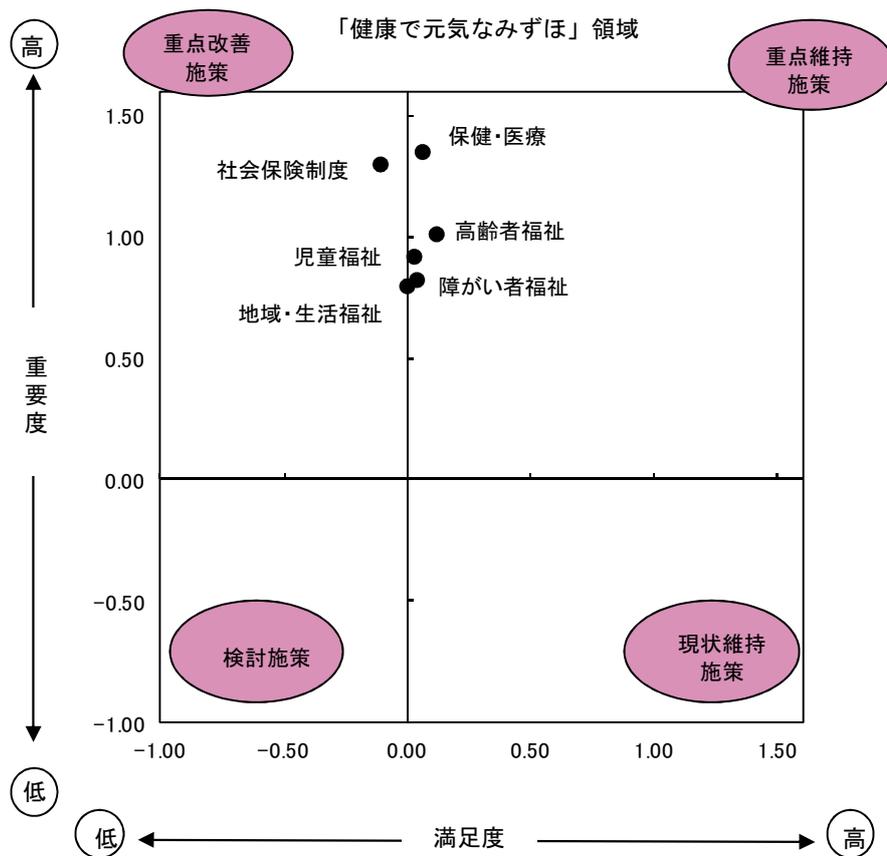
* 満足度		* 重要度	
「満足している」	2点	「非常に重要である」	2点
「どちらかといえば満足している」	1	「どちらかといえば重要である」	1
「どちらともいえない」	0	「どちらともいえない」	0
「どちらかといえば不満である」	－1	「どちらかといえば重要ではない」	－1
「不満である」	－2	「重要ではない」	－2

算出された評価点をもとに、各分野別施策を、満足度、重要度ともに±0点を基準に、次の4つのタイプに分類する。

- ・ **重点維持施策**…満足度も重要度も高く、今後も現状の高い水準を重点的に維持していくべきもの。
- ・ **現状維持施策**…満足度は高いが重要度は低く、現状の満足度を維持していくべきもの。
- ・ **重点改善施策**…重要度は高いが満足度が低く、今後、重点的に改善していくべきもの。
- ・ **検討施策**…満足度も重要度も低く、今後、施策のありかたを検討していくべきもの。

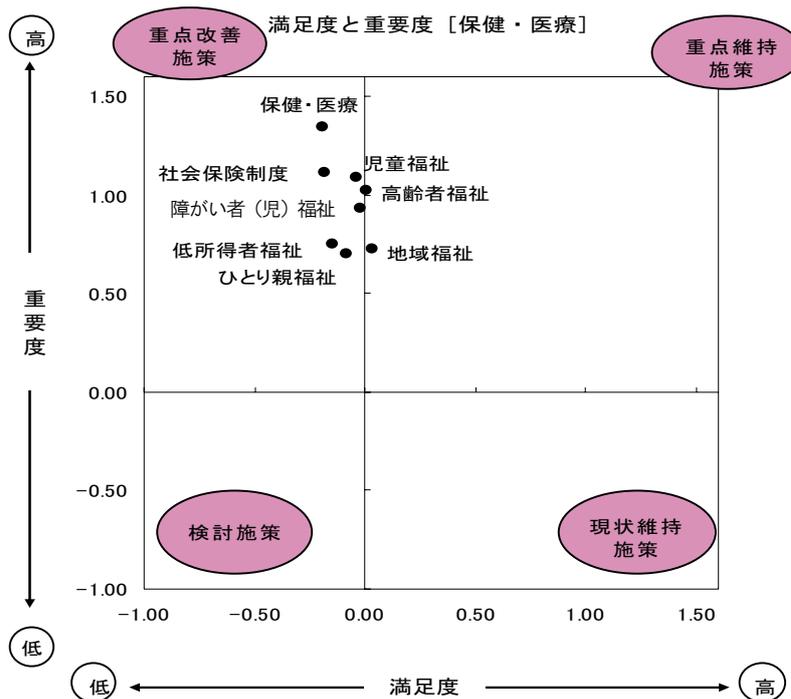


〔健康で元気なみずほ〕領域

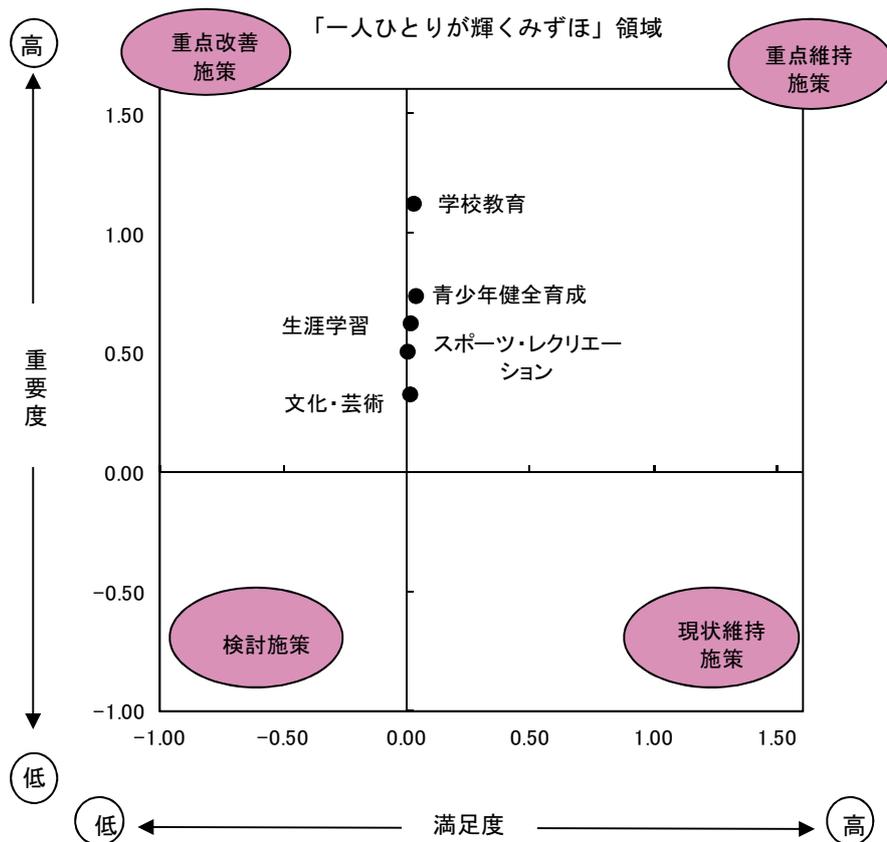


「重点改善施策」と「重点維持施策」に位置づけられる。中でも「社会保険制度」と「保健・医療」の重要度が高くなっている。

〔参考：前回調査（平成 21 年 9 月）結果〕

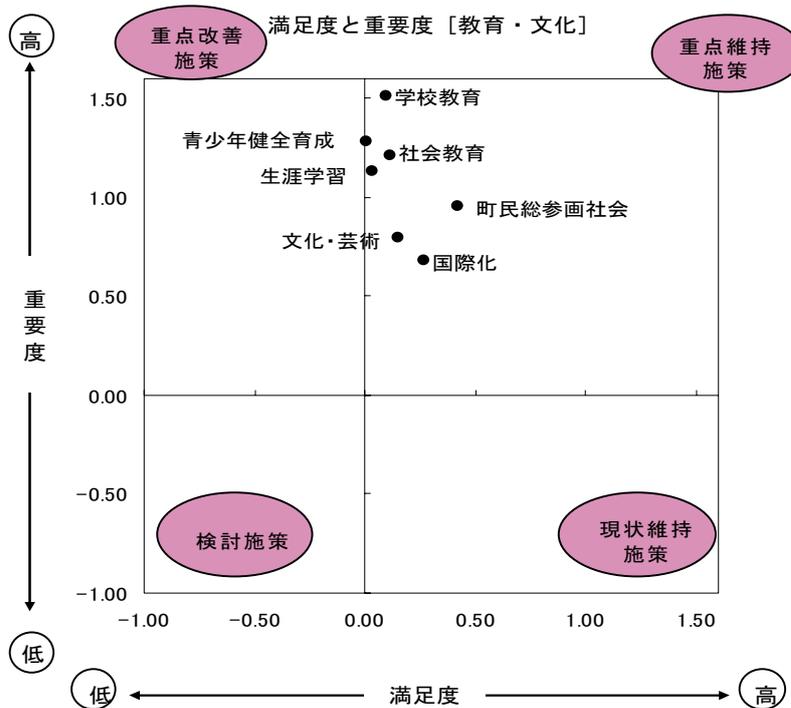


〔一人ひとりが輝くみずほ〕領域

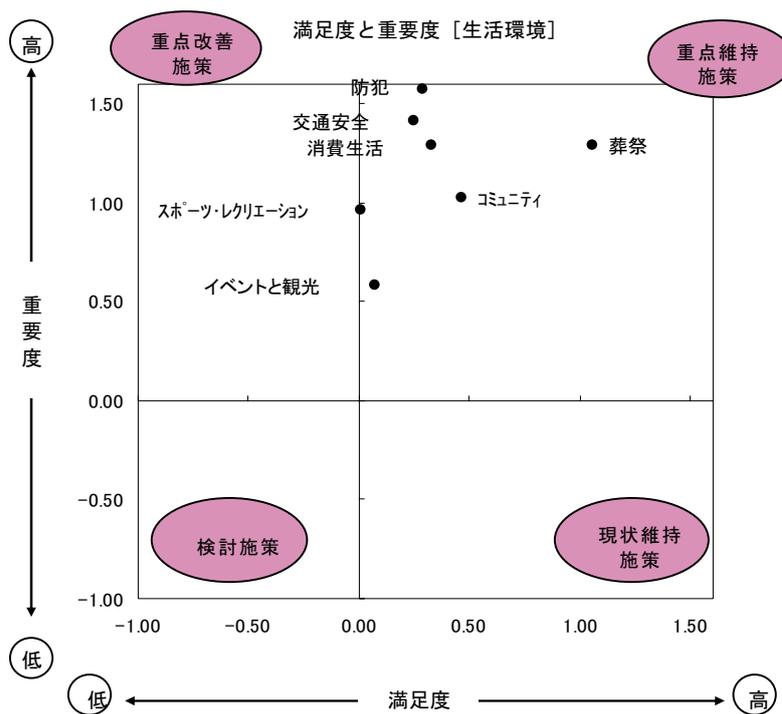


満足度はいずれも±0近くとなっている。また、「学校教育」の重要度が比較的高くなっている。

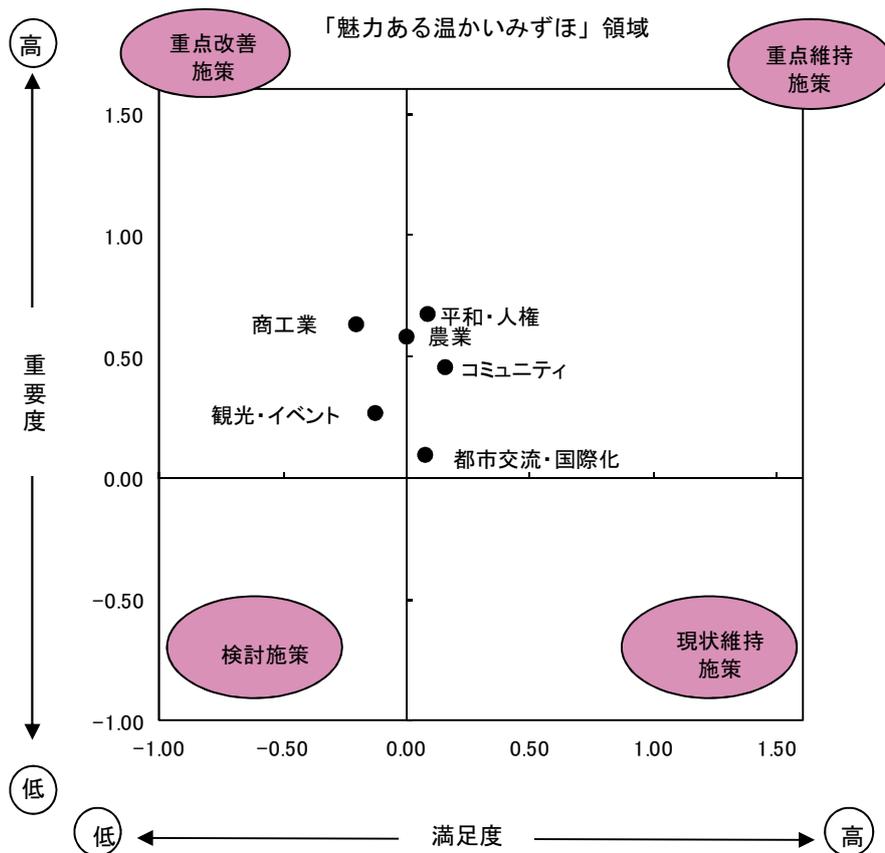
〔参考：前回調査（平成21年9月）結果〕



[参考：前回調査（平成 21 年 9 月）結果]

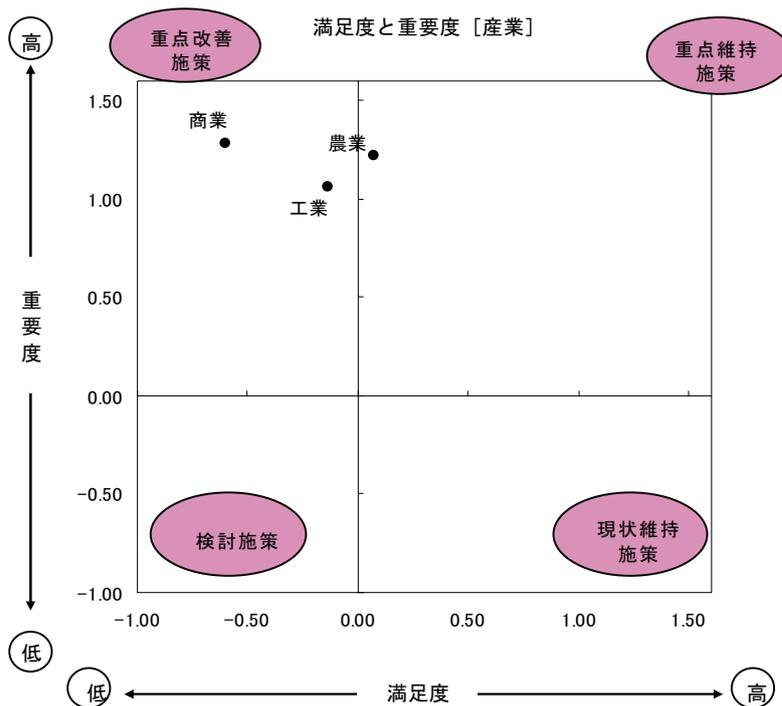


[魅力ある温かいみずほ] 領域

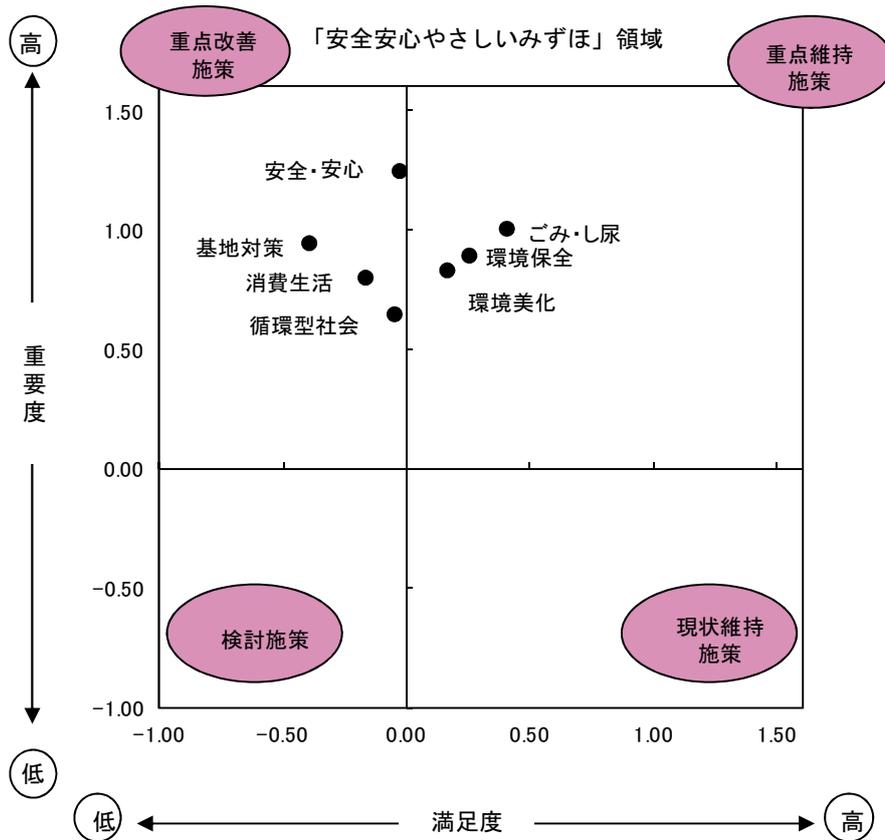


「商工業」「観光・イベント」が重点改善施策に入っている。「農業」は重点改善施策と重点維持施策の中間となっている。

[参考：前回調査（平成 21 年 9 月）結果]

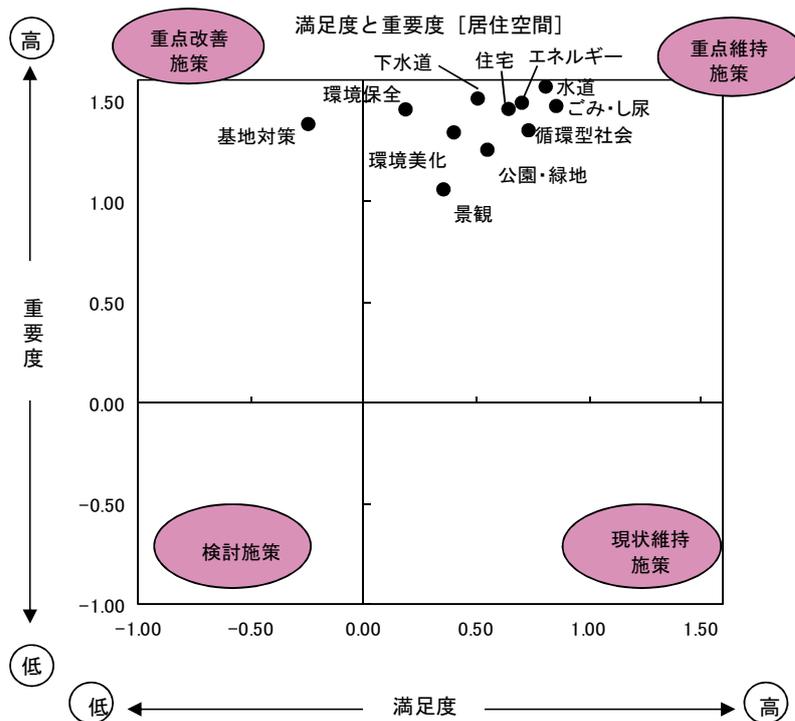


[安全安心やさしいみずほ] 領域

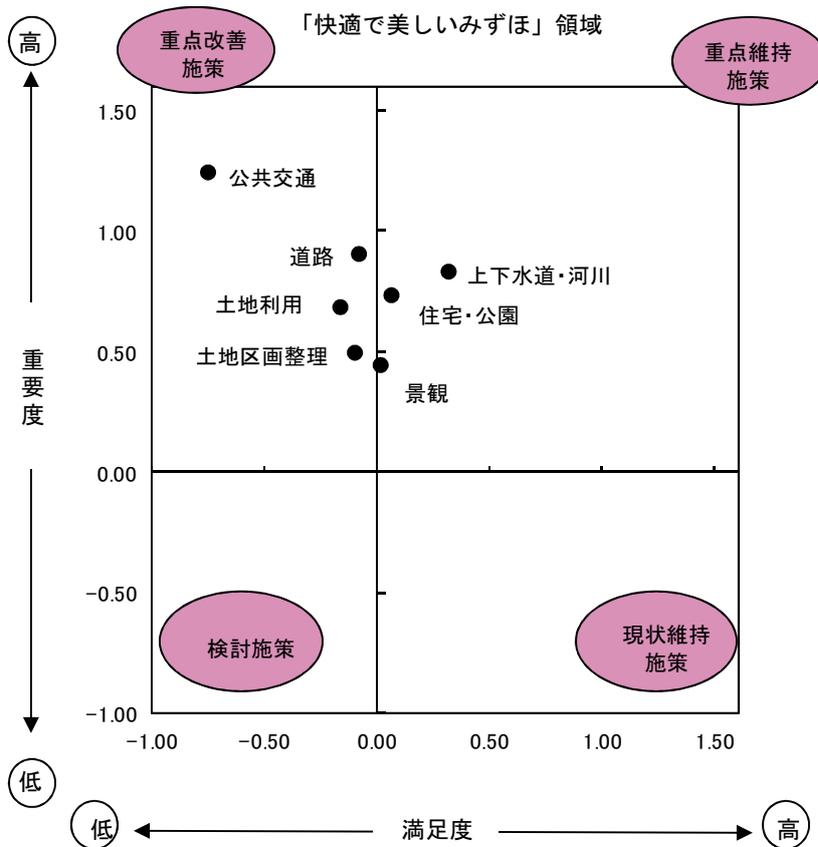


「安全・安心」「基地対策」「消費生活」「循環型社会」が重点改善施策に入っている。

[参考：前回調査（平成 21 年 9 月）結果]

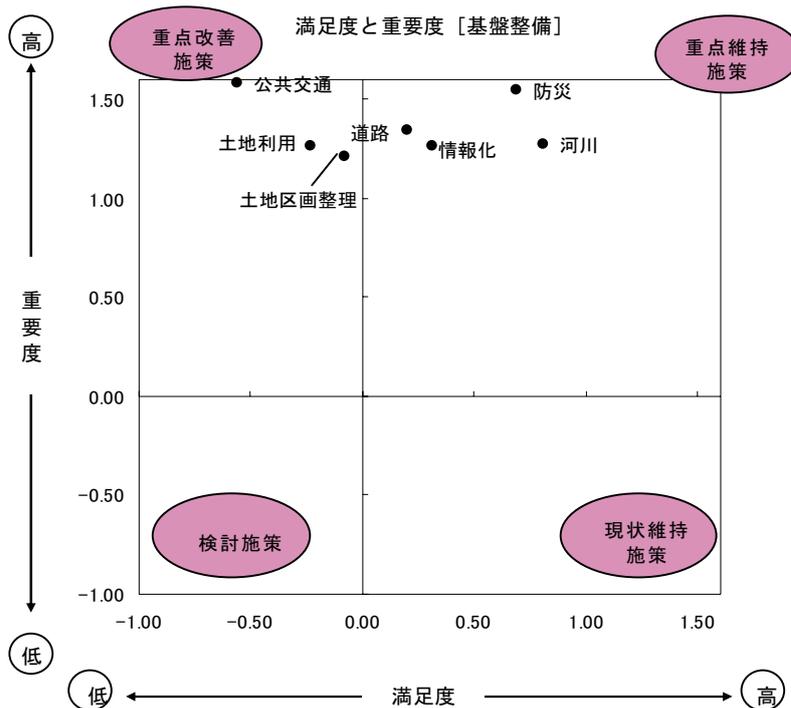


[快適で美しいみずほ] 領域

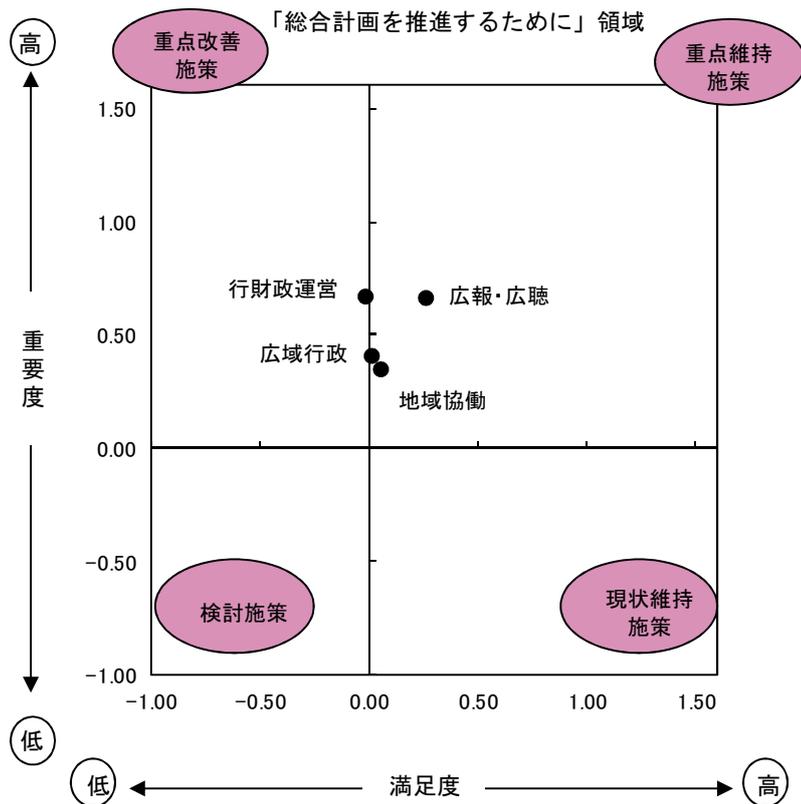


「公共交通」「道路」「土地利用」「土地区画整理」が重点改善施策に入っている。

[参考：前回調査（平成 21 年 9 月）結果]

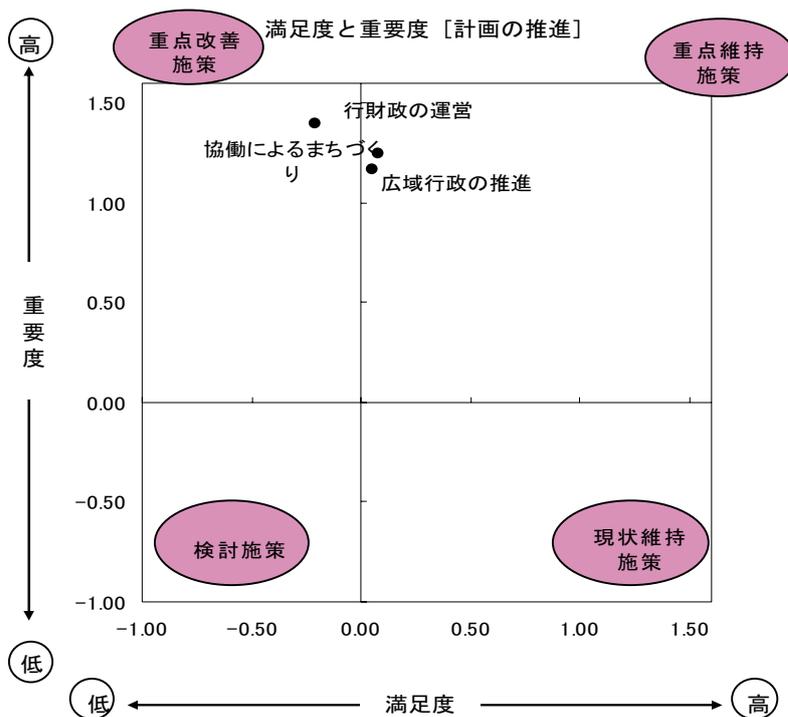


[総合計画を推進するために] 領域



「行財政運営」、「広域行政」、「地域協働」は重点改善施策と重点維持施策のほぼ中間に位置している。

[参考：前回調査（平成21年9月）結果]

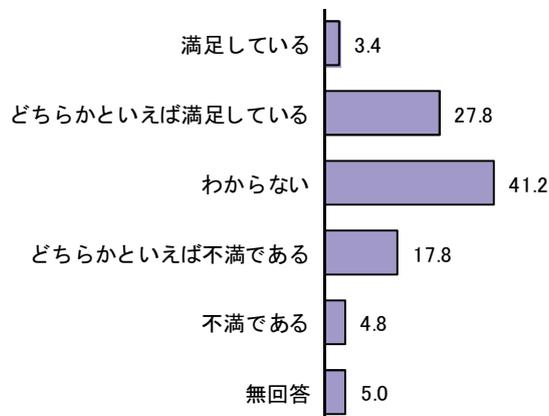


(4) 町政全体の満足感

問7 あなたは現在、町政にどの程度満足していますか。あなたのお気持ちに最も近いものを1つ選び、その番号を○で囲んでください。

町政全体の満足感

n=1523



全体結果

町政全体の満足感については、「わからない」41.2%、「どちらかといえば満足している」27.8%、「どちらかといえば不満である」17.8%に回答が分散している。

「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせたものを“満足”、「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせたものを“不満”とすると、“満足”が31.2%、“不満”が22.6%と、“満足”が“不満”を9ポイント近く上回っている。

属性別

「満足」「わからない」「不満」の3段階で属性別に見てみる。

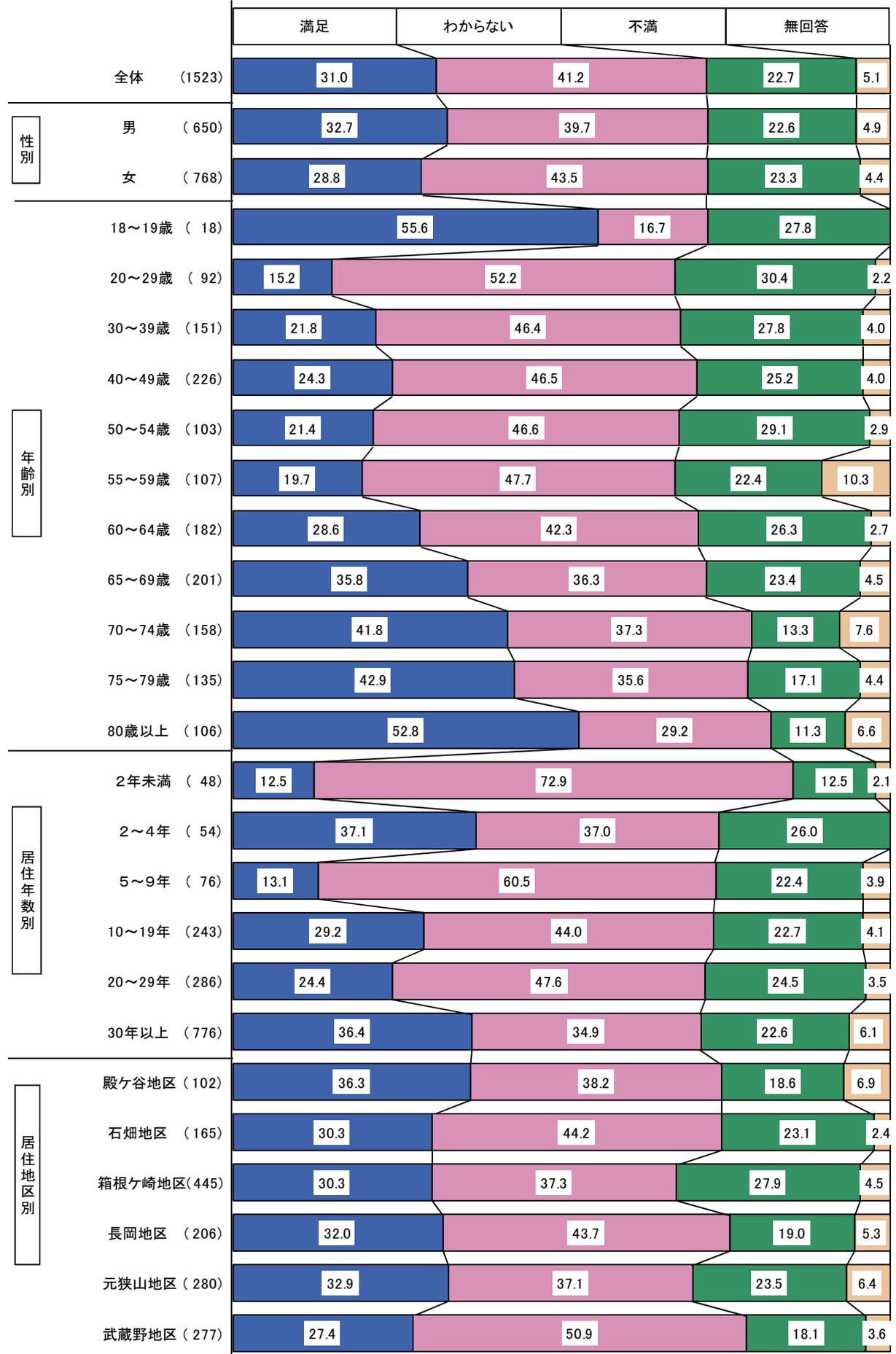
性別では、「満足」に対する男性の回答割合が女性の回答割合よりも4ポイントほど多くなっている。

年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれ「満足」が増え、「不満」が減る傾向となっているが、20歳から59歳は「不満」が上回っている。

居住年数別では、2年未満で「不満」が少ないことが目立っている。

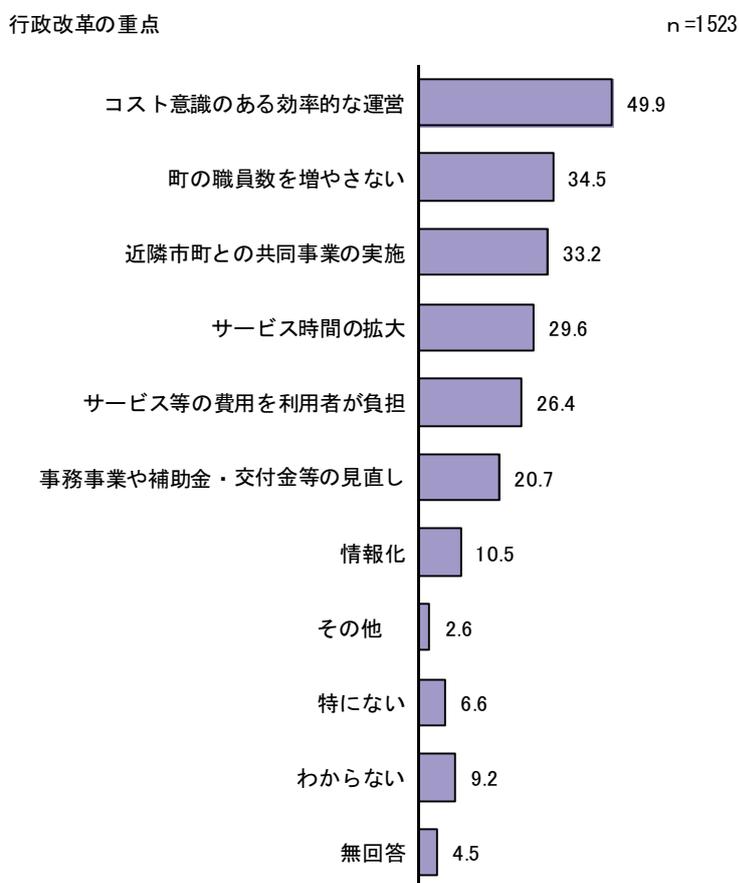
居住地区別では、殿ヶ谷、石畑、箱根ヶ崎、長岡、元狭山の各地区で、「満足」が30%代と比較的多くなっている。武蔵野地区は、「満足」も「不満」も他の地区より少なくなっており、「わからない」の割合が半数を超える。

町政の満足度(性・年齢・居住年数・居住地区別)



(5) 行政改革の重点

問8 町では第4次行政改革大綱に沿って行政改革を進めています。あなたは特に何が重要であると考えますか。次の中から3つ以内で選び、その番号を○で囲んでください。



全体結果

行政改革で特に重要なことは、「町の職員は、民間企業同様のコスト意識をもって事務事業を実施し、効率的な運営に努めるべきである」が49.9%で最も高い。

次いで「町役場、その他町の施設の職員数はなるべく増やさないようにし、事務の委託や臨時職員の採用など、工夫して事務事業を行うべきである」が34.5%、「近隣の市や町と連携して共同で事業を実施したり、スポーツ施設や文化施設の共同利用をもっと進めるべきである」が33.2%、「夜間や休日窓口等、サービス時間の拡大を図るべきである」が29.6%と続く。

属性別

性別では、「町の施設を利用したり、サービスを受ける場合、利用者がある程度の費用を負担するのは当然である」への回答が、男性が多く女性が少ない結果となっている。

年齢別では、65～74歳及び80歳以上で「町の施設を利用したり、サービスを受ける場合、利用者がある程度の費用を負担するのは当然である」への回答が他の年齢層よりも多少多くなっている。また、50歳代では、「町の職員は、民間企業同様のコスト意識をもって事務事業を実施し、効率的な運営に努めるべきである」が他の年齢層に比べ多くなっている。

50歳代以下では「夜間や休日窓口等、サービス時間の拡大を図るべきである」や「近隣の市や町と連携して共同で事業を実施したり、スポーツ施設や文化施設の共同利用をもっと進めるべきである」が比較的多く、65歳から79歳では「町役場、その他町の施設の職員数はなるべく増やさないうようにし、事務の委託化や臨時職員の採用など、工夫して事務事業を行うべきである」が比較的多くなっている。

区分		回答者数	サービス等の費用を利用者が負担	コスト意識のある効率的な運営	事務事業や補助金・交付金等の見直し	サービス時間の拡大	町の職員数を増やさない	近隣市町との共同事業の実施	情報化	その他	特にない	わからない	無回答
全体		1523	26.4	49.9	20.7	29.6	34.5	33.2	10.5	2.6	6.6	9.2	4.5
性別	男	650	31.4	54.3	24.6	30.5	34.8	33.4	12.8	2.8	4.9	6.8	3.7
	女	768	22.0	47.7	17.2	29.4	34.4	33.6	9.0	2.5	7.7	11.1	4.3
年齢別	18～19歳	18	16.7	38.9	22.2	33.3	11.1	50.0	33.3	0.0	5.6	11.1	0.0
	20～29歳	92	17.4	42.4	13.0	35.9	20.7	34.8	6.5	3.3	10.9	12.0	2.2
	30～39歳	151	19.2	47.0	21.9	41.7	23.2	38.4	19.9	2.6	6.0	7.3	1.3
	40～49歳	226	20.4	51.8	18.6	33.2	32.3	36.3	13.3	2.7	4.9	8.4	3.1
	50～54歳	103	22.3	67.0	24.3	36.9	30.1	42.7	14.6	1.0	3.9	2.9	1.9
	55～59歳	107	25.2	57.0	19.6	34.6	37.4	33.6	11.2	2.8	3.7	4.7	7.5
	60～64歳	182	30.8	54.4	22.0	32.4	32.4	35.7	6.0	4.9	5.5	6.6	2.2
	65～69歳	201	36.3	54.2	21.4	23.4	44.8	35.8	7.5	2.5	5.5	4.5	3.0
	70～74歳	158	31.6	49.4	22.8	20.3	40.5	22.2	10.8	0.6	7.6	13.3	8.9
	75～79歳	135	26.7	43.7	23.7	15.6	43.7	26.7	5.2	3.0	4.4	19.3	6.7
80歳以上	106	32.1	30.2	18.9	25.5	35.8	20.8	8.5	0.9	18.9	17.0	6.6	
居住年数別	2年未満	48	16.7	47.9	10.4	43.8	16.7	37.5	12.5	4.2	12.5	8.3	2.1
	2～4年	54	27.8	37.0	20.4	24.1	20.4	51.9	16.7	3.7	9.3	7.4	0.0
	5～9年	76	26.3	46.1	26.3	34.2	30.3	42.1	11.8	2.6	5.3	3.9	2.6
	10～19年	243	21.0	50.2	19.8	31.3	32.5	39.9	12.8	2.1	4.1	9.9	3.7
	20～29年	286	23.4	54.5	19.6	32.9	29.4	30.8	9.8	3.8	7.0	7.7	3.1
	30年以上	776	29.6	50.0	21.3	26.9	39.6	29.6	9.3	1.9	7.0	10.3	5.4

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

居住年数別にみると、比較的居住年数が短い層で「夜間や休日窓口等、サービス時間の拡大を図るべきである」が多く、5～19年では「近隣の市や町と連携して共同で事業を実施したり、スポーツ施設や文化施設の共同利用をもっと進めるべきである」がやや多い。

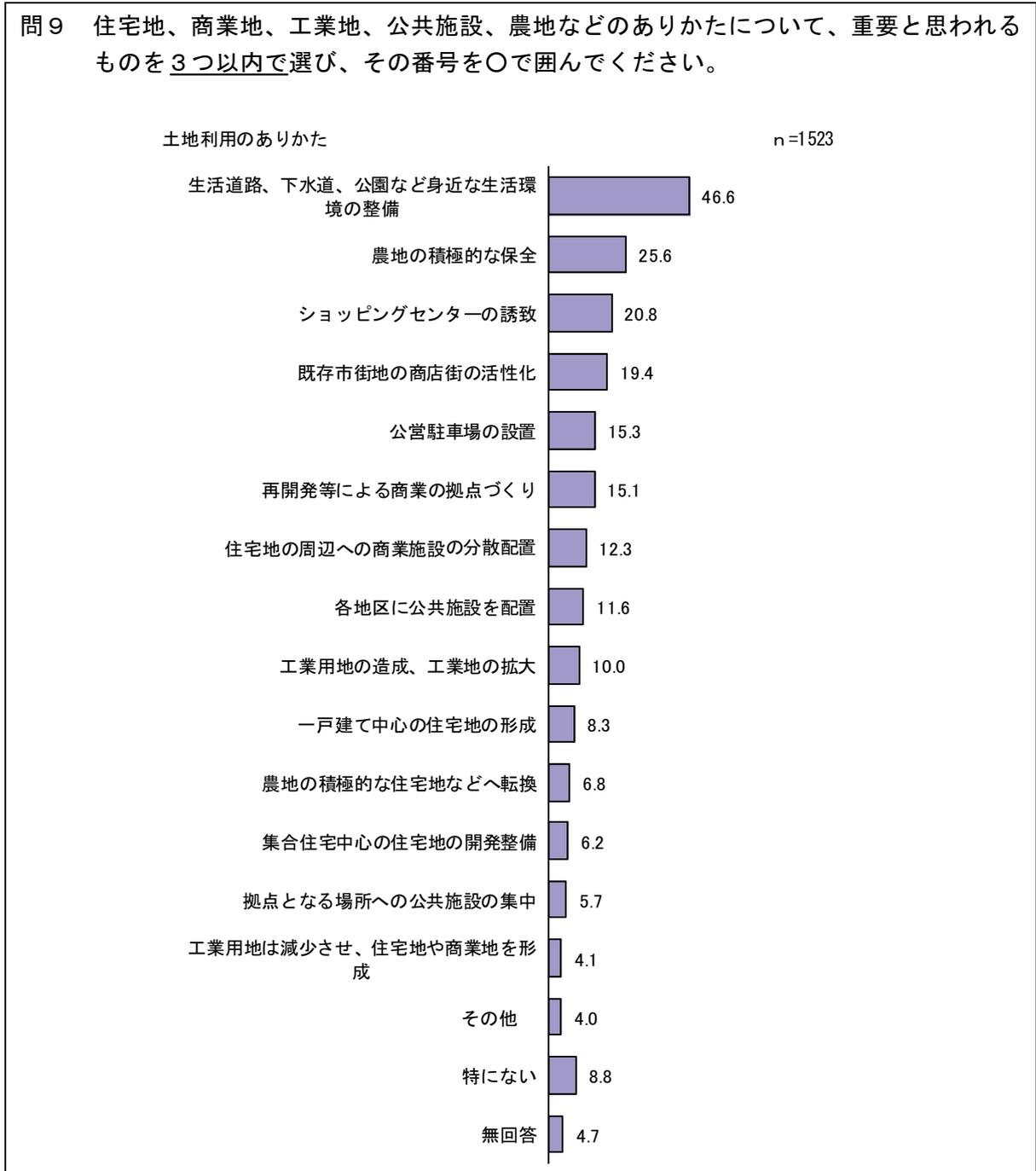
居住地区別では、各地区とも「町の職員は、民間企業同様のコスト意識をもって事務事業を実施し、効率的な運営に努めるべきである」が多くなっている。

区分	回答者数	サービス等の費用を利用者が負担	コスト意識のある効率的な運営	事務事業や補助金・交付金等の見直し	サービス時間の拡大	町の職員数を増やささない	近隣市町との共同事業の実施	情報化	その他	特になし	わからない	無回答
全体	1523	26.4	49.9	20.7	29.6	34.5	33.2	10.5	2.6	6.6	9.2	4.5
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	23.5	46.1	27.5	21.6	33.3	30.4	14.7	2.0	6.9	7.8
	石畑地区	165	27.3	56.4	20.0	25.5	40.0	33.3	6.7	3.6	5.5	3.0
	箱根ヶ崎地区	445	25.4	52.8	21.6	29.7	36.9	36.4	11.2	2.9	4.5	4.0
	長岡地区	206	30.6	49.5	20.4	33.0	30.6	27.7	10.2	1.0	6.8	5.3
	元狭山地区	280	26.8	43.6	23.2	31.4	31.4	34.6	9.6	2.5	9.6	3.6
	武蔵野地区	277	25.6	51.3	15.5	31.4	33.9	32.9	11.6	2.2	6.1	12.3

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

3 瑞穂町において今後力を入れるべきこと

(1) 土地利用のありかた



全体結果

土地利用のありかたについて重要と思われるものをたずねたところ、「生活道路、下水道、公園などの身近な生活環境を整備する」が46.6%、「農地は積極的に保全する」が25.6%と多くなっており、生活環境の向上が求められている。

一方で、「幹線道路沿いにショッピングセンターを誘致する」や「既存市街地の商店街の活性化を図る」も20%前後と比較的高い回答割合となっており、利便性を求める傾向もあらわれている。

属性別

居住年数別では、各居住年数層ともに「生活道路、下水道、公園など身近な生活環境の整備」が多くなっている。

各居住地区においても、「生活道路、下水道、公園などの身近な生活環境を整備する」が多く、殿ヶ谷、箱根ヶ崎地区で「既存市街地の商店街の活性化を図る」が他の地区に比べやや多くなっている。

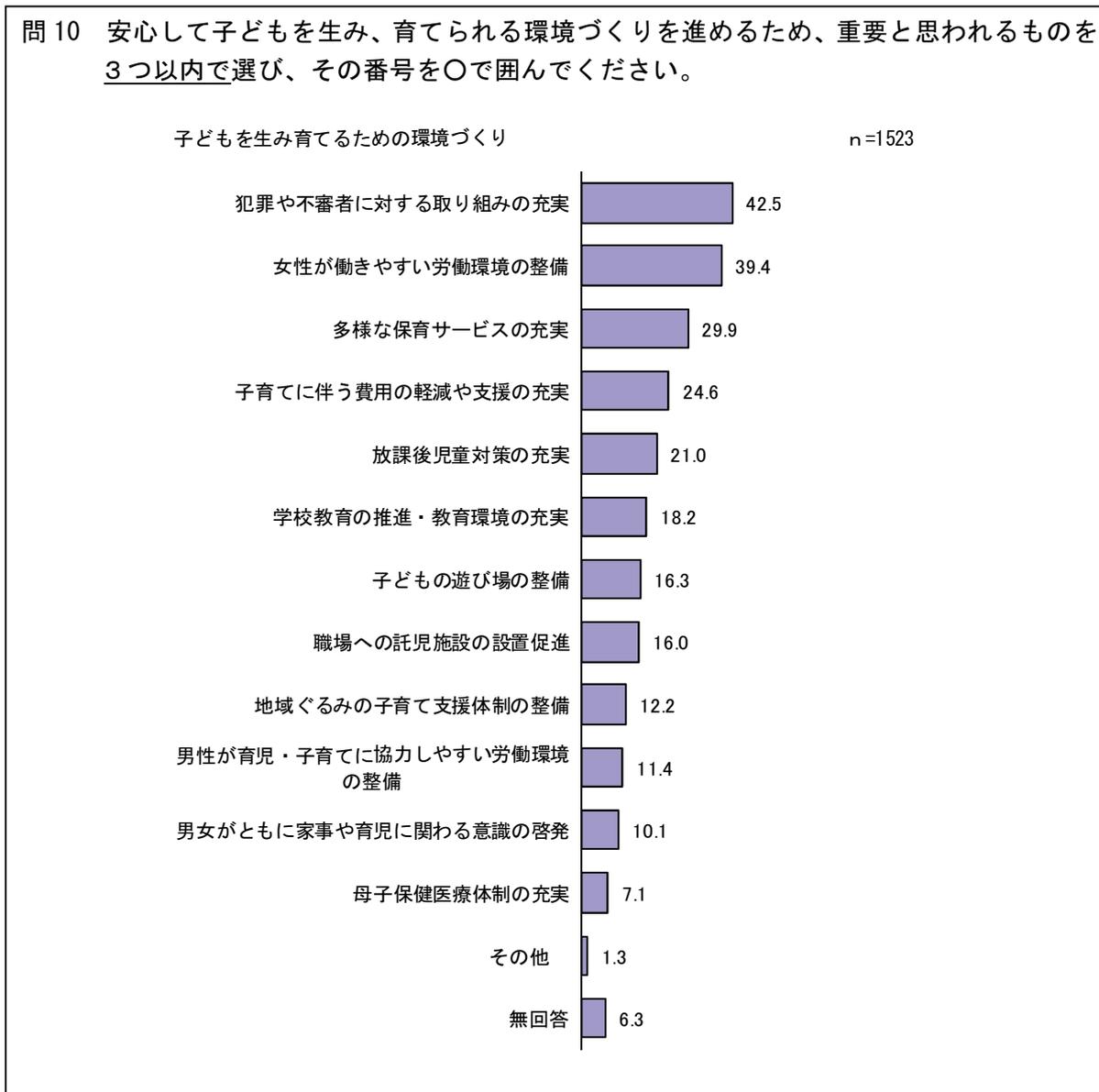
区分		回答者数	集合住宅中心の住宅地の開発整備	一戸建て中心の住宅地の形成	生活道路、下水道、公園など身近な生活環境の整備	ショッピングセンターの誘致	再開発等による商業の拠点づくり	既存市街地の商店街の活性化	住宅地の周辺への商業施設の分散配置	公営駐車場の設置	工業用地は減少させ、住宅地や商業地を形成	工業用地の造成、工業地の拡大
全体		1523	6.2	8.3	46.6	20.8	15.1	19.4	12.3	15.3	4.1	10.0
居住年数別	2年未満	48	6.3	6.3	60.4	27.1	10.4	12.5	16.7	16.7	4.2	0.0
	2～4年	54	9.3	7.4	44.4	25.9	24.1	18.5	16.7	9.3	5.6	5.6
	5～9年	76	9.2	9.2	52.6	23.7	14.5	19.7	7.9	11.8	2.6	6.6
	10～19年	243	9.5	7.8	42.0	23.9	11.5	15.2	9.5	13.2	7.8	6.2
	20～29年	286	4.2	6.6	45.8	19.6	17.5	20.6	11.5	14.7	6.3	10.5
	30年以上	776	5.2	9.4	47.0	18.6	15.3	20.6	13.5	16.8	2.3	12.4
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	8.8	6.9	46.1	20.6	16.7	24.5	5.9	12.7	4.9	9.8
	石畑地区	165	6.1	6.7	46.1	20.0	15.8	19.4	12.1	17.6	3.6	10.3
	箱根ヶ崎地区	445	5.6	9.2	48.5	21.8	17.5	24.5	14.2	14.4	5.6	10.6
	長岡地区	206	5.3	11.2	47.6	21.4	15.5	13.1	15.0	15.0	3.9	9.2
	元狭山地区	280	7.5	9.3	47.1	18.9	13.2	17.9	10.7	17.5	2.5	8.9
	武蔵野地区	277	5.1	6.1	43.7	20.2	12.6	15.5	12.3	12.3	4.0	11.2

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

区分		回答者数	各地区に公共施設を配置	拠点となる場所への公共施設の集中	農地の積極的な保全	農地の積極的な住宅地などへ転換	その他	特になし	無回答
全体		1523	11.6	5.7	25.6	6.8	4.0	8.8	4.7
居住年数別	2年未満	48	9.7	5.5	27.7	9.8	12.5	10.4	2.1
	2～4年	54	13.9	5.7	24.7	4.7	1.9	3.7	0.0
	5～9年	76	11.1	5.6	38.9	5.6	2.6	9.2	2.6
	10～19年	243	13.0	4.3	21.7	4.3	3.7	11.9	4.9
	20～29年	286	11.3	7.9	27.8	4.6	3.1	6.3	3.1
	30年以上	776	15.0	3.1	24.3	4.9	4.1	9.1	5.4
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	13.6	10.7	21.4	7.8	1.0	10.8	6.9
	石畑地区	165	15.0	6.5	29.0	2.8	6.1	9.7	3.0
	箱根ヶ崎地区	445	9.3	7.7	28.0	9.9	3.8	7.0	4.3
	長岡地区	206	11.4	3.5	26.9	6.5	2.9	8.3	5.3
	元狭山地区	280	10.1	6.3	27.2	8.9	5.0	9.6	4.3
	武蔵野地区	277	7.4	3.7	23.0	11.9	4.0	10.5	4.3

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(2) 子どもを生み育てるための環境づくり



全体結果

子どもを生み育てるための環境づくりについては、「犯罪や不審者に対する取り組みの充実」が42.5%と最も多くなっている。

次いで、「女性が働きやすい労働環境の整備」が39.4%、「多様な保育サービスの充実（延長保育など）」が29.9%、「子育てに伴う費用の軽減や支援の充実」が24.6%と続いている。

属性別

性別では、あまり大きな差はみられないが、「男性が育児・子育てに協力しやすい労働環境の整備」と「多様な保育サービスの充実」では女性よりも男性の回答割合が多い。

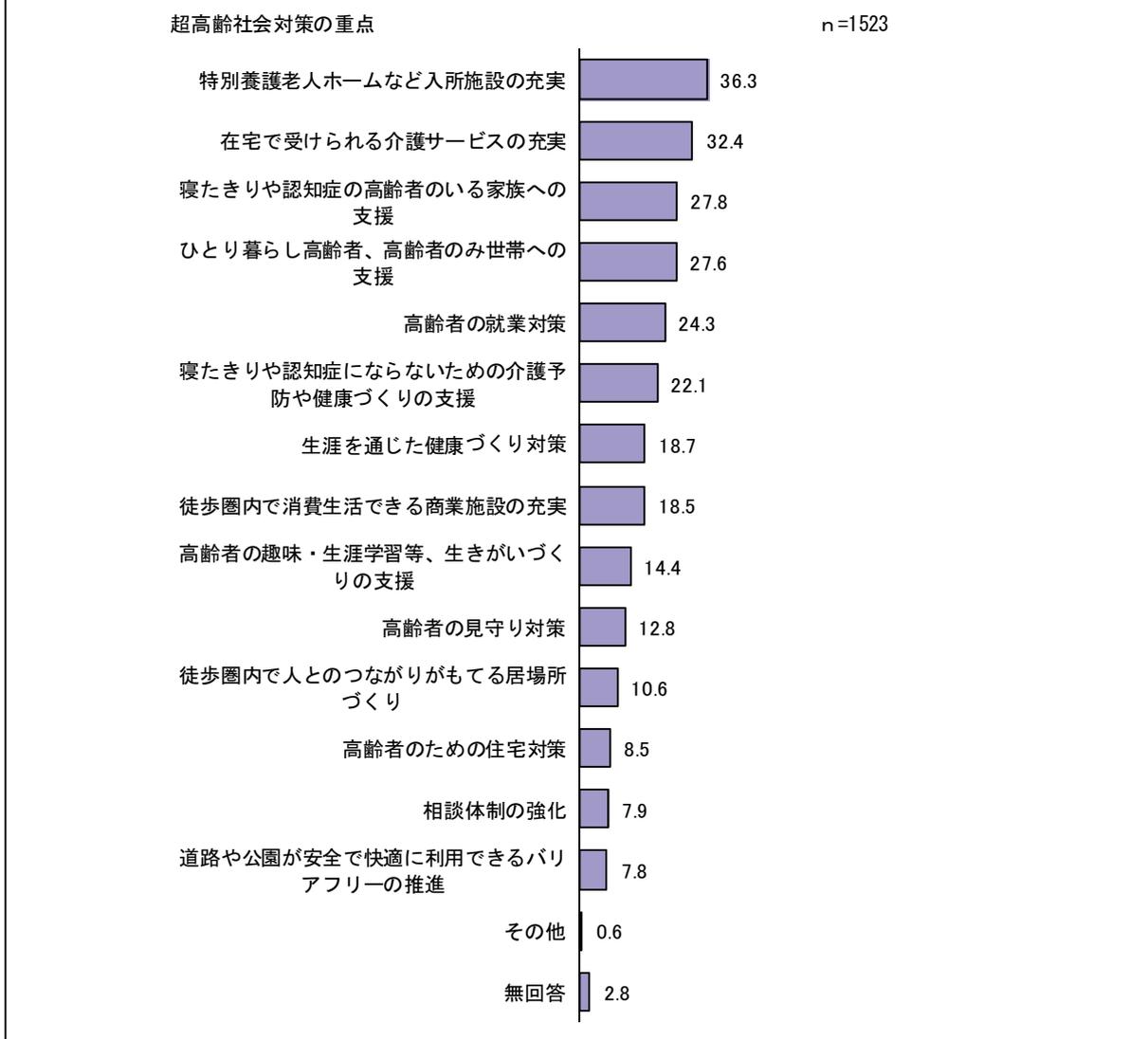
年齢別に見ると、「多様な保育サービスの充実」は各年齢層ともに比較的高い割合となっている。しかし、乳幼児の子育てがひと段落する30～49歳では、他の年齢層に比べ多少割合が少なくなっており、そのかわり、「子育てに伴う費用の軽減や支援の充実」が多くなっている。

区分		回答者数	女性が働きやすい労働環境の整備	男性が育児・子育てに協力しやすい労働環境の整備	職場への託児施設の設置促進	多様な保育サービスの充実	放課後児童対策の充実	子どもの遊び場の整備	学校教育の推進・教育環境の充実	母子保健医療体制の充実	子育てに伴う費用の軽減や支援の充実	地域ぐるみの子育て支援体制の整備	男女がともに家事や育児に関わる意識の啓発	犯罪や不審者に対する取り組みの充実	その他	無回答
全体		1523	39.4	11.4	16.0	29.9	21.0	16.3	18.2	7.1	24.6	12.2	10.1	42.5	1.3	6.3
性別	男	650	38.8	13.4	14.8	32.5	21.5	17.4	18.2	6.0	25.5	11.8	9.7	42.8	1.2	4.6
	女	768	40.4	9.6	16.8	27.7	21.4	15.9	18.9	8.2	24.3	13.4	10.3	43.5	1.3	6.3
年齢別	18～19歳	18	38.9	27.8	11.1	27.8	16.7	38.9	11.1	5.6	11.1	16.7	11.1	61.1	5.6	0.0
	20～29歳	92	44.6	9.8	17.4	42.4	23.9	22.8	15.2	10.9	29.3	6.5	7.6	30.4	1.1	3.3
	30～39歳	151	29.1	19.2	19.9	22.5	22.5	26.5	11.3	9.3	32.5	8.6	8.6	59.6	1.3	0.7
	40～49歳	226	29.6	10.6	12.8	27.9	18.1	18.6	25.7	8.8	33.6	9.3	11.5	51.8	2.7	0.9
	50～54歳	103	44.7	7.8	5.8	38.8	16.5	19.4	24.3	1.9	24.3	16.5	9.7	46.6	1.0	2.9
	55～59歳	107	41.1	13.1	13.1	36.4	17.8	14.0	19.6	5.6	24.3	11.2	13.1	42.1	2.8	0.9
	60～64歳	182	47.3	8.8	21.4	43.4	24.2	14.8	13.7	11.0	22.5	18.1	7.7	36.3	1.6	2.7
	65～69歳	201	43.3	11.9	15.9	30.3	22.4	11.9	25.4	5.0	19.4	15.9	11.4	39.3	0.0	4.5
	70～74歳	158	34.8	8.2	17.1	21.5	27.8	13.3	15.8	2.5	23.4	13.3	8.9	41.8	0.0	13.3
	75～79歳	135	44.4	8.9	14.8	23.7	23.7	14.1	14.1	7.4	21.5	12.6	10.4	37.8	0.7	15.6
80歳以上	106	44.3	13.2	16.0	16.0	9.4	10.4	14.2	6.6	18.9	5.7	11.3	34.0	1.9	18.9	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(3) 超高齢社会対策の重点

問 11 これからの超高齢社会に向けて、重要と思われるものを3つ以内で選び、その番号を○で囲んでください。



全体結果

超高齢社会対策の重点については、「特別養護老人ホームなど入所施設の充実」が 36.3%と最も多くなっている。

次いで、「在宅で受けられる介護サービスの充実」が 32.4%、「寝たきりや認知症の高齢者のいる家族への支援」が 27.8%、「ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯への支援」が 27.6%と続いている。

属性別

性別では、「寝たきりや認知症の高齢者のいる家族への支援」や「特別養護老人ホームなど入所施設の充実」に対する男性の回答割合に比べ、女性の回答割合が比較的多くなっている。

年齢別に見ると、60歳以上に比べ、40～59歳までの「高齢者の就業対策」への回答割合が多い。また、59歳代以下では「寝たきりや認知症の高齢者のいる家族への支援」が、それ以上の年齢層に比べ多い一方、60歳代においては「特別養護老人ホームなど入所施設の充実」が多い。

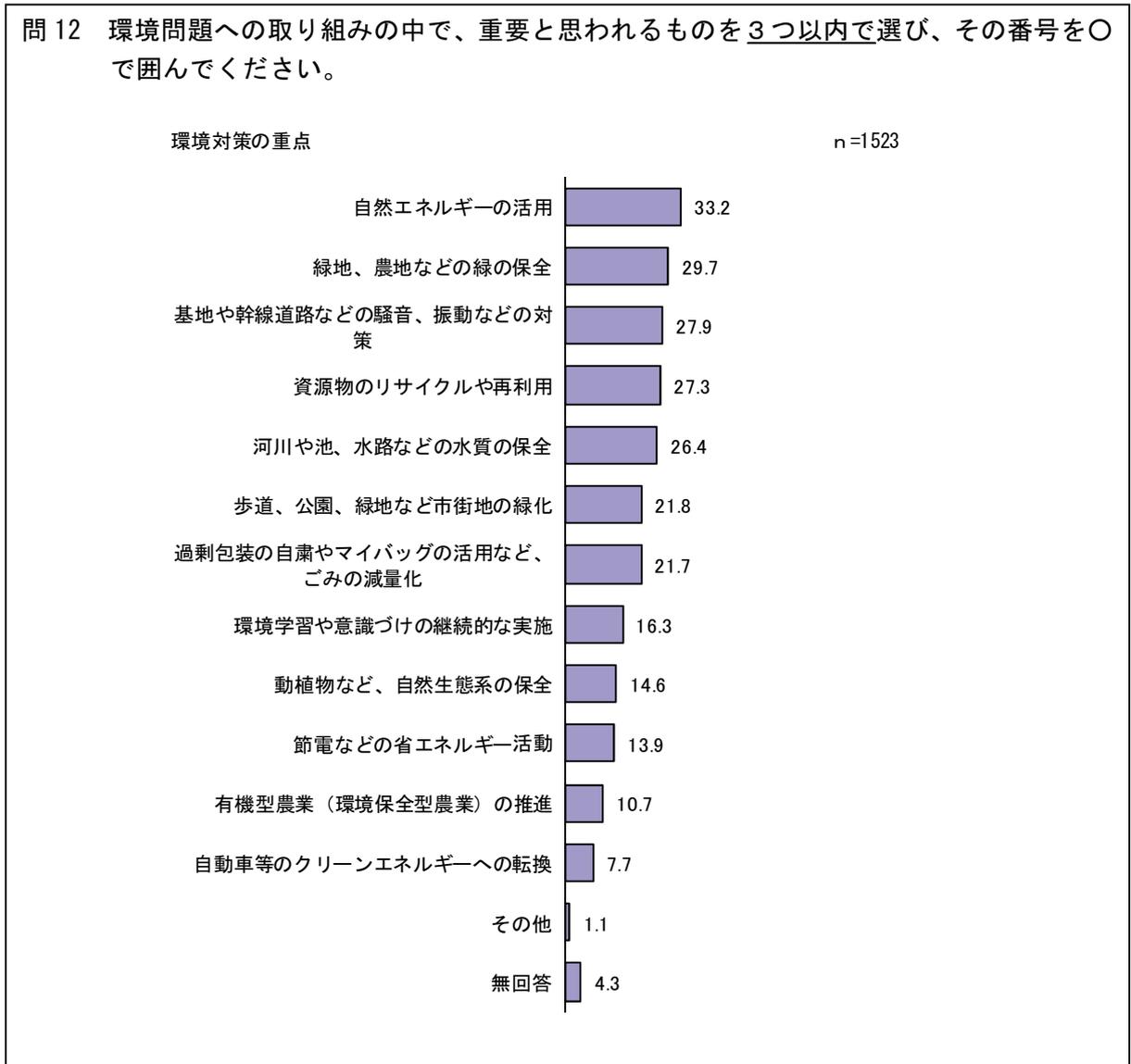
区分		回答者数	高齢者の就業対策	生涯を通じた健康づくり対策	在宅で受けられる介護サービスの充実	ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯への支援	寝たきりや認知症にならないための介護予防や健康づくりの支援	寝たきりや認知症の高齢者のいる家族への支援	高齢者の趣味・生涯学習等、生きがいづくりの支援	特別養護老人ホームなど入所施設の充実	道路や公園が安全で快適に利用できるバリアフリーの推進	徒歩圏内で人とのつながりがもてる居場所づくり	高齢者のための住宅対策	相談体制の強化	高齢者の見守り対策	徒歩圏内で消費生活できる商業施設の充実
全体		1523	24.3	18.7	32.4	27.6	22.1	27.8	14.4	36.3	7.8	10.6	8.5	7.9	12.8	18.5
性別	男	650	28.2	20.8	30.9	25.8	22.8	24.5	14.5	33.4	9.7	10.8	6.5	9.8	14.5	18.6
	女	768	21.1	17.4	33.2	28.9	21.5	31.8	14.3	39.1	6.9	11.1	9.8	6.5	11.5	18.9
年齢別	18～19歳	18	44.4	22.2	5.6	44.4	11.1	27.8	27.8	16.7	27.8	27.8	0.0	0.0	11.1	5.6
	20～29歳	92	25.0	17.4	26.1	29.3	23.9	30.4	12.0	29.3	9.8	12.0	7.6	4.3	15.2	10.9
	30～39歳	151	26.5	16.6	29.8	26.5	22.5	32.5	14.6	28.5	13.2	13.2	7.9	6.6	12.6	14.6
	40～49歳	226	31.4	17.7	26.1	27.9	20.8	28.8	8.4	31.4	8.8	13.7	11.5	9.3	13.3	24.8
	50～54歳	103	33.0	20.4	27.2	20.4	16.5	35.9	18.4	36.9	7.8	11.7	8.7	9.7	6.8	23.3
	55～59歳	107	30.8	18.7	30.8	36.4	15.9	29.9	15.9	39.3	4.7	6.5	10.3	10.3	11.2	15.9
	60～64歳	182	26.4	21.4	35.2	30.2	23.6	23.6	14.8	45.6	7.1	6.6	8.8	11.0	11.5	18.1
	65～69歳	201	24.4	20.9	34.8	27.4	24.4	21.9	16.4	40.8	5.5	10.4	7.0	6.5	11.4	22.4
	70～74歳	158	13.3	16.5	40.5	22.2	23.4	27.8	17.1	39.9	9.5	10.1	7.6	5.7	14.6	20.9
	75～79歳	135	11.9	17.8	42.2	29.6	25.9	26.7	14.1	40.7	3.7	8.1	5.9	8.1	17.8	16.3
80歳以上	106	13.2	20.8	35.8	26.4	24.5	28.3	12.3	30.2	6.6	10.4	6.6	4.7	15.1	13.2	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

区分		回答者数	その他	無回答
全体		1523	0.6	2.8
性別	男	650	1.2	2.2
	女	768	0.1	2.5
年齢別	18～19 歳	18	0.0	0.0
	20～29 歳	92	1.1	3.3
	30～39 歳	151	0.7	0.7
	40～49 歳	226	0.4	0.9
	50～54 歳	103	1.0	1.9
	55～59 歳	107	0.0	2.8
	60～64 歳	182	1.6	1.1
	65～69 歳	201	0.0	2.0
	70～74 歳	158	0.6	3.2
	75～79 歳	135	0.7	3.7
80 歳以上	106	0.0	10.4	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(4) 環境対策の重点



全体結果

環境対策の重点については、「太陽や風などを利用した自然エネルギーの活用」が 33.2%と最も多くなっている。

次いで、「緑地、農地などの緑の保全」が 29.7%、「基地や幹線道路などの騒音、振動などの対策」が 27.9%、「ビン、カン、ペットボトル、新聞、雑誌などの資源物のリサイクルや再利用」が 27.3%、「河川や池、水路などの水質の保全」が 26.4%と続いている。

属性別

性別では、「緑地、農地などの緑の保全」や「動植物など、自然生態系の保全」に対する女性の回答に比べ、男性の回答割合が多い。その一方で、「過剰包装自粛やマイバッグの活用など、ごみの減量」に対しては、男性よりも女性の回答割合が多い。

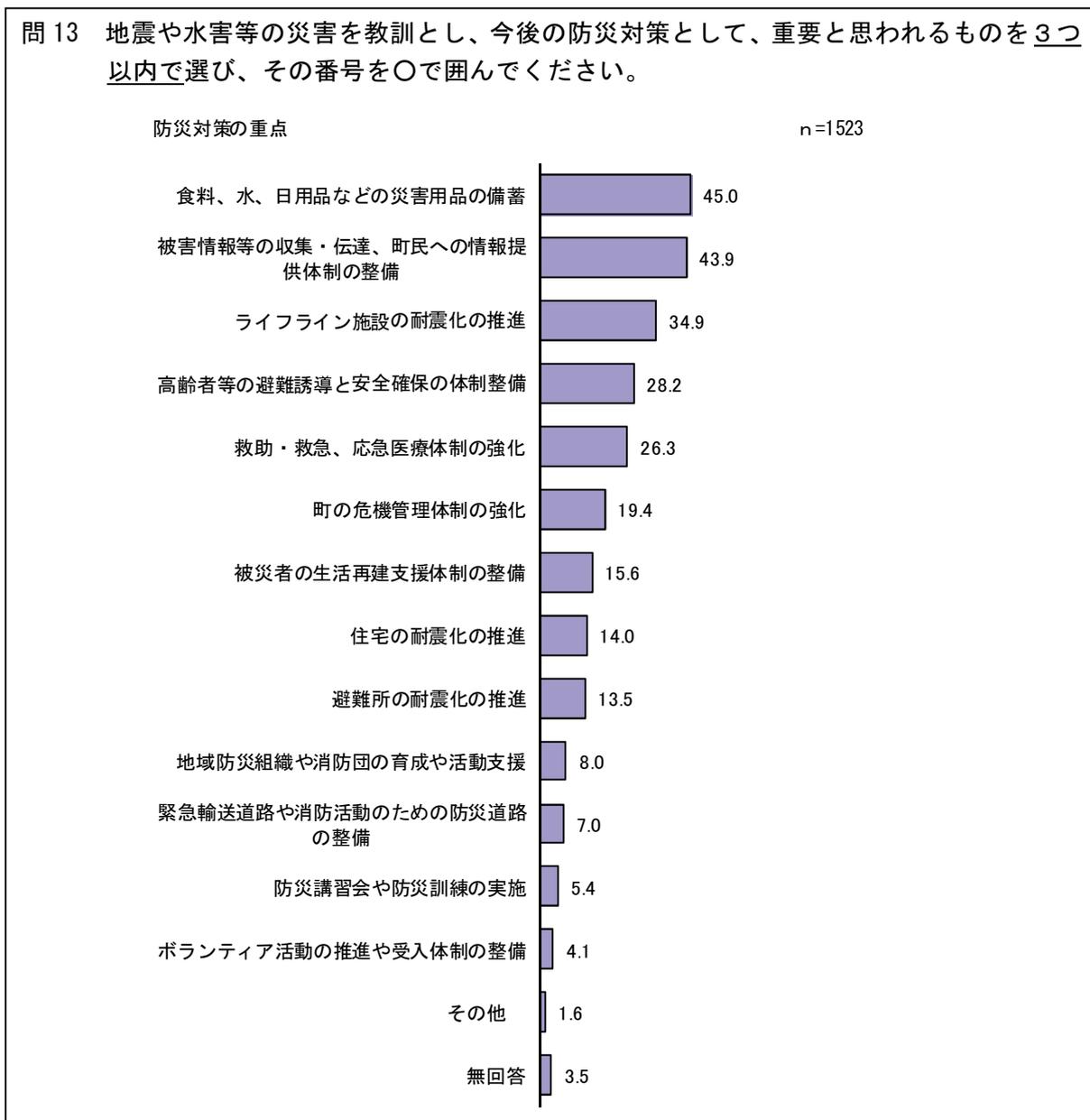
年齢別に見ると、30歳代以下では「河川や池、水路などの水質の保全」が多くなっており、50歳以上では、「緑地、農地などの緑の保全」及び「自然エネルギーの活用」が多い。

居住地区別では、殿ヶ谷地区、石畑地区及び箱根ヶ崎地区で、「河川や池、水路などの水質の保全」への回答割合がやや多い。

区分		回答者数	緑地、農地などの緑の保全	河川や池、水路などの水質の保全	動植物など、自然生態系の保全	自然エネルギーの活用	自動車等のクリーンエネルギーへの転換	節電などの省エネルギー活動	過剰包装自粛やマイバッグノ活用など、ごみの減量化	資源物のリサイクルや再利用	有機型農業（環境保全型農業）の推進	環境学習や意識づけの継続的な実施	歩道、公園、緑地など市街地の緑化	基地や幹線道路などの騒音、振動などの対策	その他	無回答
全体		1523	29.7	26.4	14.6	33.2	7.7	13.9	21.7	27.3	10.7	16.3	21.8	27.9	1.1	4.3
性別	男	650	32.5	28.2	18.5	35.1	8.0	13.5	16.3	26.0	8.9	16.3	22.5	30.6	1.4	3.2
	女	768	27.7	25.7	11.6	32.3	7.6	14.1	26.6	28.0	12.0	17.1	20.4	25.9	0.9	4.3
年齢別	18～19歳	18	55.6	33.3	27.8	22.2	5.6	11.1	22.2	22.2	5.6	5.6	33.3	16.7	0.0	0.0
	20～29歳	92	30.4	30.4	13.0	27.2	13.0	13.0	15.2	30.4	6.5	12.0	26.1	26.1	0.0	6.5
	30～39歳	151	31.1	35.1	14.6	31.1	9.3	14.6	13.9	21.2	9.3	15.9	29.1	30.5	1.3	0.7
	40～49歳	226	28.3	30.1	14.6	37.6	10.6	12.8	15.0	30.1	8.0	13.7	23.5	28.3	1.8	0.4
	50～54歳	103	35.0	23.3	11.7	48.5	11.7	11.7	14.6	24.3	9.7	16.5	19.4	29.1	1.0	1.9
	55～59歳	107	41.1	32.7	16.8	39.3	6.5	14.0	21.5	26.2	10.3	17.8	18.7	22.4	0.0	1.9
	60～64歳	182	30.2	18.7	17.6	34.6	6.6	16.5	28.6	20.9	12.6	25.8	22.5	29.1	1.1	2.7
	65～69歳	201	27.4	23.4	12.4	30.3	5.5	16.9	27.9	27.9	15.4	18.9	17.9	26.9	2.0	4.5
	70～74歳	158	24.1	27.8	10.8	32.9	6.3	12.7	24.7	31.6	15.8	15.8	20.9	21.5	0.6	7.6
	75～79歳	135	22.2	22.2	19.3	30.4	7.4	14.8	23.0	31.9	10.4	14.1	14.1	39.3	0.7	7.4
80歳以上	106	30.2	17.9	12.3	23.6	0.9	9.4	32.1	34.9	7.5	10.4	21.7	25.5	0.9	10.4	
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	30.4	32.4	17.6	31.4	8.8	10.8	27.5	23.5	4.9	16.7	18.6	23.5	0.0	4.9
	石畑地区	165	26.1	28.5	16.4	37.0	7.9	18.8	22.4	27.9	9.1	13.9	23.0	25.5	0.0	2.4
	箱根ヶ崎地区	445	29.7	30.1	14.6	35.7	7.2	11.2	21.8	26.5	12.8	14.8	21.6	29.4	1.6	4.0
	長岡地区	206	32.5	26.2	8.3	29.6	8.7	16.0	21.4	28.2	14.1	18.0	19.4	27.2	1.5	3.4
	元狭山地区	280	30.0	19.6	14.6	32.9	6.8	17.1	22.1	27.1	9.6	19.6	19.3	26.8	0.7	5.0
	武蔵野地区	277	28.9	25.3	17.3	31.4	8.3	12.6	19.5	29.6	9.7	16.2	24.2	30.3	1.4	3.6

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(5) 防災対策の重点



全体結果

防災対策の重点については、「食料、水、日用品などの災害用品の備蓄」が45.0%と最も多くなっている。

次いで「地震情報や被害情報などの収集・伝達体制や町民への情報提供体制の整備」が43.9%、「電気、上下水道、電話などのライフライン施設の耐震化の推進」が34.9%と続いている。

属性別

性別では、「食料、水、日用品などの災害用品の備蓄」に対する女性の回答割合が、男性に比べて多くなっている。

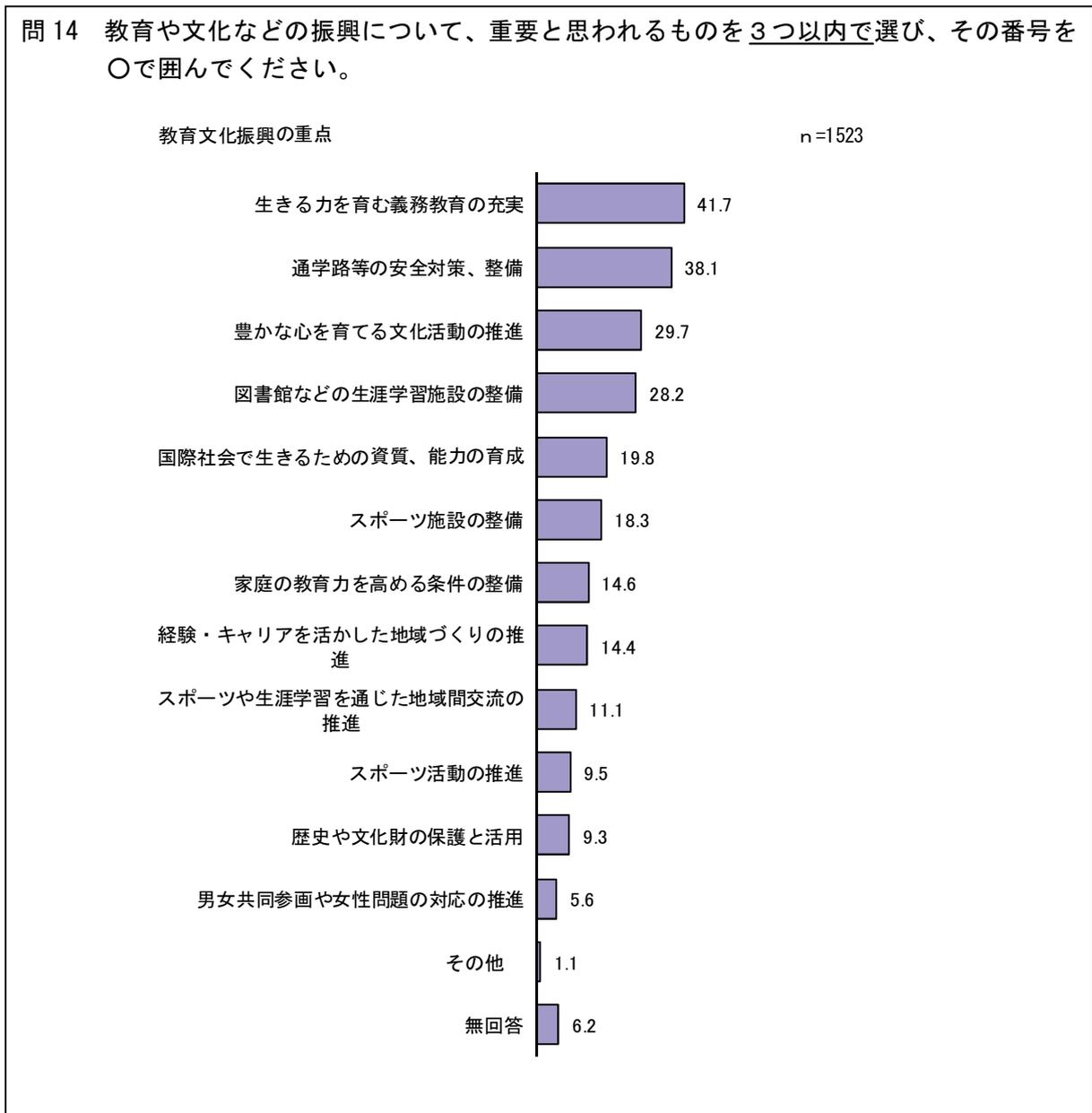
年齢別では、「地震情報や被害情報などの収集・伝達体制や町民への情報提供体制の整備」が各年齢層ともに回答割合が多いが、18歳～40歳代で「食料、水、日用品などの災害用品の備蓄」が、70歳以上で「高齢者、障がい者等の避難誘導と安全確保の体制整備」が多い。また、20～30歳代では「電気、上下水道、電話などのライフライン施設の耐震化の推進」が多い。

居住地区別でも、「地震情報や被害情報などの収集・伝達体制や、町民への情報提供体制の整備」が多い。

区分		回答者数	被害情報等の収集・伝達、町民への情報提供体制の整備	避難所の耐震化の推進	高齢者等の避難誘導と安全確保の体制整備	救助・救急、応急医療体制の強化	食料、水、日用品などの災害用品の備蓄	ボランティア活動の推進や受入体制の整備	地域防災組織や消防団の育成や活動支援	被災者の生活再建支援体制の整備	防災講習会や防災訓練の実施	緊急輸送道路や消防活動のための防災道路の整備	ライフライン施設の耐震化の推進	住宅の耐震化の推進	町の危機管理体制の強化	その他	無回答
全体		1523	43.9	13.5	28.2	26.3	45.0	4.1	8.0	15.6	5.4	7.0	34.9	14.0	19.4	1.6	3.5
性別	男	650	42.0	11.5	27.1	30.5	39.8	5.1	9.4	17.1	5.7	6.8	37.7	14.5	20.3	2.3	2.6
	女	768	45.3	14.5	29.0	23.6	49.5	3.1	6.8	14.8	5.5	6.9	34.0	13.4	19.7	1.2	3.3
年齢別	18～19歳	18	44.4	16.7	38.9	27.8	55.6	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	38.9	16.7	11.1	0.0	0.0
	20～29歳	92	44.6	22.8	19.6	26.1	58.7	3.3	1.1	10.9	2.2	3.3	46.7	12.0	9.8	1.1	4.3
	30～39歳	151	39.7	17.9	13.9	25.8	59.6	4.6	6.0	13.2	4.6	8.6	46.4	17.2	19.9	1.3	0.7
	40～49歳	226	43.4	8.4	19.9	31.9	53.1	5.8	5.3	17.7	3.5	6.6	39.8	12.8	19.5	1.8	1.3
	50～54歳	103	43.7	10.7	26.2	31.1	36.9	1.9	8.7	27.2	1.0	5.8	35.9	16.5	26.2	0.0	2.9
	55～59歳	107	38.3	12.1	30.8	29.9	41.1	5.6	11.2	11.2	2.8	11.2	38.3	14.0	24.3	1.9	0.9
	60～64歳	182	44.0	15.4	28.6	35.2	35.7	2.7	8.2	14.8	7.1	7.1	37.9	14.8	22.5	3.8	2.2
	65～69歳	201	46.3	13.9	23.4	22.4	42.3	4.5	6.5	19.4	10.4	5.5	34.3	13.4	21.9	1.0	3.0
	70～74歳	158	44.3	13.9	39.9	17.7	46.2	5.1	11.4	12.0	7.0	9.5	19.6	13.3	19.6	1.3	5.1
	75～79歳	135	45.2	10.4	40.7	20.0	39.3	3.0	12.6	17.8	5.9	8.9	27.4	17.8	16.3	2.2	4.4
80歳以上	106	46.2	13.2	47.2	20.8	34.0	2.8	11.3	9.4	6.6	3.8	22.6	11.3	14.2	0.0	9.4	
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	40.2	8.8	24.5	28.4	48.0	2.0	6.9	9.8	5.9	10.8	31.4	17.6	24.5	0.0	3.9
	石畑地区	165	38.8	16.4	27.9	24.8	43.6	6.7	9.7	11.5	7.3	8.5	35.2	12.7	24.2	2.4	3.0
	箱根ヶ崎地区	445	45.4	14.8	27.0	27.0	45.2	4.5	8.1	18.0	5.2	3.8	38.7	13.5	18.9	1.3	2.5
	長岡地区	206	45.6	12.1	25.2	29.6	43.7	2.9	10.7	16.0	1.9	5.8	36.4	14.6	20.9	1.5	2.4
	元狭山地区	280	46.1	13.9	27.5	25.7	45.7	3.9	7.9	13.2	5.4	7.5	30.7	16.1	16.1	2.1	4.3
	武蔵野地区	277	41.5	11.6	33.9	24.2	45.8	4.0	6.1	17.3	7.6	10.1	34.3	13.7	19.5	1.8	3.2

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(6) 教育文化振興の重点



全体結果

教育文化振興の重点については、「子ども達が生きる力を育む義務教育の充実」が41.7%と最も多くなっている。

次いで「通学路等の安全対策、整備」が38.1%、「豊かな心を育てる文化活動の推進」が29.7%、「図書館などの生涯学習施設の整備」が28.2%と続いている。

属性別

性別では、「子ども達が生きる力を育む義務教育の充実」に対する女性の回答割合が男性よりも比較的多く、「図書館などの生涯学習施設の整備」も多い。

一方、「経験・キャリアを活かした地域づくりの推進」や「スポーツ活動の推進」は、女性に比べ男性の回答割合が多い。

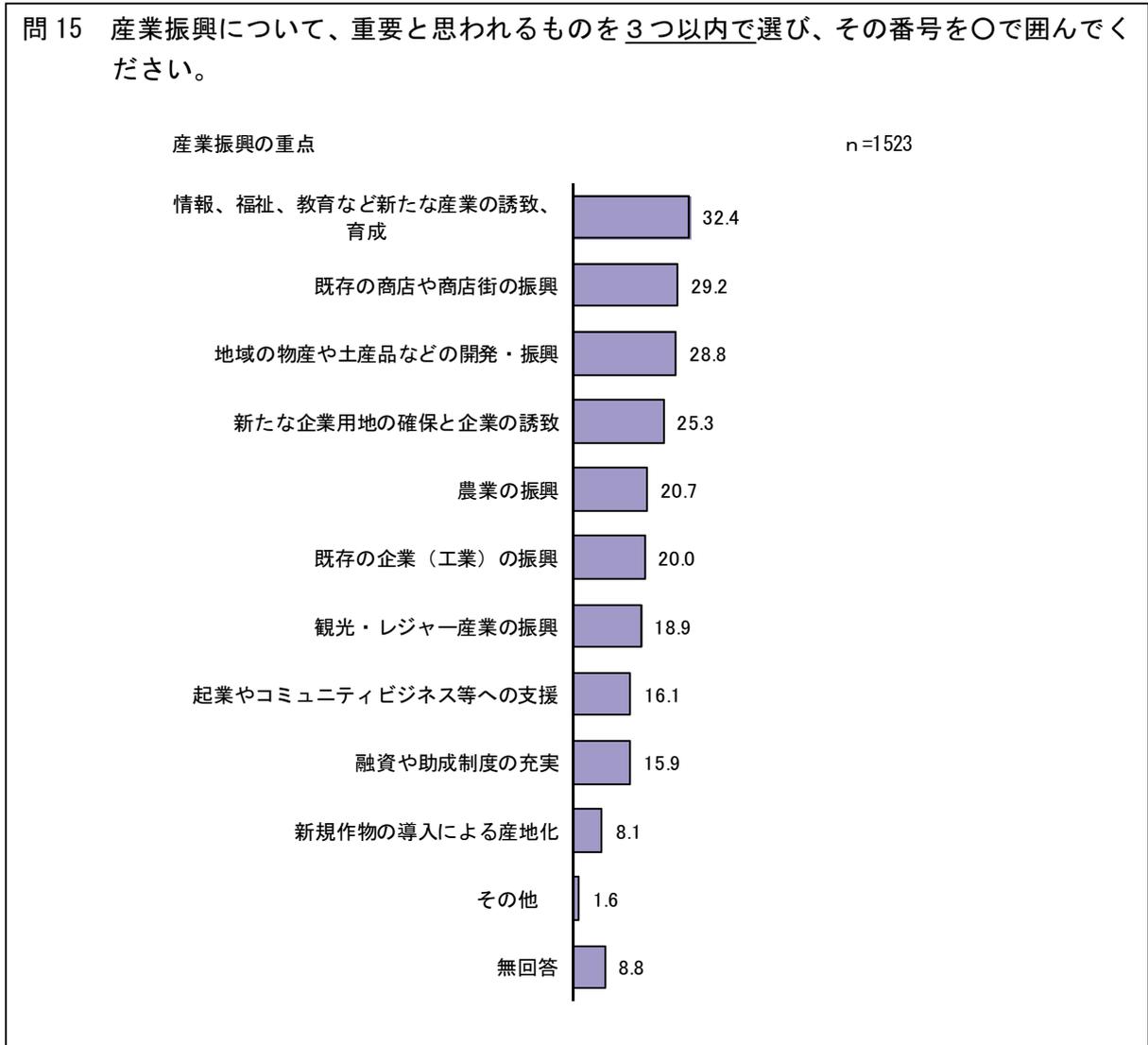
年齢別では、20歳～60歳代前半で「図書館などの生涯学習施設の整備」が多く、スポーツに関する項目は若い世代の回答が比較的多い。

地区別では、「通学路等の安全対策、整備」への回答は各地区ともに多いが、長岡、元狭山の2地区で4割を超える。また、「図書館などの生涯学習施設の整備」は、箱根ヶ崎及び殿ヶ谷の2地区の回答が比較的多い。

区分		回答者数	図書館などの生涯学習施設の整備	経験・キャリアを活かした地域づくりの推進	生きる力を育む義務教育の充実	国際社会で生きるための資質、能力の育成	家庭の教育力を高める条件の整備	豊かな心を育てる文化活動の推進	歴史や文化財の保護と活用	スポーツ施設の整備	スポーツ活動の推進	スポーツや生涯学習を通じた地域間交流の推進	男女共同参画や女性問題の対応の推進	通学路等の安全対策、整備	その他	無回答
全体		1523	28.2	14.4	41.7	19.8	14.6	29.7	9.3	18.3	9.5	11.1	5.6	38.1	1.1	6.2
性別	男	650	26.5	17.1	37.2	20.0	13.2	28.9	10.9	18.5	11.7	12.0	5.7	37.8	1.5	5.8
	女	768	30.1	12.6	45.7	19.0	16.4	31.1	7.8	18.2	7.8	10.3	5.6	39.6	0.8	5.2
年齢別	18～19歳	18	38.9	11.1	27.8	22.2	5.6	50.0	0.0	16.7	27.8	27.8	0.0	27.8	0.0	0.0
	20～29歳	92	45.7	6.5	34.8	23.9	16.3	31.5	5.4	26.1	12.0	9.8	4.3	34.8	0.0	1.1
	30～39歳	151	32.5	11.3	37.7	22.5	11.9	17.9	11.3	20.5	12.6	9.9	2.0	52.3	0.7	3.3
	40～49歳	226	29.2	10.6	34.5	22.1	11.5	20.8	8.4	27.0	15.0	9.3	4.9	42.5	1.8	3.5
	50～54歳	103	33.0	13.6	46.6	18.4	12.6	28.2	8.7	24.3	9.7	13.6	1.9	35.0	1.9	2.9
	55～59歳	107	30.8	19.6	43.9	16.8	15.9	34.6	11.2	14.0	7.5	7.5	5.6	41.1	0.0	3.7
	60～64歳	182	34.6	19.8	42.9	15.9	18.1	30.2	10.4	16.5	5.5	12.6	3.8	41.2	2.2	4.4
	65～69歳	201	27.4	17.4	45.8	18.4	13.9	34.3	11.9	17.9	10.4	13.4	9.0	30.8	0.5	4.5
	70～74歳	158	15.2	13.9	52.5	20.9	14.6	39.2	8.9	8.9	8.2	12.0	7.6	31.6	1.3	10.8
	75～79歳	135	17.8	14.1	45.2	25.9	17.0	30.4	8.1	12.6	4.4	11.1	10.4	37.8	1.5	12.6
80歳以上	106	20.8	15.1	39.6	11.3	22.6	31.1	9.4	12.3	4.7	6.6	6.6	33.0	0.9	15.1	
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	30.4	8.8	39.2	21.6	13.7	26.5	14.7	29.4	8.8	6.9	3.9	39.2	0.0	4.9
	石畑地区	165	25.5	15.8	46.7	14.5	23.0	28.5	5.5	14.5	14.5	14.5	6.7	32.1	0.6	7.3
	箱根ヶ崎地区	445	32.1	15.5	44.7	22.5	13.5	27.9	9.4	18.9	8.8	11.7	4.7	38.4	1.8	4.5
	長岡地区	206	23.3	13.1	42.2	17.5	15.5	28.6	13.6	15.5	7.8	12.1	4.4	41.7	0.0	6.8
	元狭山地区	280	28.2	14.3	41.1	15.7	11.4	31.8	7.5	18.9	9.3	9.3	5.0	41.8	1.4	7.5
	武蔵野地区	277	27.4	14.8	37.2	23.1	16.2	32.9	9.0	16.6	9.7	11.2	9.0	35.4	1.4	5.4

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(7) 産業振興の重点



全体結果

産業振興の重点については、「情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成」が 32.4%と最も多くなっている。

次いで、「既存の商店や商店街の振興」が 29.2%、「地域の物産や土産品などの開発・振興」が 28.8%、「新たな企業用地の確保と企業の誘致」が 25.3%と続いている。

属性別

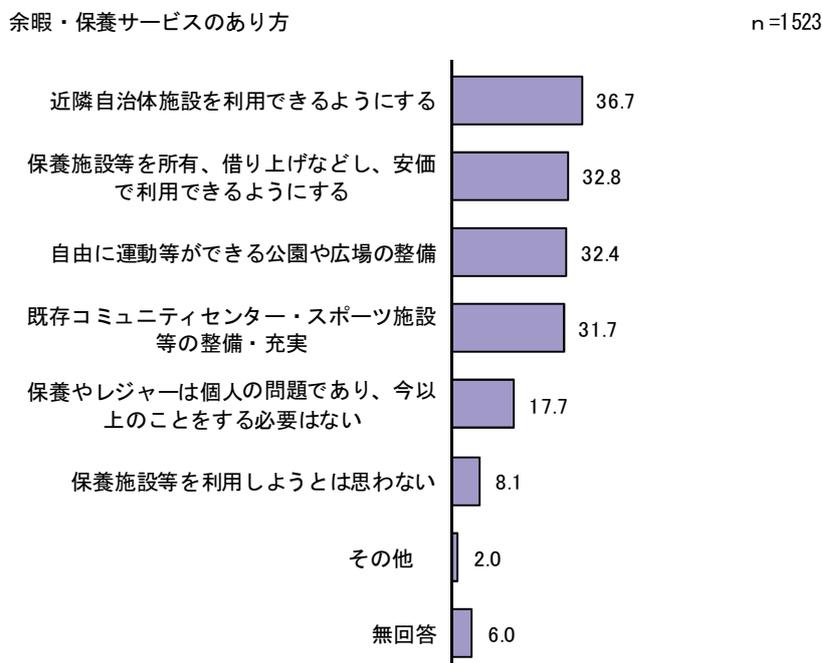
職業別では、概ねそれぞれの職業に関する項目への回答が多くなっており、商業・サービス業（自営）では「既存の商店や商店街の振興」が、農業では「地域の物産や土産品などの開発・振興」、「農業の振興」及び「新規作物の導入による産地化」が、工業（自営）では「既存の企業（工業）の振興」が、それぞれ他の職業の回答者に比べ多い。

区分		回答者数	既存の企業（工業）の振興	新たな企業用地の確保と企業の誘致	情報、福祉、教育など新たな産業の誘致、育成	既存の商店や商店街の振興	観光・レジャー産業の振興	地域の物産や土産品などの開発・振興	農業の振興	新規作物の導入による産地化	融資や助成制度の充実	起業やコミュニティビジネス等への支援	その他	無回答
全体		1523	20.0	25.3	32.4	29.2	18.9	28.8	20.7	8.1	15.9	16.1	1.6	8.8
職業別	農業	19	10.5	21.1	21.1	15.8	15.8	36.8	57.9	15.8	15.8	10.5	0.0	15.8
	工業(自営)	48	33.3	16.7	25.0	27.1	16.7	29.2	20.8	6.3	18.8	12.5	2.1	12.5
	商業・サービス業(自営)	52	26.9	32.7	28.8	36.5	21.2	23.1	21.2	9.6	17.3	13.5	1.9	5.8
	会社・団体役員	36	38.9	30.6	27.8	25.0	27.8	16.7	19.4	2.8	22.2	27.8	0.0	5.6
	会社員・公務員・団体職員	345	22.3	29.0	33.0	28.7	21.4	26.7	21.7	10.4	15.4	14.5	1.4	3.2
	自由業	24	4.2	12.5	25.0	37.5	16.7	45.8	20.8	8.3	20.8	25.0	4.2	12.5
	学生	35	25.7	17.1	40.0	37.1	20.0	34.3	28.6	2.9	11.4	14.3	0.0	0.0
	派遣社員・アルバイト・パート	279	22.6	24.0	34.8	26.2	22.2	26.5	17.9	5.4	15.8	16.5	1.8	5.7
	専業主婦・主夫	255	12.9	24.3	30.2	32.5	17.3	29.4	26.3	7.5	16.5	15.7	1.6	9.8
	無職	336	17.3	24.7	34.5	26.8	13.7	32.4	15.8	9.5	12.5	18.5	1.2	15.5
	その他	45	15.6	26.7	40.0	37.8	22.2	35.6	13.3	13.3	26.7	8.9	4.4	6.7

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(8) 余暇・保養サービスのありかた

問 16 町民の皆様のゆとりある生活を支えるため、余暇の活用や保養の増進について、瑞穂町はどのようなサービスを提供すればよいと思いますか。次の中からお考えに近いと思われるものを2つ以内で選び、その番号を○で囲んでください



全体結果

余暇・保養サービスのありかたについては、「近隣自治体施設を町民も利用できるようにする」が36.7%と最も多くなっている。

次いで、「保養・宿泊・レジャー施設等を所有、借り上げあるいは割引契約し、町民が安価で利用できるようにする」が32.8%、「自由に運動や軽スポーツができる公園や広場を町内に整備する」が32.4%、「今あるコミュニティセンター・スポーツ施設等の整備や充実を図る」が31.7%と続いている。

属性別

性別では、「自由に運動や軽スポーツができる公園や広場の整備」及び「保養やレジャーは個人の問題であり、今以上のことをする必要はない」に対する女性の回答に比べ男性の回答が多い。

年齢別では、「自由に運動や軽スポーツができる公園や広場の整備」に対して29歳以下の回答割合が多い。

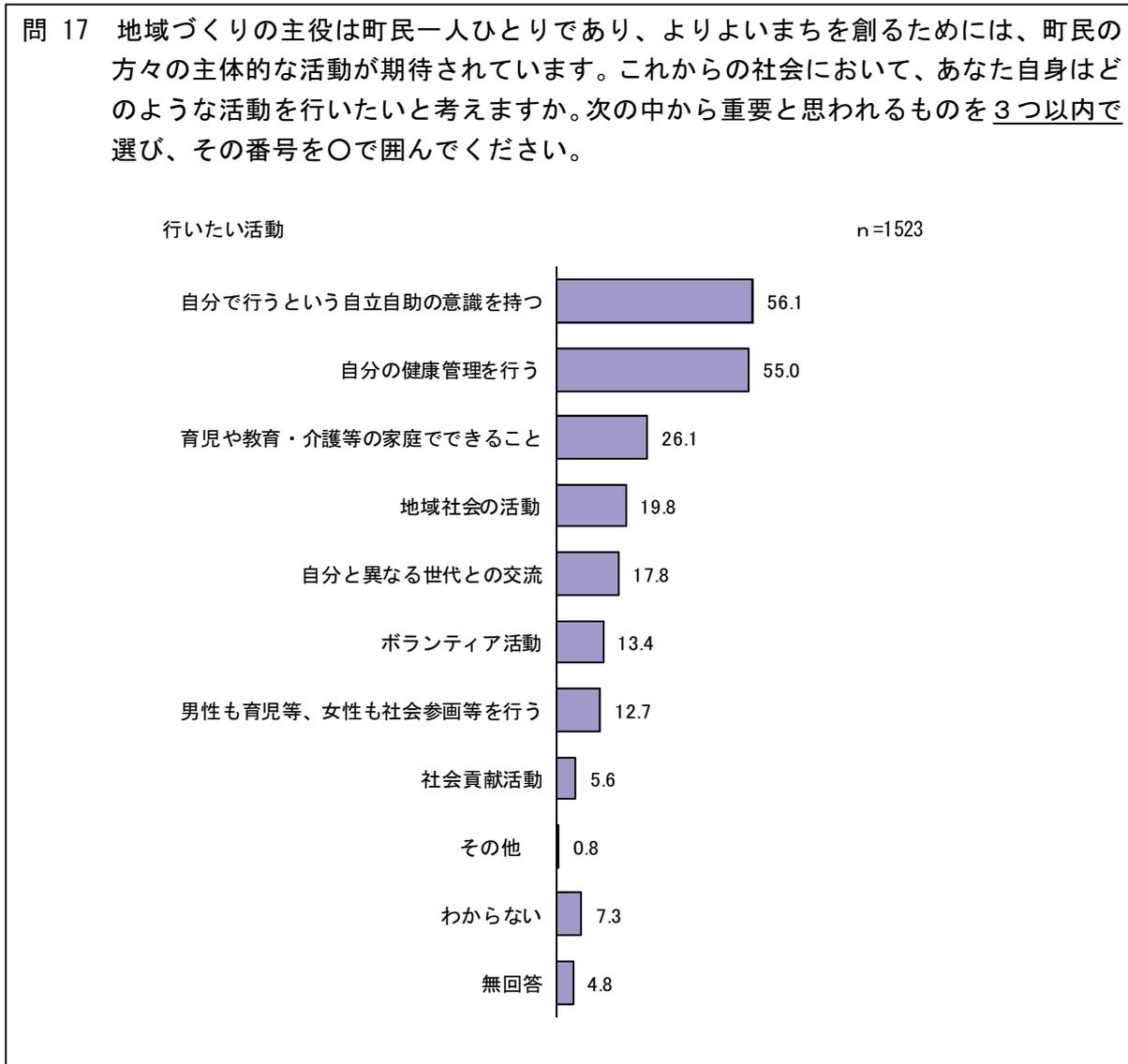
なお、「保養・宿泊・レジャー施設等を町が所有、借り上げあるいは割引契約し、町民が安価で利用できるようにする」への回答は、各年齢層ともに2割から3割を超える。

区分		回答者数	保養施設等を所有、借り上げなどし、安価で利用できるようにする	近隣自治体施設を利用できるようにする	保養施設等を利用しようとは思わない	保養やレジャーは個人の問題であり、今以上のことをする必要はない	自由に運動等ができる公園や広場の整備	既存コミュニティセンター・スポーツ施設等の整備・充実	その他	無回答
性別	男	650	31.1	35.7	8.3	20.2	35.2	30.3	1.7	5.1
	女	768	34.2	37.1	7.3	15.9	30.6	32.9	2.2	6.0
年齢別	18～19歳	18	38.9	22.2	5.6	16.7	44.4	33.3	0.0	0.0
	20～29歳	92	31.5	28.3	6.5	13.0	40.2	33.7	0.0	4.3
	30～39歳	151	32.5	37.1	6.6	13.2	33.8	39.1	2.0	2.0
	40～49歳	226	32.3	38.9	9.7	16.4	33.2	31.9	1.8	3.1
	50～54歳	103	26.2	36.9	7.8	14.6	34.0	32.0	4.9	3.9
	55～59歳	107	29.9	34.6	6.5	28.0	28.0	29.0	1.9	4.7
	60～64歳	182	33.0	41.2	7.1	22.5	35.7	28.6	3.3	5.5
	65～69歳	201	29.9	41.3	7.5	16.9	32.3	30.3	1.0	6.5
	70～74歳	158	35.4	26.6	8.2	20.9	33.5	37.3	1.9	5.7
	75～79歳	135	39.3	39.3	11.1	17.0	25.9	25.9	0.7	12.6
80歳以上	106	34.9	38.7	6.6	14.2	24.5	27.4	1.9	12.3	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

4 行政と町民の役割などについて

(1) 行いたい活動



全体結果

これからの社会において、自分自身が行いたい活動については、「自分のできることは自分で行うという自立自助の意識を持つ」が56.1%、「食生活や生活リズム、運動などに配慮し、自分の健康管理を行う」が55.0%と特に多くなっている。

やや離れて「育児や教育、介護など、家庭でできることをしっかりと行う」が26.1%、「地域社会の活動（町内会・自治会など）に積極的に交流する」が19.8%と続いている。

属性別

性別では、「育児や教育、介護など、家庭でできることをしっかりと行う」に対する女性の回答割合が男性に比べ多い一方で、「ボランティア活動に積極的に参加する」や「社会貢献活動（NPO活動など）に積極的に参加する」及び「食生活や生活リズム、運動などに配慮し、自分の健康管理を行う」への回答割合は男性が多い。

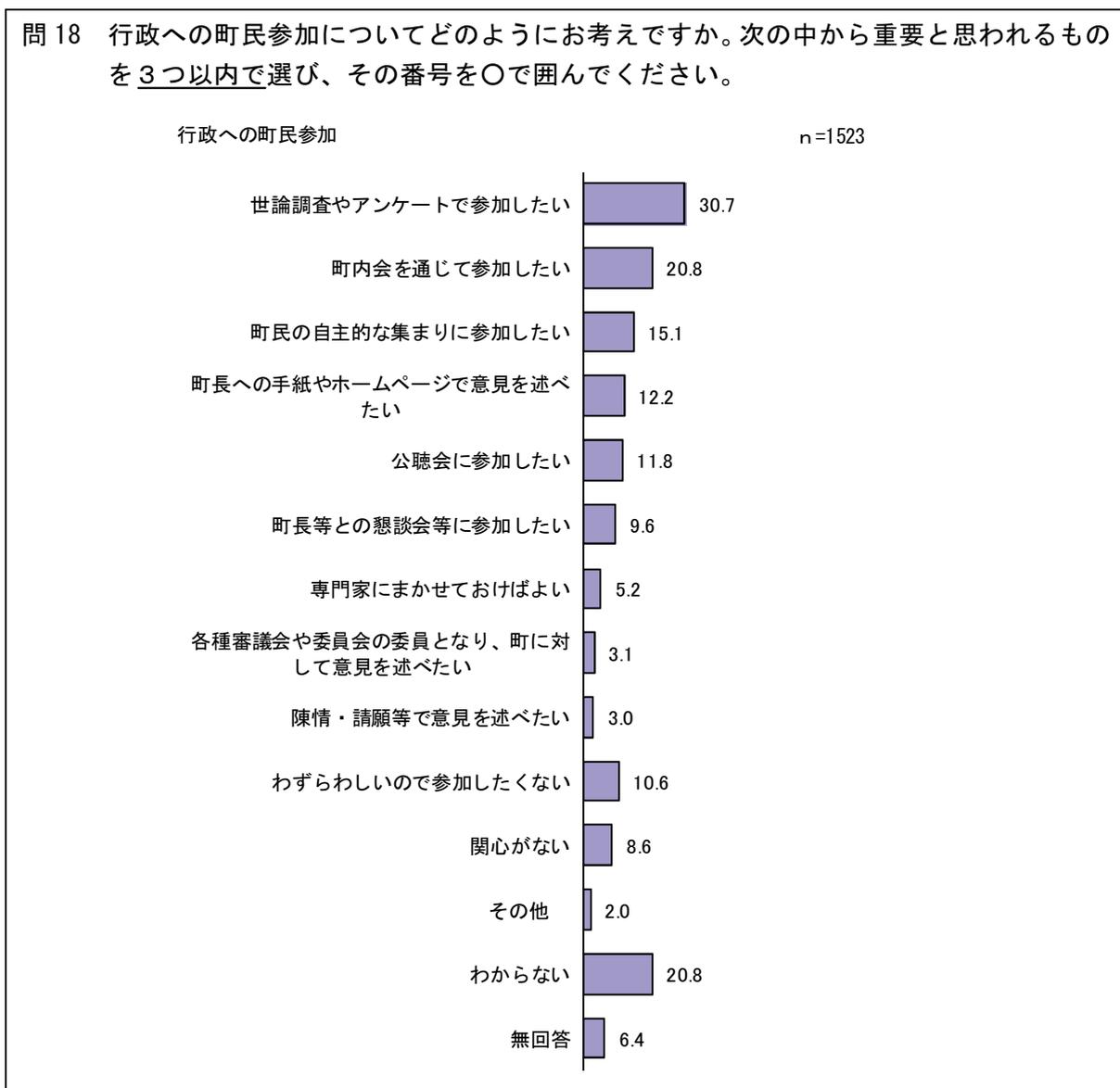
年齢別では、55歳以上で「自分のできることは自分で行うという自立自助の意識を持つ」と「食生活や生活リズム、運動などに配慮し、自分の健康管理を行う」への回答割合が多い。20歳代～40歳代では「育児や教育、介護など、家庭でできることをしっかりと行う」が多い。

なお、「地域社会の活動（町内会・自治会など）に積極的に参加する」は、50歳代まで概ね年齢層が上がるにつれ上昇し、それ以降は減少する傾向にある。

区分		回答者数	ボランティア活動	地域社会の活動	社会貢献活動	自分と異なる世代との交流	育児や教育・介護等の家庭でできること	男性も育児等、女性も社会参画等を行う	自分で行うという自立自助の意識を持つ	自分の健康管理を行う	その他	わからない	無回答
全体		1523	13.4	19.8	5.6	17.8	26.1	12.7	56.1	55.0	0.8	7.3	4.8
性別	男	650	14.2	22.3	7.2	15.8	19.8	11.1	57.4	58.2	0.8	7.7	4.6
	女	768	12.8	17.2	4.3	18.5	32.7	13.3	55.2	53.1	0.8	6.9	4.2
年齢別	18～19歳	18	27.8	11.1	5.6	44.4	27.8	16.7	50.0	27.8	0.0	0.0	5.6
	20～29歳	92	15.2	10.9	6.5	18.5	32.6	23.9	35.9	43.5	1.1	14.1	2.2
	30～39歳	151	9.3	16.6	8.6	23.2	38.4	21.9	37.1	45.0	0.7	10.6	0.7
	40～49歳	226	11.1	23.5	6.6	19.0	35.0	11.9	44.7	48.2	1.3	6.2	0.9
	50～54歳	103	17.5	26.2	6.8	15.5	23.3	14.6	45.6	41.7	1.0	6.8	4.9
	55～59歳	107	14.0	22.4	3.7	15.0	24.3	7.5	65.4	65.4	0.0	5.6	3.7
	60～64歳	182	16.5	23.1	7.1	19.2	28.0	8.2	61.5	59.3	1.1	6.0	3.3
	65～69歳	201	14.9	18.4	6.5	11.4	20.4	11.4	73.1	72.1	0.0	3.0	2.5
	70～74歳	158	14.6	21.5	3.2	13.9	21.5	7.6	66.5	58.2	0.0	8.9	8.2
	75～79歳	135	6.7	21.5	4.4	18.5	17.0	11.1	62.2	62.2	1.5	8.1	8.9
80歳以上	106	12.3	12.3	0.9	17.0	17.0	12.3	64.2	50.0	1.9	10.4	13.2	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(2) 行政への町民参加



全体結果

行政への町民参加については、「世論調査やアンケートで参加したい」が 30.7%と最も多くなっている。

次いで「町内会・自治会を通じて参加したい」が 20.8%、「町民の自主的な集まり(まちづくりのグループ等)があれば参加したい」が 15.1%と続いている。

属性別

性別では、「公聴会があれば参加したい」と「町長や議員との懇談会や対話集会があれば参加したい」に対する男性の回答割合が、女性に比べて多い。

年齢別では、50歳代以下で「世論調査やアンケートで参加したい」が多い。50歳代後半では「町内会・自治会を通じて参加したい」が多く、また60歳代後半～70歳代前半で「町民の自主的な集まり(まちづくりのグループ等)があれば参加したい」への回答も多くなっており、地域の人たちとのつながりを重視する傾向がうかがわれる。

職業別では、農業や工業及び商業・サービス業（自営）は、「町内会・自治会を通じて参加したい」、「公聴会があれば参加したい」及び「町民の自主的な集まり（まちづくりのグループ等）があれば参加したい」への回答割合が多い。

また、会社・団体役員及び会社員・公務員・団体職員では「世論調査やアンケートで参加したい」が多い。

区分		回答者数	町民の自主的な集まりに参加したい	公聴会に参加したい	各種審議会や委員会の委員となり、町に対して意見を述べたい	町長等との懇談会等に参加したい	町長への手紙やホームページで意見を述べたい	陳情・請願等で意見を述べたい	世論調査やアンケートで参加したい	専門家にまかせておけばよい	町内会を通じて参加したい	わずらわしいので参加したくない	関心がない	その他	わからない	無回答
全体		1523	15.1	11.8	3.1	9.6	12.2	3.0	30.7	5.2	20.8	10.6	8.6	2.0	20.8	6.4
性別	男	650	15.4	15.1	4.0	12.2	12.8	3.5	31.8	5.4	20.0	11.5	8.9	1.8	20.0	6.5
	女	768	12.9	8.7	1.8	6.3	11.8	2.2	30.9	4.7	21.7	9.1	8.1	2.3	22.5	5.3
年齢別	18～19歳	18	11.1	0.0	0.0	5.6	5.6	5.6	44.4	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	22.2	5.6
	20～29歳	92	9.8	4.3	2.2	3.3	16.3	6.5	38.0	3.3	8.7	15.2	8.7	2.2	23.9	1.1
	30～39歳	151	10.6	7.3	6.6	9.9	13.2	4.6	31.1	4.0	16.6	9.9	9.3	4.0	21.2	1.3
	40～49歳	226	5.8	6.6	3.5	5.8	16.8	2.2	32.7	2.7	17.7	10.6	13.3	2.2	22.6	2.2
	50～54歳	103	19.4	14.6	2.9	6.8	16.5	1.0	31.1	5.8	19.4	8.7	6.8	1.0	14.6	6.8
	55～59歳	107	11.2	9.3	2.8	5.6	23.4	1.9	33.6	6.5	21.5	13.1	12.1	0.9	18.7	4.7
	60～64歳	182	19.2	17.0	3.3	10.4	13.2	4.9	35.7	3.8	28.6	12.1	7.1	1.1	15.9	4.4
	65～69歳	201	18.9	16.9	1.0	12.9	8.5	2.0	32.3	4.5	21.9	9.5	6.0	2.0	19.4	5.0
	70～74歳	158	18.4	13.3	1.3	11.4	8.2	1.9	24.1	8.2	26.6	9.5	7.0	1.9	22.2	11.4
	75～79歳	135	20.7	16.3	2.2	13.3	5.2	1.5	23.0	8.1	27.4	8.1	5.2	1.5	26.7	12.6
80歳以上	106	11.3	9.4	3.8	12.3	3.8	4.7	20.8	7.5	17.9	9.4	10.4	3.8	28.3	15.1	
職業別	農業	19	36.8	31.6	0.0	21.1	10.5	5.3	26.3	15.8	47.4	5.3	0.0	0.0	10.5	5.3
	工業(自営)	48	12.5	8.3	0.0	12.5	10.4	4.2	20.8	2.1	22.9	14.6	14.6	2.1	33.3	4.2
	商業・サービス業(自営)	52	17.3	23.1	5.8	11.5	21.2	3.8	30.8	3.8	25.0	7.7	9.6	0.0	9.6	7.7
	会社・団体役員	36	13.9	11.1	5.6	8.3	13.9	5.6	33.3	11.1	25.0	11.1	8.3	2.8	13.9	5.6
	会社員・公務員・団体職員	345	15.1	10.1	4.6	8.7	16.8	2.6	37.1	4.1	18.0	11.3	8.7	1.7	17.4	4.1
	自由業	24	8.3	16.7	4.2	16.7	20.8	4.2	12.5	8.3	8.3	12.5	12.5	8.3	29.2	8.3
	学生	35	11.4	5.7	2.9	8.6	14.3	11.4	42.9	5.7	8.6	11.4	11.4	0.0	20.0	2.9
	派遣社員・アルバイト・パート	279	10.4	10.4	2.5	5.7	15.8	2.5	31.2	3.6	21.9	9.7	5.7	2.2	20.4	3.2
	専業主婦・主夫	255	12.5	8.2	1.6	5.9	6.3	3.1	31.0	5.9	24.7	10.2	8.6	2.4	25.9	5.9
	無職	336	17.9	14.3	2.1	13.4	7.7	1.8	26.5	6.3	19.0	9.8	9.8	1.8	22.0	11.0
その他	45	22.2	15.6	4.4	11.1	8.9	4.4	28.9	6.7	22.2	13.3	4.4	4.4	28.9	6.7	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

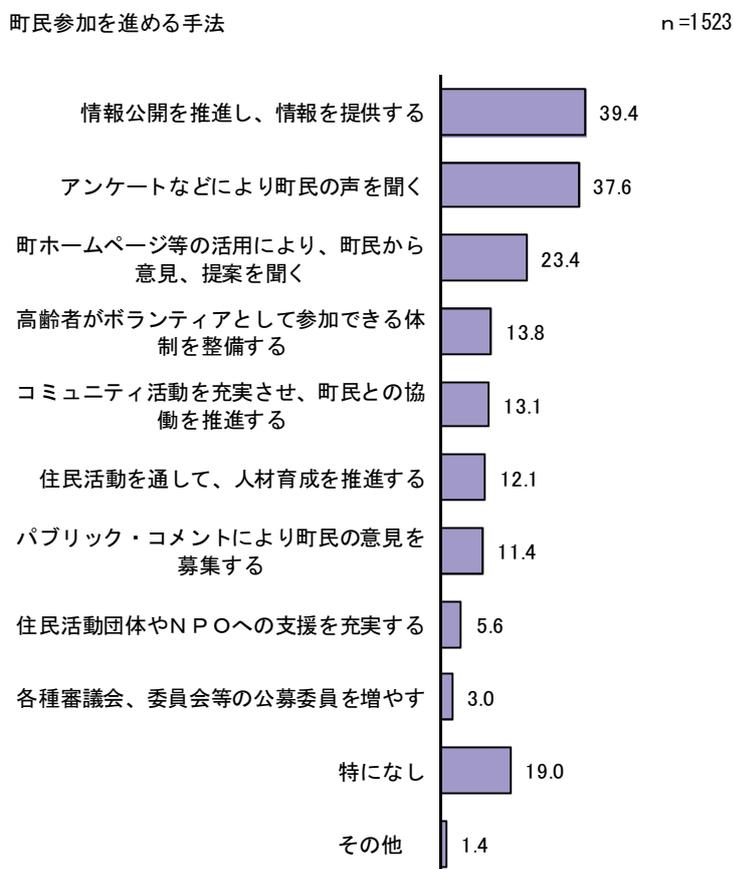
居住年数別では、2年～9年までは「世論調査やアンケートで参加したい」への回答割合が多い。
 なお、居住年数が長くなるにつれ「町内会・自治会を通じて参加したい」「町民の自主的な集まり（まちづくりのグループ等）があれば参加したい」が多くなる傾向が見られる。

区分		回答者数	町民の自主的な集まりに参加したい	公聴会に参加したい	各種審議会や委員会の委員となり、町に対して意見を述べたい	町長等との懇談会等に参加したい	町長への手紙やホームページで意見を述べたい	陳情・請願等で意見を述べたい	世論調査やアンケートで参加したい	専門家にまかせておけばよい	町内会を通じて参加したい	わずらわしいので参加したくない	関心がない	その他	わからない	無回答
全体		1523	15.1	11.8	3.1	9.6	12.2	3.0	30.7	5.2	20.8	10.6	8.6	2.0	20.8	6.4
居住年数別	2年未満	48	16.7	6.3	0.0	2.1	16.7	4.2	37.5	2.1	16.7	4.2	12.5	2.1	29.2	0.0
	2～4年	54	13.0	1.9	1.9	5.6	9.3	5.6	37.0	7.4	14.8	9.3	14.8	1.9	22.2	1.9
	5～9年	76	9.2	9.2	2.6	9.2	15.8	1.3	39.5	5.3	15.8	7.9	11.8	2.6	19.7	5.3
	10～19年	243	11.1	10.7	4.5	6.6	14.0	3.3	32.9	3.7	15.6	9.5	9.5	2.9	22.6	4.9
	20～29年	286	14.0	11.9	1.7	7.7	13.3	2.1	29.7	4.5	19.6	11.9	5.2	2.1	21.7	5.6
	30年以上	776	16.6	12.9	3.2	11.7	10.8	3.0	29.1	5.9	24.5	11.0	8.5	1.7	19.8	7.6

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(3) 町民参加を進める手法

問 19 行政への町民参加をより一層進めるための手法として、あなたはどのようなことが必要とお考えですか。次の中から重要と思われるものを3つ以内で選び、その番号を○で囲んでください。



全体結果

行政への町民参加をより一層進める手法についてどのように考えるかたずねたところ、「情報公開を推進し、情報を提供する」が 39.4%と最も多くなっている。

次いで「アンケートなどにより町民の声を聞く」が 37.6%、やや離れて「町のホームページ等の活用により、町民から意見、提案を聞く」が 23.4%と続いている。

属性別

「性別」では、「情報公開を推進し、情報を提供する」に対する男性の回答割合が、女性に比べて多い。

年齢別では、各年齢層ともに「情報公開を推進し、情報を提供する」に対する回答が多いが、特に60歳代では5割前後となっている。

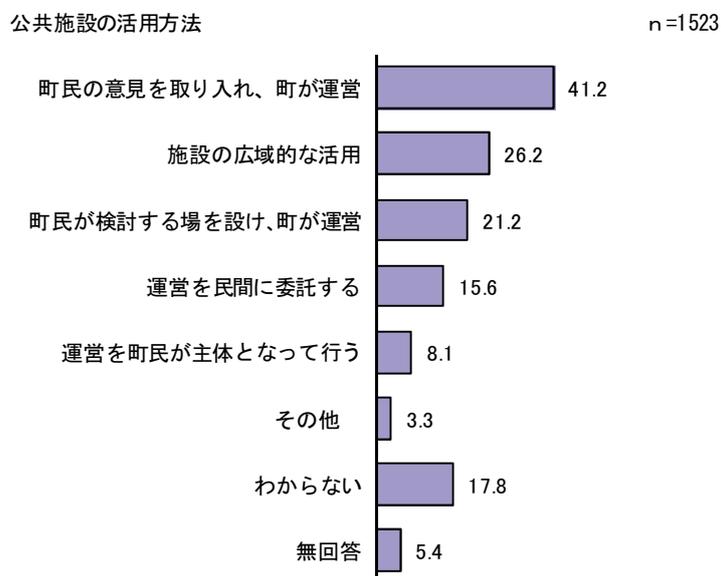
18～49歳では、「アンケートなどにより町民の声を聞く」が4割を超え、「町ホームページ等の活用により、町民から意見、提案を聞く」への回答割合も多い。

区分		回答者数	情報公開を推進し、情報を提供する	アンケートなどにより町民の声を聞く	町ホームページ等の活用により、町民から意見、提案を聞く	各種審議会、委員会等の公募委員を増やす	住民活動団体やNPOへの支援を充実する	コミュニティ活動を充実させ、町民との協働を推進する	パブリックコメントにより町民の意見を募集する	住民活動を通して、人材育成を推進する	高齢者がボランティアとして参加できる体制を整備する	特になし	その他	無回答
全体		1523	39.4	37.6	23.4	3.0	5.6	13.1	11.4	12.1	13.8	19.0	1.4	7.0
性別	男	650	44.6	38.5	25.2	4.2	5.8	12.8	13.7	12.5	13.8	16.3	1.5	6.5
	女	768	35.8	37.0	22.4	1.8	5.5	12.2	9.8	11.1	13.7	21.1	1.4	6.4
年齢別	18～19歳	18	33.3	44.4	16.7	0.0	5.6	16.7	16.7	11.1	16.7	5.6	5.6	5.6
	20～29歳	92	31.5	47.8	30.4	1.1	4.3	10.9	19.6	6.5	13.0	15.2	2.2	2.2
	30～39歳	151	33.1	41.7	27.2	2.0	5.3	13.9	11.9	10.6	11.9	17.9	2.0	0.7
	40～49歳	226	39.8	42.0	28.8	1.3	5.3	9.3	15.0	10.6	10.6	19.9	1.3	1.8
	50～54歳	103	43.7	30.1	29.1	4.9	9.7	12.6	9.7	6.8	18.4	15.5	1.0	4.9
	55～59歳	107	43.9	37.4	31.8	2.8	5.6	16.8	11.2	10.3	15.9	15.9	0.0	3.7
	60～64歳	182	51.1	37.9	27.5	3.8	4.4	14.3	12.6	12.1	17.6	14.8	0.5	5.5
	65～69歳	201	47.8	31.8	16.9	4.0	5.5	11.4	10.9	14.9	17.9	17.9	3.0	5.5
	70～74歳	158	35.4	38.6	22.8	4.4	4.4	15.2	7.6	15.2	11.4	19.6	0.0	13.3
	75～79歳	135	33.3	36.3	15.6	3.7	5.2	15.6	8.9	17.8	9.6	26.7	1.5	13.3
80歳以上	106	28.3	30.2	8.5	0.9	7.5	9.4	4.7	10.4	10.4	30.2	1.9	18.9	

※網かけは全体より5ポイント以上多いもの。

(4) 公共施設の活用方法

問 20 瑞穂町には、町民会館やコミュニティーセンター、スカイホール、図書館、中央体育館、町営グラウンドなど、町民の皆様が利用するさまざまな公共施設があります。これらの施設をより効果的かつ効率的に活用するにあたり、重視すべき点は何ですか。次の中から重要と思われるものを2つ以内で選び、その番号を○で囲んでください。



全体結果

公共施設をより効果的かつ効率的に活用するにあたり重視すべき点については、「施設の利用方法について町民の意見を十分に取り入れ、町が運営する」が41.2%と最も多くなっている。

次いで、「施設を町外の方にも利用しやすいようにして広域的に活用する」が26.2%、「施設の利用方法について町民が検討する場を設け、その結果を尊重し町が運営する」が21.2%と続いている。

属性別

年齢別では、各年齢層ともに「施設の利用方法について町民の意見を十分に取り入れ、町が運営する」への回答割合が多い。

一方、「施設の運営を民間に委託する」は、18～19歳及び55～59歳での回答割合が多い。

居住年数別でも、「施設の利用方法について町民の意見を十分に取り入れ、町が運営する」への回答割合が多い。

区分		回答者数	町民の意見を取り入れ、町が運営	町民が検討する場を設け、町が運営	運営を町民が主体となつて行う	運営を民間に委託する	施設の広域的な活用	その他	わからない	無回答
全体		1523	41.2	21.2	8.1	15.6	26.2	3.3	17.8	5.4
性別	男	650	39.4	23.1	8.2	21.4	26.5	2.5	15.5	4.8
	女	768	43.6	19.4	7.4	10.4	26.8	3.9	19.3	4.8
年齢別	18～19歳	18	66.7	11.1	0.0	11.1	33.3	0.0	5.6	5.6
	20～29歳	92	50.0	17.4	4.3	10.9	19.6	2.2	18.5	2.2
	30～39歳	151	35.8	15.2	9.3	18.5	27.2	4.0	16.6	0.7
	40～49歳	226	38.1	18.1	4.4	17.7	24.3	5.3	20.4	0.9
	50～54歳	103	44.7	25.2	3.9	19.4	18.4	7.8	9.7	3.9
	55～59歳	107	41.1	21.5	5.6	18.7	37.4	0.9	14.0	3.7
	60～64歳	182	47.3	29.1	9.9	15.9	26.9	3.3	14.3	4.4
	65～69歳	201	49.8	20.9	9.5	16.4	29.9	3.0	14.9	2.5
	70～74歳	158	34.2	24.7	11.4	15.2	27.2	1.3	22.2	9.5
	75～79歳	135	35.6	22.2	12.6	8.1	30.4	3.0	21.5	11.1
80歳以上	106	36.8	17.9	9.4	11.3	17.0	0.9	26.4	17.0	
居住年数別	2年未満	48	47.9	16.7	4.2	12.5	29.2	0.0	20.8	2.1
	2～4年	54	35.2	11.1	3.7	14.8	20.4	0.0	27.8	1.9
	5～9年	76	47.4	14.5	3.9	15.8	28.9	1.3	17.1	3.9
	10～19年	243	37.9	17.3	6.6	18.1	26.3	5.3	19.3	3.7
	20～29年	286	44.1	21.0	7.0	12.2	28.3	5.2	13.6	4.9
	30年以上	776	41.8	23.8	9.9	16.1	25.5	2.4	17.9	6.2
居住地区別	殿ヶ谷地区	102	38.2	20.6	6.9	9.8	28.4	4.9	19.6	7.8
	石畑地区	165	44.8	20.0	9.1	12.1	23.0	2.4	18.2	7.9
	箱根ヶ崎地区	445	42.5	22.7	9.0	19.6	28.1	2.0	14.8	4.5
	長岡地区	206	39.8	21.8	7.8	13.6	27.2	2.4	18.0	3.9
	元狭山地区	280	41.8	20.7	8.2	16.8	23.9	4.3	16.8	5.0
	武蔵野地区	277	41.9	19.5	7.2	13.0	27.4	4.7	20.9	4.3

